

授 業 概 要

科目名	社会学	担当者	齋藤 真智子	年次	2	時間 単位	30時間 /1単位
学修内容	①現代社会で起こっていることを社会的に理解できるよう、理論的視点を養う。ニュースを見て、その背景がわかるような授業を目指す。 ②「近代」をキーワードに、個人、人間関係、家族、集団、国家、グローバリゼーションという各レベルを分析する思考力を養う。						
到達目標	社会的な視点での人間理解の基礎的能力を養う。特に家族関係、集団力学、ジェンダーの問題等の切り口から、社会的な存在である人間についての理解を深める。						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：講義 「近代」とはどういう時代か						
	第2回：講義 日本の近代化						
	第3回：講義 自我論						
	第4回：講義 社会的相互行為						
	第5回：講義 近代家族の成立①						
	第6回：講義 近代家族の成立②						
	第7回：講義 ジェンダー論						
	第8回：講義 少子高齢化社会						
	第9回：講義 介護と育児						
	第10回：講義 家族とライフコース						
	第11回：講義 集団						
	第12回：講義 国家						
	第13回：講義 グローバリゼーション						
	第14回：講義 まとめ						
	第15回：試験 筆記試験						
成績評価	・方法	筆記試験					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事前課題・留意点	・事前課題						
	・留意点	テキストを使用するが、毎回レジュメを配布する。テキスト内容以外の物も扱う。レジュメ主体となるので、授業に集中し、レジュメを忘れないこと。					
テキスト・必要物品	・テキスト	ナーシング・グラフィカ 「健康支援と社会保障 ① 健康と社会・生活」			メディカ出版		
	・必要物品	授業に際し、配布したレジュメを忘れないこと。					
参考文献							

授 業 概 要

科目名	病態生理演習	担当者	後藤 治美	年次	2	間 単 時 位	15時間 1単位
学 修 内 容	<p>本科目では、基礎看護実習Ⅱで受け持った患者の事例をもとに、プロジェクト学習という学習方法を用いて学習する。</p> <p>これまでに学んだ形態機能学、病態生理治療論、基礎看護学などの知識を活用し、実習で受け持った患者の理解を深め、不足していた知識について学習する。さらに、このプロセスから、患者理解に役立つ知識の活用の仕方とはどのようにすることなのか？何をどのように思考し、学習することが必要なのか？という、知識の活用法、学習法を学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習で担当した患者の苦痛や生活上の困難と、病態生理との関連が明確になる。 ② 学習のプロセスで得られた知識について理解する。 ③ 患者に行われていた看護、または必要と考える看護の根拠が明らかになる。 ④ 患者の理解を深め、看護の根拠を明確にするための知識の活用法を理解する。 ⑤ 人の身体のメカニズムや病態生理を理解する上での自己の課題を明確にする。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス(講義の進行・評価法) VISION→GOALを明確に！ 2. GOAL達成のために計画を練ろう！ 3. 実習メンバーと、VISION→GOALをみんなで共有 4. プレゼンテーション大会 ①（ポートフォリオを使って） 5. GOALに向かってさらに追求しよう！ 6. プレゼンテーション大会 ②（凝縮ポートフォリオを使って） 7. プレゼンテーション大会 ②（凝縮ポートフォリオを使って） 8. さらに学びをまとめ、GOALに辿り着こう！ 9. 自分の成長を確認しよう！ 						講義 個人ワーク グループプレゼンテーション * 学生からの他者評価 15点 個人ワーク 全体プレゼンテーション(6・7回) * 学生からの他者評価 15点 * 凝縮ポートフォリオ提出 30点 * 成長確認シート提出 20点 ※ 全体を通しての参加姿勢 20点 上記の全てを合計し100点満点としま
成 績 評 価	<p>・方法 プレゼンテーションの他者評価15点・凝縮ポートフォリオ30点・成長確認20点・参加姿勢20点</p> <p>・基準 評価のためのルーブリックに沿って評価します。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 1年次の春季休暇中に、VISION→GOALを考える。(GOALシートに記入)</p> <p>・留意点 自分の中で「これって何故だろう？」と問いを見出し、試行錯誤しながら自分の目的(GOAL)に向かって学習を進めていきます。簡単に他者に頼って答えを求めるのではなく、自分で目的を持って考え、解決していく学習力、思考力が身につくように努力しましょう。また、他者の学習内容や考えを見聞きする機会を多く設けています。他者から学ぶことも意識して授業に臨んでください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進, 医学書院. ・増田敦子 著: 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・高木永子 監修: 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社. <p>・必要物品</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基礎看護実習Ⅱの実習ファイル(ポートフォリオ) ② A4サイズのポケット式ファイル(20ポケット以上のもの) ③ 付箋(大きさ・カラー複数用意) 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木敏恵 著: プロジェクト学習の基本と手法, 教育出版. ・鈴木敏恵 著: ポートフォリオとプロジェクト学習, 医学書院. 						

看護過程実習 I

はじめに

看護過程実習 I は基礎看護実習の次の段階の実習として位置づけられている。看護過程実習 I、II と段階的に積み重ねをしていく中で、看護のアセスメント力や基礎的な実践力を養い、3年次に実施する領域別実習に向けての基礎的能力の習得を目指す。

看護過程実習 I では、成人期あるいは老年期にある人を対象に、看護過程の思考を用いて看護実践を行う。深い患者理解とアセスメントに基づいて、患者が必要としている看護を見出す。基礎看護で学んできた日常生活援助を、より患者に適した援助として根拠を持って実践していく能力を養い、看護過程実習 II へつなげていく。

1. 実習目的

患者理解を深め、患者が必要としている看護を導き出すために、情報のアセスメントを行う能力を身につける。

2. 実習目標

- 1) 生理的側面、心理・社会的側面の情報をアセスメントし、患者が置かれている状況と、患者に影響しているものを理解する。
- 2) アセスメントに基づいて看護上の問題を見出す。
- 3) 日々の援助を、看護過程の思考を用いて根拠を持って実践する。
- 4) 患者を、尊厳を持った存在として認識し、人間関係を深める努力をする。
- 5) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

90時間…2単位

オリエンテーション1.5時間

7.5時間×11日

6時間×1日

4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標 1. 生理的側面、心理・社会的側面の情報をアセスメントし、患者が置かれている状況と、患者に影響しているものを理解する。

学習活動	学習内容と学習方法
① 発達段階、健康障害の種類、健康の段階、ライフプロセスの特徴について把握し、患者の全体像を捉える。	・病態・疾患・検査・治療・発達課題(成人期や老年期の身体・心理・社会的特長)などを事前学習し、不足しているところは追加学習する。 ・学習したことを活用しながら、発達段階・健康障害の種類・健康の段階・ライフプロセスの特徴の4つの視点で、患者の全体像を表現する。知識を基に一般的なことだけを表現するのではなく、関わりを通して患者の理解を深め、情報を活用しながら患者の個性を反映して全体像の用紙に表現する。患者の理解が深まる中で修正を繰り返し、患者を統合された全体として捉えて全体像を表現する。
② 生理的適応様式(各カテゴリー)の視点を持ち、患者の生理的適応様式における行動(反応)を捉える。	・観察・測定・問診など適切な看護技術を活用して、患者の訴えや症状など生理的適応様式における行動(反応)を捉える。 ・情報は目的をもって収集し、ありのままの事実を捉える。捉えた情報を、情報の整理・分析用紙や一日の振り返り記録に表現する。その際、自己の思い込みと混同しないように意識し、情報と判断・分析を区別して記載する。 ・S(主観的)情報とO(客観的)情報を区別して記載する。 ・生理的適応様式・心理社会的適応様式の内容を理解し、各様式・カテゴリーの視点を持って情報を整理する。単にアセスメントガイドに合わせるのではなく、情報の持つ意味を考え、各様式・カテゴリーごとに情報の整理・分析用紙に記載する。不足している情報は意図的に収集し追加する。
③ 心理社会的適応様式の視点を持ち、患者の心理社会的適応様式における行動(反応)を捉える。	・患者の訴え、表情、行動などから、心理社会的適応様式における行動(反応)をとらえる。情報と判断・分析の区別をしつつ、情報の持つ意味を考え、心理・社会面の3様式に情報を整理して表現する。
④ 知識を活用し、患者の状況が適応行動か非効果的行動かの判断を	・今まで学習してきた知識を活用し、形態機能や一般的な病態のメカニズムと実際の患者の情報・データを照らし合わせ、患者に現在起きている事を正しく捉える ・生理的適応様式は、基準値や形態機能の知識と情報を照らし合わせ、適応行動か非

する。	効果的行動かを判断し、情報の整理・分析用紙の第1段階(行動のアセスメント)の判断と根拠に表現する。 ・心理社会的適応様式は、入院前の生活や役割の変化、患者の価値観の理解に基づき適応行動か非効果的行動かの判断をする。
⑤行動に影響を与えている刺激と行動との関連を知識を用いて明らかにする。	・今まで学習してきた知識と実際の患者の情報を活用し、第1段階(行動のアセスメント)と第2段階(刺激のアセスメント)の関連を分析し、情報の整理・分析用紙に表現する。単に情報を時系列に列挙するのではなく、現在の状態がなぜ起きているのか、刺激(関連因子)との関係性を表現する。
⑥適応行動にも注目し強みも捉えた上で、今後の成り行きを予測する。	・非効果的行動ばかりに注目するのではなく、適応行動も捉え、看護目標の達成や問題解決へ向けて、患者の強みは何かを捉える。患者の強みを活かせるように考え、情報の整理・分析用紙に表現する。 ・現在の患者の状態を把握した上で、今後起こりうることを予測し、分析の中で表現する。非効果的行動が継続するとどうなるか、知識を活用しながら妥当性のある成り行きを考える。
実習目標2. アセスメントに基づいて看護上の問題を見出す。	
学習活動	学習内容と学習方法
①関連因子を明確にして看護上の問題を表現する。	・実習目標1の学習活動を通して見出された、患者が抱える生活上の困難や健康上の問題、最適健康を目指す上での強みを整理し、情報の整理・分析用紙の看護上の問題に表現する。 ・アセスメントに基づき、患者にとって何が看護上の問題となっているのかを、その問題の関連因子となっているものと合わせて表現する。
②看護上の問題を解決していくための看護の方向性を考える。	・看護上の問題の解決へ向けて、どのような介入によって適応に向かうことができるかを考え、看護の方向性を見出し情報の整理・分析用紙に表現する。看護介入によってどのような変化が期待できるかも考える。 ・問題の関連因子を意識し、知識を活用し根拠に基づいた、妥当性のある看護の方向性を考える。 ・問題ばかりに注目するのではなく、最適健康を目指す上での患者の強みにも注目し、強みを活かした関わりを考える。
③病態の機序や生理・心理・社会面のつながり、今後予測されること、看護上の問題、必要としている看護を関連図に表現する。	・情報と知識とを結び付け、病態のメカニズム、現在の患者に起こっている症状と疾患のつながり、今後予測されることを関連図に表現する。その際、経時的変化を追った表現ではなく、機序を意識して矢印を書く。 ・病態だけを捉えるのではなく、生活者として患者を捉える視点を持ち、病態が患者の生活や思い等にどのように関連しているかを考え、関連図に表現する。 ・実際に起きていることと、起きる可能性のあることを区別して表現する。 ・看護上の問題やそれに対して必要となる看護介入についても表現する。
④看護過程の思考に基づいた情報の整理・分析や、全体像、関連図を活用し、患者の全体を捉える。	・分析において、各適応様式・カテゴリーの視点からずれることなく患者を捉え、偏りや過不足なく情報の整理・分析用紙に表現する。 ・生理的適応様式と心理社会的適応様式の関連、各カテゴリー間の関連を意識し、カテゴリー間の重複やつながりを整理して表現する。 ・各適応様式・カテゴリーの分析、全体像・関連図を基に、患者の全体を俯瞰して捉える。それぞれの記録用紙で整理・表現してきた視点や気づきを連動させ、統合された全体としての患者の理解を深める。看護過程の思考を用いて患者を理解していくとはどういうことか、自分なりの言葉で総括や面接で表現する。 ・関連図カンファレンスを通して、自分自身の思考を整理する。受け持ち患者のことを説明する中で、何がわかっていないか、ということに自ら気づき、その後の病態理解をさらに深めていく。 ・関連図カンファレンスでは、自分が受け持ちしている患者のことグループメンバーにも知ってもらえるようなプレゼンテーションをし、互いに情報を共有することで、その後のカンファレンスなどに活かしていく。
実習目標3. 日々の援助を、看護過程の思考を用いて根拠を持って実践する。	
学習活動	学習内容と学習方法
①安全・安楽を考慮し、患者の反応を捉えながら援助を実施する。	・援助の目的や根拠、基本的手順、留意点を明確にし、安全・安楽、自律・自立、適時性、個別性を考慮して援助の計画をする。 ・基礎看護技術で学んだ技術の安全・安楽の視点を整理し、事前に看護技術を自己学習しておく。加えて、援助計画の根拠は、一般的な根拠だけでなく患者にとっての援助の根拠を明確にする。援助の原理原則に加え、患者にとっての安全・安楽を考慮し、実施に際しても状況によって援助方法を工夫する。 ・事前に援助の実施に必要な観察点を明確にする。 ・実施する看護援助に必要な時間を考え、患者の体調やスケジュールに支障がないかを確認する。 ・教員・指導者と連絡をとり、安全な状況で看護援助ができるように指導を受ける。 ・実施の際には患者の意思を確認し、援助前の患者の状態、援助中の患者の反応を客

	<p>観的にとらえて毎日の記録に表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施中でも自分の立てた計画にこだわりすぎず、反応に合わせて実施内容を調整していく。
②日々の評価を活かした援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施した援助の結果を、患者の反応から客観的に振り返り、何が良かったのか、悪かったのかを具体的に毎日の記録の中で明確にする。 ・毎日の援助計画は、日々の結果・評価に基づき、次の援助の計画につなげていく。前日までの評価を活かし、患者に合わせたより良い看護援助とするため、日々工夫していく。
③実施したことを適切に確認・報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・報告すべき人、時間などについて確認する。 ・チームの一員としての自覚を持ち、測定、観察、実施したことについて、適切な時間・人に必要な内容を報告・連絡・相談する。 ・情報の意味を考えて看護師と共有すべき情報も報告する。
④看護過程展開と実際の看護援助とのつながりを意識し、根拠を持って日々の援助を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の看護実践の結果を、患者の反応及び客観的データなどから捉え、それらが、看護過程展開につながりを持っているということを意識しながら記録用紙に表現する。 ・看護過程展開を通して見出された患者の抱える看護上の問題や看護の方向性と、関連性を持って日々の看護援助を計画する。 ・根拠に基づいた看護援助をどのように導き出すか、体験を通して自分なりの言葉で表現する。 ・関連図カンファレンスを通して、自分自身の思考を整理する。受け持ち患者のことを説明する中で、何がわかっていないか、ということに自ら気づき、その後の病態理解をさらに深めていく。 ・関連図カンファレンスでは、自分が受け持ちしている患者のことグループメンバーにも知ってもらえるようなプレゼンテーションをし、互いに情報を共有することで、その後のカンファレンスなどに活かしていく。
実習目標4. 患者を、尊厳を持った存在として認識し、人間関係を深める努力をする。	
学習活動	学習内容と学習方法
①尊厳をもった存在である患者を理解しようとする姿勢を続ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者を一人の人間として尊重した関わりをする。 ・常に患者に関心を向け続け、患者の思いを理解しようと傾聴したり、自らが理解したことを表現し、理解を確認したりすることで、患者の理解を深める。患者の理解が、主観的な自己満足で終わらないようにする。 ・患者がどうなりたいと望んでいるのかを含め、患者の価値観を理解するように努め、その理解に関わりに反映し、患者の尊厳を守って関わる姿勢を持つ。
②関わりにおける自分自身を客観的に振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の反応をもとに、自己の関わりが相手に及ぼす影響や、自己のあり様を客観的に振り返り、関わりにおける自己の傾向や課題を明確にする。 ・関わりが一方的で自己中心になってしまっていないか、主観的な自己満足で終わってしまっていないか、相手に状況に合わせて必要な調整ができていないか、意識して振り返る。 ・自己を振り返り、自分を見つめ直すことができるようにプロセスレコードを活用する。 ・プロセスレコードから、自己の表情や行動に気づき自己洞察を深める。 ・プロセスレコードを通して、患者の捉え直しをし、その後の関わりに活かしていく。
③患者との人間関係を深めるために必要な努力を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者と看護師との関係のあり方について考え、どのように信頼関係を形成していったらよいか考える。 ・目標4ー学習活動①・②を踏まえ、関わりにおける目標や課題を見出し、患者と人間関係を深めるために必要な行動変容ができるよう努力し続ける。
実習目標5. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として求められている規範を意識した行動をとる。 ・身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるのかを考え行動する。 ・記録物の提出方法や提出期限を守る。やむを得ず、時間や約束を守ることができない場合は、なぜできないのかを自分自身で考え、責任を持って行動修正をする。
②あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として、知り得た個人情報については、守秘義務を守る。 ・援助の実施は、十分な説明をして、同意を得た上で行う。 ・受け持ち患者に対する責任と自覚を持ち、患者の理解を深めるための努力をし続ける。
③主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な準備を整えて実習に臨む。 ・主体的に問題解決行動がとれるよう、様々な疑問について追求し、理解が深められるようにする。 ・自分から積極的にアドバイスを求める行動をする。アドバイスされたことは放置せず活かしていく。 ・単にアドバイスを求めるだけでなく、自らの考えを述べる。 ・事実に基づく自分の考えと、アドバイスされたことを区別して、表現する。 ・グループメンバー内での自分の役割を意識した行動をとる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、協力・調整をする。 ・学生間で相談してカンファレンステーマの選定をする。 ・カンファレンスでは人の意見を聴くだけでなく、聴いて考えたことを発言し、テーマを意識して内容を掘り下げる。
④より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・知り得た情報をチームで共有する必要性を理解し、報告・連絡・相談する。 ・多職種の連携の実際を知り、職種間の連携における看護師の役割について考える。
⑤より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活習慣を整え、自己の体調管理を心がける。 ・自身の心理面についても安定を心がけ、看護学生としての自己のあり様を調整しながら実習を継続する。 ・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、適切な行動をとる。 ・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。
⑥常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習や学びを振り返り、自己の課題・目標を明確にする。 ・実習目的・目標とともに、自己の課題・目標を常に意識し、主体的に取り組む。 ・日々の振り返りを丁寧に積み重ね、次につながるよう、具体的な行動を考え取り組む。 ・実習中適宜実習目的・目標に対する自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的な取り組みを見出す。

6. 実習の動き

1) 実習期間

2019年7月8日から7月24日までの12日間

2) 実習予定

月日	日	時間数	実習内容	カンファレンス	
7/8(月)	1	7.5	病院挨拶・病棟挨拶 面接: 各自の課題と目標について実習指導者、担当教員と面接を通して明確にする。 病棟オリエンテーション・物品確認 患者決定・挨拶 情報収集	↑ 病態説明↓	
7/9(火)	2	7.5	看護援助の見学、看護実践		学生間で決めた テーマカンファレンス
7/10(水)	3	7.5	看護援助の見学、看護実践		学生間で決めた テーマカンファレンス
7/11(木)	4	6 15:30まで	学びの整理日 AM: 関連図カンファレンス① PM: ルーブリックを用いて中間評価、学習整理		
7/12(金)	5	7.5	看護実践	プロセスレコードカンファレンス (教員司会)	
7/16(火)	6	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
7/17(水)	7	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
7/18(木)	8	7.5	学びの整理日 AM: 関連図カンファレンス② PM: ルーブリックを用いて中間評価、学習整理		
7/19(金)	9	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
7/22(月)	10	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
7/23(火)	11	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
7/24(水)	12	7.5	病院挨拶・病棟挨拶・患者挨拶 面接: 実習での看護を振り返り、自己の目標達成と今後の課題について実習指導者、担当教員と面接を通して明らかにする。 学びの発表会: 経験したことを具体的に示しながら、学びを共有・明確化していく。 物品確認、清掃	学びの発表会	

3)実習内容

成人期あるいは老年期にある人を1名受け持ち、看護過程展開技術を活用して看護実践を行う。

7. 看護技術の到達項目と学び方

- ・既習の基礎看護技術を基に患者に適した方法で日常生活援助を行う。
- ・事前学習を行い、安全・安楽の視点を明確にしたうえで指導者または教員にアドバイスを受けて、必ず指導者または教員とともに行う。
- ・看護技術経験録を参照し、自己の技術の経験や到達度と実習病棟の特徴を踏まえ、習得可能な看護技術に対しては指導者・教員に連絡を取り、事前学習を行ったうえで取り組むこともよい。

8. 提出物一覧

1)以下の順序で記録物をファイルし、インデックスを添付し定時に提出する。

- ①評価表
- ②ルーブリック
- ③総括表
- ④全体像
- ⑤関連図
- ⑥情報の整理・分析用紙
- ⑦プロセスレコード
- ⑧1日の振り返り記録

2)実習中ポートフォリオ

看護過程実習Ⅱ

はじめに

看護過程実習Ⅱは、看護過程実習Ⅰでの学びを踏まえ、また、看護過程実習Ⅰ、Ⅱと段階的に積み重ねをしていく中で、看護のアセスメント力や基本的な援助技術を用いて、各論実習に向けての基礎的能力の習得を目指す。

看護過程実習Ⅱでは、成人期あるいは老年期にある人を対象に、看護過程の一連すべてを展開してその人への理解を深め、健康に応じた看護実践能力を養う。看護過程実習Ⅰで学んだアセスメントの視点をより発展させて、看護計画・実施・結果・評価のプロセスを通して個別性ある援助へとつながることを理解する。そして、看護過程の思考を用いた実践力を養い、3年次の領域別実習につなげていく。

1. 実習目的

患者の看護上の問題をとらえ、一連の看護過程を展開し、問題解決に向けた看護援助を実施する能力を身につける。

2. 実習目標

- 1) 生理的側面、心理・社会的側面の情報をアセスメントし、患者の看護上の問題を把握する。
- 2) 患者の看護上の問題を解決するための、実施可能な看護計画を立案し、結果に基づいて評価する。
- 3) 日々変化する患者の状況を捉え、根拠を持って看護を実践する。
- 4) 患者を、尊厳を持った存在として認識し、人間関係を深め、看護者としての自己のありようを振り返る。
- 5) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

90時間…2単位

オリエンテーション1.5時間

7.5時間×11日

6時間×1日

4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 生理的側面、心理・社会的側面の情報をアセスメントし、患者の看護上の問題を把握する。	
学習活動	学習内容と学習方法
①情報の意味を考え、患者の全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none">・ 患者の訴え、症状を観察・測定・問診など適切な看護技術を活用し目的を持って意図的に適切な情報収集をする。・ 情報をありのままの現象として正しく捉え、様式・カテゴリー別に整理する。・ 生理的適応様式は、基準値や形態機能の知識と情報を照らし合わせ、適応行動か非効果的行動かを判断し、情報の整理・分析用紙の第1段階(行動のアセスメント)判断と根拠に表現する。・ 心理社会的適応様式は、入院前の生活や役割の変化、患者の価値観の理解に基づき適応行動か非効果的行動かの判断をする。・ 分析において、各適応様式・カテゴリーの視点からずれることなく患者を捉え、偏りや過不足なく情報の整理・分析用紙に表現する。・ 生理的適応様式と心理社会的適応様式の関連、各カテゴリー間の関連を意識し、カテゴリー間の重複やつながりを整理して情報の整理・分析用紙を表現する。・ 各適応様式・カテゴリーの分析、全体像・関連図を基に、患者の全体を俯瞰して捉える。それぞれの記録用紙で整理・表現してきた視点や気づきを連動させ、統合された全体としての患者の理解を深める。
②情報と知識を照らし合わせ、患者の現在の状態とそこに影響しているものをアセスメントする。	<ul style="list-style-type: none">・ 今まで学習してきた知識と実際の患者の情報を活用し、第1段階(行動のアセスメント)と第2段階(刺激のアセスメント)の関連を分析し、情報の整理・分析用紙に表現する。単に情報を時系列に列挙するのではなく、現在の状態がなぜ起きているのか、刺激(関連因子)との関係性を表現する。・ 非効果的行動ばかりに注目するのではなく、適応行動も捉え、看護目標の達成や問題解決へ向けて、患者の強みは何かを捉える。患者の強みを活かせるように考え、情報の整理・分析用紙に表現する。・ 現在の患者の状態を把握した上で、今後起こりうることを予測し、分析の中で表現する。非効果的行動が継続するとどうなるか、知識を活用しながら妥当性のある成り行きを

	<p>考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識、科学的根拠に基づいて成り行きを推測し、潜在的問題も表現する。看護介入によって今後どのような成り行きをたどるか妥当性のある予測をし、また、看護介入がなされない場合はどのような成り行きとなるかも考える。
③関連因子を明確にした上で看護上の問題を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントに基づき、患者にとって何が看護上の問題となっているのかを、その問題の関連因子となっているものと合わせて表現する。
④様式・カテゴリー間の関連を考え、看護上の問題を整理・統合し、優先順位を判断する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽出されたすべての看護上の問題を、問題の整理・統合用紙に表現し、関連因子や問題同士の関係性を考え、看護上の問題を整理統合する。 ・ 基本的欲求や患者の目標、健康の段階などを考えて、優先順位の根拠を明確にする。
実習目標2. 患者の看護上の問題を解決するための、実施可能な看護計画を立案し、結果に基づいて評価する。	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の理解に基づき、一貫性を持って看護目標を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の整理・分析や全体像、関連図を活用し、患者を全体として捉え、長期目標・短期目標を表現する。自分だけが考える目標ではなく、患者の価値観や目指す生活を意識して、個別性ある目標を考える。 ・ 長期目標は3～6ヵ月後の生活を考え設定し、短期目標は実習期間中に到達可能な目標を設定する。
②実施可能な看護計画を具体的に立案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践可能な看護上の問題を選択し、看護計画を立案する。 ・ 選択した看護上の問題の関連因子を意識し、問題の解決をイメージして、妥当性のある到達可能な期待される結果を表現する。 ・ 期待される結果は、評価することも考え、指標となる言動や数字などを明示し具体的に表現する。 ・ 患者の理解に基づき、個別性ある解決策をO-P-T-P-E-Pに整理して表現する。 ・ 誰もが実施可能な計画になっているように5W1Hを意識し、具体的に表現する。
③期待される結果と実践の結果を照らし合わせ、その達成度や解決策が妥当であるかを評価し修正する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ O-Pで観察したことや客観的データおよび援助を実践しての患者の反応をありのままの事実として捉え、結果に表現する。 ・ 結果をもとに、期待される結果の達成度を評価する。 ・ 達成度に看護実践がどのように影響したか、解決策(O-P-T-P-E-P)の内容の妥当性を評価する。 ・ 評価に基づいて、看護計画の内容を終了するのか、継続するのか、あるいは追加や変更が必要なのかを判断し、修正し次の看護実践につなげる。 ・ 看護目標(長期目標・短期目標)とのつながりを意識し、一貫性を持って看護計画の評価をする。
実習目標3. 日々変化する患者の状況を捉え、根拠を持って看護を実践する。	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者理解に基づき、個別性ある援助の目的・計画を明確にし実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護技術で学んだ技術の安全・安楽の視点を整理し、事前に看護技術を自己学習しておく。 ・ 日々実施する一つ一つの援助は、その時点までの患者理解に基づき、一般的な計画ではなく患者にとっての援助の目的を明確にし、個別性ある援助を計画する。援助の目的、根拠、手順、留意点を明確にし、患者に合わせた安全・安楽、自律・自立、適時性を考慮して計画し実施する。 ・ 実施する看護援助に必要な時間を考え、患者の体調やスケジュールに支障がないかを確認する。 ・ 教員・指導者と連絡をとり、安全な状況で看護援助を実施する。
②患者の反応を捉えながら援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施の際には患者の意思を確認し、援助前の患者の状態、援助中の患者の反応を客観的にとらえて毎日の記録に表現する。 ・ 事前に援助の実施に必要な観察点を明確にする。 ・ 実施中でも自分の立てた計画にこだわりすぎず、反応に合わせて実施内容を調整していく。
③日々の評価を活かした援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施した援助の結果を、患者の反応から客観的に振り返り、何が良かったのか、悪かったのかを具体的に毎日の記録の中で明確にする。 ・ 毎日の援助計画は、日々の結果・評価に基づき、次の援助の計画につなげていく。前日までの評価を活かし、患者に合わせたより良い看護援助とするため、日々工夫していく。
④実施したことを適切に確認・報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション時に報告すべき人、時間などについて確認する。 ・ チームの一員としての自覚を持ち、測定、観察、実施したことについて、適切な時間・人に必要な内容を報告・連絡・相談する。 ・ 情報の意味を考えて看護師と共有すべき情報も報告する。
⑤看護過程展開と実際の看護援助とのつながりを意識し、根拠を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の看護実践の結果を、患者の反応及び客観的データなどから捉え、それらが、看護過程展開につながりを持っているということを意識しながら記録用紙に表現する。 ・ 看護過程展開を通して見出された看護上の問題や看護の方向性との関連性を持って

て日々の援助を計画する。	日々の看護援助を計画する。
実習目標4. 患者を尊厳を持った存在として認識し、人間関係を深め、看護者としての自己のありようを振り返る。	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の価値観を尊重し、誠意を持って関わる。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者を一人の人間として尊重した関わりをする。 ・常に患者に関心を向け続け、患者の思いを理解しようと傾聴したり、自らが理解したことを表現し、理解を確認したりすることで、患者の理解を深める。患者の理解が、主観的な自己満足で終わらないようにする。 ・患者がどうなりたいと望んでいるのかを含め、患者の価値観を理解するように努め、その理解を関わりに反映し、患者の尊厳を守って関わる姿勢を持つ。 ・患者と看護師との関係のあり方について考え、どのように信頼関係を形成していったらよいか考え、必要な行動変容ができるよう努力し続ける。
②常に患者と自分との人間関係のあり方を考え、自己の姿勢を修正する努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施したこと、患者の反応、その時の自分自身をひとつひとつ丁寧に振り返り、それらを毎日の記録に表現する。 ・実習の中で、課題と目標に対する中間評価を重ね、自己の学びを明確にし、さらなる課題解決・目標達成へとつなげていく。 ・実習目的・目標に対しては、ルーブリックの自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的取り組みを見出す。 ・自己評価を通して、自身の学びや課題と向き合うとともに、自己満足で終わることの無いよう、他者(教員や指導者)評価と照らし合わせ、客観性を持って振り返る。 ・毎日の記録や実習の総括、教員・指導者との対話を通して、実習での学びや自己の成長を表現し、今後へ向けたさらなる課題や目標を明確にする。
実習目標5. 看護学生として自らの行動に責任を持ち、看護倫理に基づいた行動をとる。	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として求められている規範を意識した行動をとる。 ・身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるのかを考え行動する。 ・記録物の提出方法や提出期限を守る。やむを得ず、時間や約束を守ることができない場合は、なぜできないのかを自分自身で考え、責任を持って行動修正をする。
②あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として、知り得た個人情報については、守秘義務を守る。 ・援助の実施は、十分な説明をして、同意を得た上で行う。 ・患者の必要としている看護が、実習時間に限らず継続して提供されるよう考える。 ・受け持ち患者に対する責任と自覚を持ち、最善の看護実践へ向けて努力し続ける。
③主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な準備を整えて実習に臨む。 ・主体的に問題解決行動がとれるよう、様々な疑問について追求し、理解が深められるようにする。 ・自分から積極的にアドバイスを求める行動をする。アドバイスされたことは放置せず活かしていく。 ・単にアドバイスを求めるだけでなく、自らの考えを述べる。 ・事実に基づく自分の考えと、助言されたことを区別して、表現する。 ・グループメンバー内での自分の役割を意識した行動をとる。 ・グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、協力・調整をする。 ・学生間で相談してカンファレンステーマの選定をする。 ・カンファレンスでは人の意見を聴くだけでなく、聴いて考えたことを発言し、テーマを意識して内容を掘り下げる。
④より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・知り得た情報をチームで共有する必要性を理解し、報告・連絡・相談する。 ・多職種連携の実際を知り、職種間の連携における看護師の役割を理解し、必要に応じて情報共有など働きかける。
⑤より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活習慣を整え、自己の体調管理を心がける。 ・自身の心理面についても安定を心がけ、看護学生としての自己のあり様を調整しながら実習を継続する。 ・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、予防接種を含めた適切な行動をとる。 ・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。
⑥常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習や学びを振り返り、自己の課題・目標を明確にする。 ・実習目的・目標とともに、自己の課題・目標を常に意識し、主体的に取り組む。 ・日々の振り返りを丁寧に積み重ね、次につながるよう、具体的な行動を考え取り組む。 ・実習中適宜実習目的・目標に対する自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的取り組みを見出す。

6. 実習の動き

1) 実習期間

2020年2月10日から2月27日までの12日間。

月日	日	時間数	実習内容	カンファレンス	
2/10(月)	1	7.5	病院挨拶・病棟挨拶 面接: 各自の課題と目標について実習指導者、担当教員と面接を通して明確にする。 病棟オリエンテーション・物品確認 患者決定・挨拶 情報収集	↑ 病態説明 ↓	
2/12(水)	2	7.5	看護援助の見学、看護実践		学生間で決めた テーマカンファレンス
2/13(木)	3	7.5	看護援助の見学、看護実践		学生間で決めた テーマカンファレンス
2/14(金)	4	6 15:30まで	学びの整理日 AM: 関連図カンファレンス PM: ルーブリックを用いて中間評価、学習整理		
2/17(月)	5	7.5	看護実践	プロセスレコードカンファレンス (教員司会)	
2/18(火)	6	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
2/19(水)	7	7.5	看護実践	看護上の問題に優先順位を 判断する時に必要な要素 (教員司会)	
2/20(木)	8	7.5	学びの整理日 AM: 優先順位の判断と看護計画立案発表 PM: ルーブリックを用いて中間評価、学習整理		
2/21(金)	9	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
2/25(火)	10	7.5	看護実践	看護計画の実施、評価、修 正のプロセスにおいて必要 なもの(教員司会)	
2/26(水)	11	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス	
2/27(木)	12	7.5	病院挨拶・病棟挨拶・患者挨拶 面接: 実習での看護を振り返り、自己の目標達成と今後の 課題について実習指導者、担当教員と面接を通して明ら かにする。 学びの発表会: 経験したことを具体的に示しながら、学びを 共有・明確化していく。 物品確認、清掃	学びの発表会	

2) 実習予定

3) 実習内容

成人期あるいは老年期にある人を1名受け持ち、看護過程展開技術を活用して看護実践を行う。

7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術経験録を参照し、自己の技術の経験や到達度と実習病棟の特徴を踏まえ、どのような看護技術を計画的に習得するかを面接で話し合っ決めて。

8. 提出物一覧

1) 以下の順序で記録物をファイルし、インデックスを添付し定時に提出する。

- | | |
|--------------|------------------|
| ① 評価表 | ⑧ 看護上の問題一覧(優先順位) |
| ② ルーブリック | ⑨ 看護計画 |
| ③ 総括表 | ⑩ プロセスレコード |
| ④ 全体像 | ⑪ 1日の振り返り記録 |
| ⑤ 関連図 | |
| ⑥ 情報の整理・分析用紙 | |
| ⑦ 問題の整理・統合 | |

2) 実習中ポートフォリオ

老年看護実習 I

はじめに

高齢者が、健やかに心豊かに快適な老後を送るためには高齢者のそれぞれの最適健康レベルを目指して看護が提供されることが必要である。高齢者が生活する場は健康レベルに応じて様々であり、それぞれの場の特性を理解し看護の役割・機能を発揮していくことが重要となる。

介護施設サービスにおける看護は、高齢者が介護や支援を利用しながら最適健康の中でその人らしく生き生きと日常生活が送れるよう、他職種との連携をはかりながら看護の専門性を発揮し、健康管理をしていくことである。

老年看護実習 I では、介護保険制度における施設サービスを利用する高齢者との関わりを通して、老年期にある人の特徴を理解し、高齢者に起こりやすい健康障害を意識しながら、生活の質を維持・向上できるような日常生活援助について学ぶ。そして介護施設サービスにおける看護の役割を学ぶ。さらにこの実習を通して自己の老年観を深めていく。

1. 実習目的

地域で生活する又は施設で生活する高齢者の特徴を理解し、健康の維持や自立のための基本的な日常生活の援助について学ぶ。また介護保険制度における施設サービスでの介護や支援のあり方、さらに看護の役割について学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 老年期にある人の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴について理解する。
- 2) 高齢者に起こりやすい健康障害を意識しながら、健康を維持・向上するための日常生活の援助を理解する。
- 3) 介護保険制度における施設サービスの特徴を知る。
- 4) 高齢者の気持ちを思いやり尊重した態度で関わる。
- 5) 自己の老年観を表現する。
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。

3. 時間数と単位数

90時間 2単位

4. 対象学生

2年次

5. 実習内容

※利用者:施設サービスを利用している高齢者

目標1. 老年期にある人の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴について理解する。	
学習活動	学習内容・方法
① 加齢に伴う身体的特徴をとらえる。	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者の特性や老化の特徴を既習の知識をふまえながら観察し、具体的に一日の振り返り用紙に表す。・ 加齢に伴う形態機能変化を、日常生活動作から観察する。(栄養・排泄・防御・活動休息・感覚・神経について観察、記録する)・ 老化現象だけでなく、健康障害との関連も考えながら観察する。・ 利用者とのコミュニケーション、援助を通して高齢者の知的機能(記憶力、理解力)、感覚機能の変化を観察する。・ 観察した形態機能の変化から、一人一人の違いを考える。・ 客観的観察や生活指導員、介護士、看護師などからも情報を得る。
② 加齢に伴う心理的特徴をとらえる。	<ul style="list-style-type: none">・ 言語的コミュニケーションだけでなく利用者の表情や行動を観察して、利用者の思いを考える。・ 利用者とのコミュニケーションをとりながら自分の身体面・社会面の変化に対する思いを傾聴し、その人の老いに対する思い、考えを知る。・ 日常生活の関わりから利用者の施設・在宅サービスを利用する思いを知る。・ 看護師、生活指導員、介護士との関わりや施設利用者同士の関わり、カルテからの情報を通して利用者の考え方、価値観を知る。・ カンファレンスにて、身体的変化・社会的変化が心理面にどのように影響しているのか理解する。
③ 加齢に伴う社会的特徴をとらえる。	<ul style="list-style-type: none">・ 日常生活やレクリエーションでの様子、スタッフや利用者同士との接し方を観察して、利用者の他者との関係の持ち方について考える。・ どのような人生を送り、どんな役割を担ってきた人であるのかを関わりや職員から知り、現在の社会的状況について考える。・ 利用者の現在の人格や態度は、今までの生活過程、職業経験、役割の変化、家庭状況、家族関係がどのように影響しているのかを理解する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービスでの送迎を通して、家族との関係を知る。
④ 加齢に伴う変化は統合されて表出されることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者とのかかわりや観察から捉えた加齢に伴う3側面の特徴が、互いにどのように関連しあっているのかを考える。 ・ 担当利用者の全体像をとらえながら「その人らしさ」は何かを考える。「その人らしさ」の構成要素を全体像に表現してみる。 ・ 高齢者の個別性と加齢変化について、カンファレンスで話し合う。
目標2. 高齢者に起こりやすい健康障害を意識しながら、健康を維持・向上するための日常生活の援助を理解する。	
学習活動	学習内容・方法
① 加齢により起こりやすい健康障害を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢による身体的変化が日常生活に与える影響について日常生活援助や利用者との関わりを通して考える。 ・ 利用者の日常生活行動から高齢者に起こりやすい健康障害(脱水・転倒・失禁・誤嚥・感染・便秘・下痢・睡眠障害・認知症)の根拠を理解する。 ・ 介護老人福祉施設(特養)で受け持つ利用者との身体面を栄養・排泄・防御・活動・休息・感覚・神経の視点から把握し、起こりやすい健康障害を『全体像』に表記する。特養では1人の利用者を担当する。 ・ ケアプランを見せてもらい、現在の健康障害について知る。 ・ 全体像に基づき担当する利用者の生活目標を記載する。
② 健康障害を予防する援助の実際を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事、排泄、入浴など日常生活の援助の中でどのような健康障害への予防の援助が行われているのかを見学や体験から知る。身体的特徴と関連させて健康障害の予防の援助の根拠を考える。 ・ 受け持ち利用者のケアプランを確認し、何故そう計画されているかを理解して自分の計画に活かす。 ・ レクリエーション、施設で行われている行事、慰問等あれば参加させていただき、利用者の反応を観察し、心身の機能の維持・向上を図る援助について学ぶ。 ・ 一つ一つの日常生活援助を振り返り、文献を活用して根拠を明確にする。「高齢者への日常生活援助の文献検討」に記録する。 ・ 明確にした日常生活援助の根拠を学内にてグループワークで他施設の学生と共有する。
③ 利用者の自立を考慮した援助方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の日常生活援助への関わりを見学し、利用者の意思・意欲を尊重した援助方法を学ぶ。 ・ 行われている日常生活援助に基づいて、学生が実施可能な援助に参加する。 ・ 施設で行われるレクリエーションに参加して、利用者の自立をどのように考慮しているかを考える。 ・ デイサービスの実習中にレクリエーションを計画・実施し、利用者の自立を考慮した援助方法だったか振り返る。
④ 利用者の安全・安楽に配慮した援助をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者へ援助を行うときには単独では行わず、必ず指導下で行う。 ・ 日常生活援助—機械浴・一般浴、義歯の手入れ、水分補給、車いす移動、移送、おむつ交換、歩行介助、食事介助、排泄介助・レクリエーションを経験して、指導を受けながら実際の援助をとおり、安全や安楽についての具体的な援助方法を学ぶ。 ・ 利用者との関わりで緊急を要することならば近くにいるスタッフにも声をかけて報告・相談する。 ・ デイサービスの実習中にレクリエーションを実施し、利用者の安全、安楽に配慮できていたか振り返る。
⑤ 利用者の反応を観察し、援助の結果をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主観的な反応と客観的な反応を合わせてとらえる。 ・ 積極的に声かけやスキンシップを通して利用者の反応を捉えていく。 ・ できるだけ具体的に場面を振り返り、実施後の結果を援助の目的にそってとらえて記録する。 ・ デイサービスの実習中にレクリエーションを実施し、利用者の反応、様子から目的が達成できたか振り返り、「レクリエーション記録」に記載する。
目標3. 介護保険制度における施設サービスの特徴を知り、看護の役割について理解する。	
学習活動	学習内容・方法
① 各施設の事業概要がわかる。通所介護事業所 介護老人福祉施設 介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度におけるサービスについて事前学習をする。 ・ 各施設のオリエンテーションの中で説明された内容(事業概要、施設の組織、施設の理念・目的、職員構成、施設の週間予定、日課、利用者の状況、安全性、構造上の特徴、ケアプラン)や質問から各施設の特徴を知る。 ・ 「各施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。
② 通所介護事業所(デイサービス)での看護活動の実際を知り、福祉施設の看護について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の看護活動—健康管理、病状の早期発見と予防、服薬管理、日常生活の援助、家族との連絡・相談の見学や援助への参加を通して、また利用者の反応を見てデイサービスでの看護の役割を学ぶ。 ・ 連絡ノートや送迎時の家族と看護師のコミュニケーションの場面から家族との連絡方法やどのような連絡が行われているのかについて学ぶ。 ・ 看護と介護の違いを実際の場面から学ぶ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションに参加し看護師の役割を学ぶ。 ・ デイサービスでの看護の役割について「施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。 ・ 多職種と連携を図る意味、連携を図る上での看護師の役割について考える。
③ 在宅で生活する利用者にとっての、デイサービスの果たす役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎時も含め利用者の1日の生活を観察し、サービス内容の実際を知る。 ・ 日常生活の援助や健康管理、レクリエーション場面での利用者の反応を観察し、利用者との関わる中でデイサービスを利用する理由や思いを知る。そして、利用者にとってデイサービスがどのような役割を果たしているのかを考え、「施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。
④ 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)での看護活動の実際を知り、福祉施設の看護について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師に同行し、実際の看護活動—健康管理(機会があれば病院受診の同行)、病状の早期発見と予防、服薬管理、診療の介助、日常生活の援助、家族との連絡・相談などの見学、体験をして、また利用者の反応を見て福祉施設の看護の役割を学ぶ。 ・ 看護と介護の違いを実際の場面から学ぶ。 ・ 受け持たせて頂く利用者のケアプランを確認して、介護の方針を知る。 ・ レクリエーションに参加し看護師の役割を学ぶ。 ・ 介護老人福祉施設の看護の役割について「施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。 ・ 多職種と連携を図る意味、連携を図る上での看護師の役割について考える。
⑤ 介護老人福祉施設で生活する利用者にとっての施設の果たす役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の1日の生活を観察し、サービス内容の実際を知る。 ・ 日常生活援助やレクリエーション場面での利用者の反応を観察し、日常の関わりの中で施設サービスを受ける利用者の思いを知る。そして、利用者にとって特養がどのような役割を果たしているのか考え、「施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。
⑥ 介護老人保健施設の看護活動の実際を見学し、老人保健施設の看護を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師に同行し、実際の看護活動—健康管理、病状の早期発見と予防、服薬管理、診療の補助、日常生活援助、施設でのリハビリテーション、家族との連絡・相談など—を見学したり援助へ参加して、老人保健施設の看護活動を知る。 ・ 介護老人保健施設の看護の役割について「施設の特徴と看護」記録用紙に記載する。
⑦ 介護老人保健施設で生活する利用者にとっての施設の果たす役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の生活を観察し、サービス内容の実際を知る。 ・ 日常生活援助や診療の補助、リハビリテーションを受ける利用者の反応を見て、施設サービスを受ける利用者の思いを傾聴していく。そして、利用者にとって老人保健施設がどのような役割をはたしているのか考え、「施設の特徴と看護の役割」記録用紙に記載する。
目標4. 高齢者の気持ちを思いやり、尊重した態度で関わる。	
学習活動	学習内容・方法
① 利用者に適したコミュニケーションをはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老化現象や健康障害(聴力障害、視力障害、言語障害、認知症など)からくるコミュニケーション障害に考慮してコミュニケーション方法を考える。 ・ 利用者のペースに合わせ、簡潔でわかりやすい言葉や非言語的コミュニケーションを取り入れて、その人に適した方法をとる。また、利用者の話を聴く姿勢を持つ。 ・ 会話の成立や利用者との関わりに疑問を持ったり、困ったりする時は、そのままにせず指導者にアドバイスをもらう。またはカンファレンスで話し合い、関わりに生かしていく。 ・ 職員の利用者への関わりから、利用者に適したコミュニケーション方法を学ぶ。 ・ 認知症の利用者とも積極的に関わり、その人に適したコミュニケーション方法を学ぶ。
② 利用者の人格を尊重した言動・態度をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の今までの生活過程や生活様式、価値観を尊重し、利用者の行動に否定的な態度で接しないで、その行動をなぜ起こすのか考えながら接する。 ・ 学習活動①と兼ねて考えていき、その場面に応じた利用者の行動を尊重した適切な言動、態度をとる。 ・ 老年期にある人を人生の先輩として敬う気持ちを態度や姿勢に表現する。
③ 認知症の利用者に対して尊厳を保つ関わり方を理解し表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の病態、関わり方を事前学習する。 ・ 認知症の利用者の反応をよく観察し、行動を理解する。 ・ 職員の関わりを観察し、認知症の利用者との関わり方を学習する。 ・ 認知症の利用者のこれまでの生活過程や生活様式、価値観を尊重した態度、姿勢について考える。 ・ 実際に認知症の利用者と関わり、尊厳を保つ関わり方の理解を深める。 ・ 認知症の利用者とのコミュニケーションの持ち方についてカンファレンスで話し合い、認知症の人の理解を深める。
目標5. 自己の老年観を表現する。	
学習活動	学習内容・方法
① 実習体験を通して具体的に自己の老年観を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習での体験を通して高齢者に対する自己が抱いているイメージやまたは変化について学生カンファレンスなどで話し合う。 ・ 実践を通じた実習での具体的なエピソードから、これまでの老年観と実習を通して変化した内容を表現する。
目標6. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。	
学習活動	学習内容・方法

① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設での決まりを守る。 ・ 実習にふさわしい服装や身だしなみ(髪型・髪色・化粧)に心がける。身だしなみが対人関係に及ぼす影響の観点で考える。 ・ 実習施設の行き帰りの服装や行動についても見られていることを意識して整える。 ・ 利用者、施設の職員、面会者に対して明るくはっきりとした挨拶をする。はきはきとした受け答えをすることで学ぶ者としての礼儀をあらわす。 ・ 援助場面を見学させていただいたら、その感想を伝える。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の個人情報を守る行動をとる。(実習施設によって誓約書を実習前に書く必要がある) ・ 出会うすべての方に、自ら身分や氏名を紹介して、一期一会のつもりで関わらせていただく。 ・ 不特定多数の高齢者と関わるため、よく知らない利用者のケアを行う可能性もある。 ・ 看護師や介護士などの職員の指導を受けながらともに行動する。 ・ 環境の範囲で可能な最大限のプライバシーを守る。
③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習目標に沿った事前学習をする。既習学習を活用する。 ・ 事前施設オリエンテーションで実習が支障なく行えるよう必要なことを確認する。 ・ 受身の姿勢では何も学べない為、体験したいこと、学習したいことは自ら申し出る。 ・ 施設職員や教員に自ら積極的にアドバイスをもらうよう行動する。 ・ アドバイスは素直に受け止め、その後に活かすよう努力する。 ・ 困ったことや悩んだことはカンファレンスでとりあげ、建設的に討議して学びを共有する。 ・ 疑問に思ったことはそのままにせず、テキストや文献を使って追加学習し、わからないことは積極的に質問・確認することで学びにつなげる。 ・ 施設において繰り返される日常の中に、毎日学ぶべきことがあると意識して、学びを探求する。 ・ 特養とデイサービスの交代時にはグループ間で情報を提供しあい、前グループが学べなかったことも学ぶよう努力する。 ・ お互いにアドバイスをしあい、アドバイス・指導されたことは共有しあい、効果的なグループダイナミクスによる行動をとっていく。 ・ お互いにメンバー、リーダーの役割を考えてメンバーシップ、リーダーシップを発揮していく。
④ よりよい看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生もサービスを提供する職員の一員であることを十分意識して、責任ある行動をとる。利用者の訴えや希望を聞いて終わることなく、職員に報告し適切な対応につなげる。 ・ 看護職、介護職それぞれの役割を認識して報告・連絡・相談をする。 ・ アドバイスをもらったら、その実施結果を相手に報告する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の体調管理を心がける。体調不良のときは利用者の安全を第1に考え、早めに報告・連絡・相談する。 ・ 感染予防の観点から手洗い、うがいを励行する。施設の基準に沿って感染予防の行動をとる。(マスク着用など) ・ 心身ともに安定した状態を維持できるように実習中の生活を整えていく。(有熱時は実習できない施設もある) ・ 心身の健康維持に不安がある場合は、早めに教員に相談し、実習への影響を最小限にしていく。
⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「一日の振り返り」の中で、目標に対する評価を行うとともに、そこに至った自己のありようを振り返る。高齢者に対するかかわり方、援助の仕方、意識、想いなど丁寧に想起し、自分を知る。また、看護学生としての姿勢を振り返る。それらを踏まえて翌日の目標や行動計画を立てる。 ・ 実習前に自己の課題を明らかにして、この実習での自己の目標をたてて臨む。 ・ 実習中は自己の目標を意識して取り組み、カンファレンス等で取り組み状況を伝えたり相談したりして解決に向かう努力をする。 ・ 実習終了時に自己の目標達成について振り返り、新たな課題を明確にする。

6. 看護技術の到達と学び方

	技術項目	この実習での到達度	学習方法・留意点
食事	経鼻胃管チューブからの流動食の注入	2	特別養護老人ホームで看護師と同行して経鼻胃管チューブからの流動食の注入を見学する。
排泄	高齢者のおむつ交換	2	高齢者の身体的特徴、障害などをふまえた、対象にあったおむつ交換を見学、体験する。
	失禁をしている高齢者のケア	2	高齢者の皮膚の特性をふまえておむつ交換時に対象にあった保清を理解する。

活動・休息	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助	1	夜間の睡眠を考えて施設のスケジュールに合わせてレクリエーションに参加して日中の活動援助を実施していく。
	廃用症候群予防のための自動・他動運動	2	施設で行われるレクリエーション、リハビリテーションに見学、参加して自動・他動運動の実際を学ぶ。 レクリエーションを企画・実施する。
褥瘡管理	患者の褥瘡発生の危険をアセスメントできる。	4	特別養護老人ホームで看護師と同行して、看護処置や入浴介助の時の褥瘡発生の危険をアセスメントし、予防方法、褥瘡の観察を見学する。
	患者の創傷の観察ができる	4	

7. 実習場所

○特別養護老人ホーム・デイサービス

- ・特別養護老人ホーム ふじトピア / ふじトピア 通所介護事業所
- ・介護老人福祉施設 開寿園 / 通所介護事業所 康楽
- ・特別養護老人ホーム つばさ / 通所介護事業所 つばさ
- ・特別養護老人ホーム つばさ豊田 / 通所介護事業所 つばさ豊田
- ・特別養護老人ホーム 高麓 / 高麓 デイサービスセンター
- ・特別養護老人ホーム 亀寿の郷 / デイサービスセンター高草 通所介護事業所
- ・特別養護老人ホーム 福聚荘 / デイサービスセンター 福聚
- ・特別養護老人ホームあおい荘 / あおい荘デイサービスセンター

○老人保健施設

- ・介護老人保健施設 グリーンヒルズ藤枝
- ・介護老人保健施設 ユニケア岡部
- ・介護老人保健施設 マインド
- ・介護老人保健施設 焼津ケアセンター
- ・介護老人保健施設 フォレスタ藤枝

8. 実習の動き

1) 実習期間 2019年10月24日～11月12日 12日間

2) 実習計画

(デイサービス:デイ) (特別養護老人ホーム:特養)

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	9/	10/	10/	10/	10/	10/	10/	10/	11/	11/	11/	11/	11/	11/
		3	24	25	28	29	30	31	1	5	6	8	11	12
曜日	金	木	木	金	月	火	水	木	金	火	水	金	月	火
時間	1.5	2.0	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6.5
A	学内オリエンテーション	臨地オリエンテーション	特養①	特養②	特養③	特養④	特養⑤	学内実習	特養①	特養②	特養③	特養④	特養⑤	介護老人保健施設
B			デイ①	デイ②	デイ③	デイ④	デイ⑤		デイ①	デイ②	デイ③	デイ④	デイ⑤	

* 1グループがA・Bの2グループに分かれて実習。

* 実習7日目にデイサービス実習と特別養護老人ホーム実習を交代する。

* 学内実習の目的(実習6日目)

・実習で見てきた高齢者への日常生活援助の場面をとらえ、その援助が何故行われるのか、何故そのような方法をとるのかを文献をもとに根拠を明確にして、日常生活援助の意義を理解する。そして、後半の実習で援助の根拠を意識してとらえていく。

・高齢者への日常生活援助の意義を他施設で実習している学生と共有していく。

・担当教員と対話を行い、施設での実習姿勢、学びの気づきを確認し、実習後半への臨み方を考える。

3) 特別養護老人ホーム・デイサービスの現地施設オリエンテーション内容

10月 3 日(木) 14時～16時

①施設の事業概要、施設の理念・目的、施設の構造、職員構成・施設の週間予定
(目標3 実習行動目標①の内容)

②実習を行う上での注意点

※実習を行う上で困らないように積極的に質問する。

※集合時間に遅れない。

※服装、髪型・髪色はオリエンテーションを受けるのにふさわしいものとする。

※グループリーダーは現地オリエンテーションが終了したら学校へ報告する。

4) 実習日時

10月 24 日(木)～11月11日(月)特別養護老人ホーム・デイサービス

08:30～15:30 実習

15:30～16:00 カンファレンス

16:00～17:00 まとめ(実習記録、翌日の計画、自己学習)

10月 31 日(火) 学内実習

08:45～14:45

11月 12 日(火) 老人保健施設

08:30～15:00 各フロアでの実習

15:00～15:30 カンファレンス

15:30～16:00 まとめ

9. 主な実習方法

① 実習施設の一日の日程に沿って行動する。

② 看護師や介護職員の指導を受けながらともに行動する。

③ 朝のミーティング時に本日の実習計画を発表する。

10. カンファレンス

①時間厳守で行う。

②司会1名、書記1名を決めてカンファレンス用紙に記録し、カンファレンスファイルにまとめていく。教員が参加していなかった日は翌日教員に提出する。

11. 服装

①学校指定のポロシャツ、ジャージ(長ズボン)、学校指定のエプロン、上靴(ナースシューズ)
運動靴(デイサービスの送迎用外履き、室外での援助をしやすいもの)

* 髪はきっちりとあげシニヨンで覆い、前髪はピンでとめる。

②入浴介助時はTシャツ、短パン、タオル、着替えを準備する。

③昼食介助時は各自で清潔なエプロンを準備し、着用する。(左胸に氏名を縫い付ける)

12. その他

① 必ず指導者のもとで利用者と関わる。単独または学生同士で判断・行動しない。

事故につながらないように、わからないことは必ず質問し、指示に従う。終了後は必ず報告する。

② 昼食は指示された場所でいただく。ごみは完全持ち帰り。

③ グループでリーダーを1名決める。(老人保健施設は別に)リーダーは全体へのあいさつやメンバーの通学方法、連絡事項、反省会の調整それらに関する連絡・伝達をする。

④ 実習中の車での通学は、駐車場の確保が出来ない限り禁止する。実習施設内は全て駐車禁止。

13. 提出物一覧

1) 下記の順にファイルに綴じ、インデックスをつけて提出する。

表紙

評価表

ループリック

総括表(No.1)(No.2)

施設の特徴と看護の役割(3種)

利用者の全体像

レクリエーション記録

高齢者への日常生活援助の文献検討

一日の振り返り

2) 実習中ポートフォリオ

※実習記録提出日は11月 13 日(水)8:40とする。時間厳守。

授 業 概 要

科目名	臨床看護演習	担当者	木田 文子 西川はるみ	年次	2	単 位 時 間	30時間 1単位
学 修 内 容	臨床看護演習では、対象の苦痛症状から、その病態・症状・疾患・治療を理解し、対象の全体像を捉え、看護の必要性を導き出し、安全・安楽・自立・個別性の視点で計画・実施するという看護過程展開のプロセスを学ぶ。形態機能学、病態生理治療論、病態生理演習などで学習した基礎知識と基礎看護方法や基礎看護実習での学びを基に、個人が主体的に学習しその成果を持ち寄り、グループワークで思考を深めていく。このプロセスをグループで取り組むことで、看護に必要なチームワークについて学ぶ機会にしてほしい。さらに客観的臨床能力試験: Objective Structured Clinical Examination(OSCE)を受けることで状況に応じた生活援助技術能力の向上を図り、自己の課題を明確にするとともに、実習への取り組み意欲を高められることを期待する。						
到 達 目 標	1) 苦痛や主要症状に対する観察の視点を持ち、根拠をもって意図的に情報を収集する 2) アセスメントに基づき、患者にとって必要な援助を導き出し、根拠を明確にし、安全・安楽・自立・個別性のある援助を考え、具体的に計画し実施する 3) OSCEを通して、自己の課題を明確にする						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 看護過程展開の復習、講義の概要・演習・OSCEについてのオリエンテーション						・講義
	第2回 患者と関わり全体像を捉える						・講義・演習
	第3回						・講義・演習
	第4回						・講義・演習
	第5回						・講義・演習
	第6回	アセスメントを進めながら、患者にとって必要な援助を 考える * 援助の必要性の根拠を明らかにする					・講義・演習
	第7回						・講義・演習
	第8回						・講義・演習
	第9回						・講義・演習
	第10回	ロールプレイ発表の準備					・講義・演習
	第11回	ロールプレイ発表	ロールプレイを通して、患者への援助について振り返る				
	第12回						
	第13回	OSCEの準備					・講義・演習
	第14回	OSCE	与えられた課題について看護を実践し、振り返ることで自己の課題を見つけ出す				
	第15回						
成 績 評 価	・方法 レポート 実技試験 出席状況 他者評価 (詳細は第1回目のオリエンテーション時に提示) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	症状には人体のメカニズムをもとにした原因と影響が考えられます。臨床では、この症状を知識と照らし合わせながら患者さんの訴えや観察して得た情報の意味を考えてアセスメントします。このアセスメントが、対象に対して根拠ある安全で安楽な個別性ある生活援助を考え実践することに繋がります。演習では、個人が積極的に学習し、他者の意見を尊重し合い、患者・看護への関心と学びを深め、自己の生活援助技術能力の向上を目指してほしいと思います。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・香春知永他著：系統看護学講座 専門基礎分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論, 医学書院。 ・高木永子監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 他多数 ・必要物品						
参 考 文 献	・看護過程展開に必要なテキスト多数						

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅰ	担当者	橋本恵利子 寺岡智子	孕石美絵 福與彩子	年次	2	時間 単位	30 時間 ／1単位
学修内容	<p>～セルフマネジメントを獲得しようとする人への看護～</p> <p>慢性期にある人への看護は、入院を中心とする看護から外来や在宅での看護に比重が移ってきている。このような中、看護者は、多様化している患者の価値観や生き方を理解し、患者が自分自身で病気のある生活をマネジメントする力を身につけられるように具体的な知識・技術を提供すると共に、様々な役割をもった1人の生活者として主体的に生きられるよう働きかけることが重要である。対象が自らの問題に気づき、自ら意思決定したやり方で病気と折り合いをつけて生活を拡大し、その人らしい生活が営めるよう支援していく方法を学ぶ。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントを必要とする人を諸理論を活用しながら理解する。 2. セルフマネジメントを推進していく過程を理解する。 3. セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際を理解する。 							
授業計画	授業テーマ							方法（形成評価等を含む）
	第1～3回：セルフマネジメントを必要とする人の理解と諸理論							
	内部環境調節機能障害のある患者への看護(糖尿病)	〔孕石〕						講義
	第4～6回：セルフマネジメントに向けての看護の役割							
	内部環境調節機能障害のある人への看護(慢性腎不全)	〔橋本〕						講義・グループワーク
	第7～14回：セルフマネジメント獲得を目指す看護の実際							
	栄養摂取・代謝障害のある人への看護(肝硬変)	〔寺岡〕						講義・グループワーク
	内分泌機能障害のある人への看護(甲状腺機能障害)	〔橋本〕						講義
	循環機能障害のある人への看護(心不全)	〔福與〕						講義
	第15回：試験	〔橋本〕						
成績評価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、橋本40点、孕石20点、寺岡20点、福與20点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>							
事前課題・留意点	<p>・事前課題 事例を用いて、授業を行っていきます。授業項目に書かれている疾患に関わる臓器の正常な機能や、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠を事前に学習しておいてください。</p> <p>・留意点</p>							
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]代謝・内分泌 [8]腎泌尿器 [3]循環器 [5]消化器 ・江口正信著：検査値早わかりガイド，サイオ出版。</p> <p>・必要物品</p>							
参考文献	<p>・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p>							

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅱ	担当者	橋本恵利子 孕石美絵 石川智也 浅野太志 長坂信二郎 片山聖治 福與彩子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位	
学 修 内 容	<p>～健康危機状況にある人を支える看護～ 手術等の侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を学ぶ。人の身体には侵襲が加わっても創傷を修復し、乱された平衡状態を取り戻す非特異的な生命反応が備わっている。このような自然治癒力が患者の回復に効果的に作用し、侵襲から早期回復を促進するよう援助するために必要な知識と技術を学習する。</p>							
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機状況にある成人の特徴を理解する。 2. 手術侵襲に対する生体反応と回復過程を理解する。 3. 手術前、手術中、手術後の看護を理解する。 4. 手術合併症の知識を使いながら、シミュレーション学習を通して術後観察を体験する。 							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1～3回:周手術期にある人の特徴と理解	〔福與〕					講義	
	手術侵襲による生体反応・術後疼痛・麻酔による影響・術後合併症							
	第4回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	術前看護 〔石川先生〕					講義	
	第5回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	術中看護 〔浅野先生〕					講義	
	第6,7回:手術療法を受ける患者の理解と看護の実際	術後看護 〔長坂先生・石川先生〕					校内実習	
	第8～11回:周手術期にある人への看護	〔橋本〕					TBL	
	消化・吸収機能障害のある患者への看護(胃がん)							
	第12,13回:救命救急治療を必要とする状況	〔片山先生〕					講義	
	循環機能障害のある人への看護(虚血性心疾患)							
	第14回:標準12誘導心電図(A・Bに分かれる)	〔孕石〕					校内実習	
	第15回:試験	〔孕石〕						
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、橋本40点、孕石20点、福與40点 合計100点です</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 授業中、テキストに大切なことを書き込んだり、線を引いたり、付箋を貼ったりして、学習したことを臨地実習でスムーズに活用できるよう工夫をして質問してください。予習ももちろん大切ですが、復習を十分に行なってください。わからないところ積極的に質問してください。</p>							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢永勝彦他編集:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. ・井上智子編集:パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ, 照林社. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院. [3]循環器 [5]消化器 ・江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版. <p>・必要物品 校内実習の時は、ポロシャツとジャージで出席してください。</p>							
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子ほか編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版. ・吉田澄恵ほか編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況, メディカ出版. ・高木永子監修:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken. 							

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅲ	担当者	孕石美絵 西川はるみ 片山聖治 河原崎まどか 山邊優子	年次	2	単位 時間	30時間 ／1単位
学修内容	<p>～セルフケア再獲得を目指す人への看護～ 健康障害による影響からセルフケア能力が低下し、生活の変化を余儀なくされた人の身体的・心理的・社会的側面を理解する。そして、セルフケア能力を維持・回復するとともに、他職種とも連携し残された能力を生かして生活できるように支援する具体的な援助を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケアの低下状態にある成人を理解する。 2. セルフケア再獲得を支援するチームアプローチの必要性と、構成メンバーの一員としての看護師の役割を理解する。 3. セルフケア再獲得を目指す看護の実際を理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1～3回：運動機能障害のある人への看護（間接リウマチ）	〔孕石〕					講義
	第4～6回：運動機能障害のある人への看護（骨折）	〔片山先生〕					講義
	第7～9回：脳・神経機能障害のある人への看護（脊髄損傷）	〔西川〕					講義
	第10～12回：脳・神経機能障害のある人への看護（脳血管障害）	〔山邊先生〕					講義
	第13,14回：消化・吸収機能障害のある人への看護（人工肛門造設）	〔河原崎先生〕					講義
	第15回：試験	〔孕石〕					
成績評価	<p>・方法 筆記試験 試験の点数配分は、孕石25点、西川25点、片山先生25点、山邊先生25点 合計100点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 外傷や疾患により、それまで普通に行えていたことができなくなるといったセルフケアが低下した状態に陥った人が、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護支援について学んでいきます。そのためにはまず、機能の正常な状態や、機能障害により現れる症状とのつながりや、必要な治療や検査についても事前に学習しておいてください。成人看護概論で学習した「アンドロゴジー」や「危機理論」等についても十分に復習しておきましょう</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学，医学書院。〔5〕消化器〔7〕脳神経〔10〕運動器〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 ・江口正信著：検査値早わかりガイド，サイオ出版。 ・氏家幸子監修：成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護，廣川書店。 <p>・必要物品</p>						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安酸史子他編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版 ・高木永子監修：New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント，Gakken。 						

授 業 概 要

科目名	成人看護方法Ⅳ	担当者	橋本恵利子 孕石美絵 石井夕紀 黒木真紀 遠藤友香 秋山 祐子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	～緩和ケアを必要とする人への看護～ 緩和ケアのとらえ方、緩和ケアが必要な人とその家族の身体的・心理的側面から理解し、看護への視点について学ぶと共に、他職種と連携して苦痛を緩和し生活を支える具体的な援助を学ぶ。また放射線療法・化学療法を受けている人への看護を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアを必要としている人とその人を取り巻く人々を理解する。 2. 終末期にある人とその人を取り巻く人々を理解する。 3. 緩和ケアが必要な人への看護の方法を理解する。 4. 終末期にある人への看護の方法を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ					方法(形成評価等を含む)	
	第1回:緩和ケア概論				〔橋本〕	講義	
	第2,3回:意思決定とコミュニケーション				〔孕石〕	講義・ロールプレイ	
	第4回:緩和ケアと生命倫理				〔橋本〕	講義	
	第5～7回:放射線療法を受けている人の日常生活を支える看護(肺がん)				〔秋山先生〕	講義・グループワーク	
	第8～10回:終末期にある人を支えるの看護の実際				〔石井先生〕	講義・グループワーク・DVD鑑賞	
	第11回:終末期にある人の家族および遺族への看護				〔黒木先生〕	講義・グループワーク	
	第12回:エンゼルケア				〔黒木先生〕	講義・グループワーク	
	第13,14回:化学療法を受けている人の日常生活を支える看護(乳がん)				〔遠藤先生〕	講義・グループワーク	
	第15回:試験				〔孕石〕		
成 績 評 価	・方法 筆記試験とレポート 試験の点数配分は、橋本20点、孕石20点、石井先生(レポート)30点、秋山先生30点 合計100点です。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 放射線・化学療法などの治療に関しては1年次の学習をしっかりと振り返ってください。また、自分自身の看護観や死生観も問われてきます。この单元の中で、それらについても自分自身を見つめていきましょう。 ・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・常藤暁他編集:系統看護学講座 別巻 緩和ケア, 医学書院。 ・小林浩子他著:系統看護学講座 別巻 がん看護学, 医学書院。 ・福田国彦他著:系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学, 医学書院。 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学, 医学書院。〔2〕呼吸器 〔9〕女性生殖器 ・江口正信著:検査値早わかりガイド, サイオ出版。 ・必要物品						
参 考 文 献	・一般社団法人 日本がん看護学会監修:患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル, 医学書院						

授 業 概 要

科目名	成人看護過程展開技術	担当者	孕石美絵 橋本恵利子	年次	2	時間 単位	30時間 /1単位
学修内容	成人期にあり看護を必要としている人の特徴をとらえて、その人の力を活かして生活できるように看護過程展開技術を用いて、その人に必要な援助ができる能力を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連性を考えて、患者理解を関連図に表現することができる。 2. 事例から各様式、カテゴリにおいて意味ある情報を見出すとともに、何故その状況が起きているのかを考え、関連因子を意識して看護上の問題を表現する。 3. 事例の個別性を踏まえ、看護の方向性を考えることができる。 4. 看護上の問題を意識し、個別性を活かした看護計画を立案する。 5. 臨地実習の体験等を統合し、看護過程に必要なものを明確にする。 6. 対象を理解するための自己の課題を明確にする。 						
授業計画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	<p style="text-align: center;">前半（孕石）</p> <p>第1、2回：オリエンテーション 事例展開1（糖尿病） 情報収集・関連図・情報の整理分析と看護上の問題点抽出</p> <p>第3回：関連図・情報の整理分析・看護上の問題点抽出についてグループで検討</p> <p>第4、5回：ラベルワーク「テーマ：対象理解に必要なもの」</p> <p>第6回：ラベルワーク発表会</p>					<p>個人ワーク</p> <p>グループワーク</p> <p>ラベルワーク</p> <p>発表</p>	
	<p style="text-align: center;">後半（橋本）</p> <p>第7～9回：オリエンテーション、事例展開2（脳梗塞） 情報収集・関連図・情報の整理分析と看護上の問題点抽出 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についての考え方 問題の整理統合・優先順位・看護計画立案</p> <p>第10～12回：問題の整理統合・優先順位・看護計画立案についてグループで検討と発表</p> <p>第13、14回：ラベルワーク「テーマ：看護過程に必要なもの」</p> <p>第15回：ラベルワーク発表会</p>					<p>個人ワーク</p> <p>講義</p> <p>個人ワーク</p> <p>グループワーク</p> <p>ラベルワーク</p> <p>発表</p>	
成績評価	<p>・方法 前半 孕石40点、後半 橋本60点 合計100点 個人提出物、グループ提出物、グループ内他者評価、振り返り取り組み姿勢で評価をします。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題、留意点</p> <p>様々な疾患による機能障害のある人の健康状態を維持・向上するための看護介入を看護過程の思考を用いて考えます。そのためには、まず機能の正常な状態の復習をして演習に臨んでください。また、疾患により現れる症状とのつながり、必要な検査や治療の根拠など今までの学習の復習をして演習に臨みましょう。1年次に学習した看護過程についても振り返っておくと活用につながります。書き方を学ぶのではなく、考え方や着目点などを学ぶと看護過程実習や各領域別実習へとつながります。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 必要なテキストは自分で選択して持ってきてください。</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>・小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践. 医学書院.</p> <p>・高木永子監修：New看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント, Gakken.</p> <p>・リンダJ、カルペニート著、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック, 医学書院.</p> <p>・江口正信著：検査値早わかりガイド, サイオ出版.</p> <p>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [6]内分泌・代謝 [7]脳神経</p>						

授 業 概 要

科目名	老年看護概論Ⅱ	担当者	渡邊幸弘 田村亨治 鈴木洋司	年次	2	時間 単 位	15時間 ／1単位
学 修 内 容	高齢者は加齢に伴う身体機能の変化により、成人と比較し罹患率の高い疾患がある。あるいは老年症候群のように日常の中に潜む健康障害が、既往疾患を増悪させ致命的な状態を引き起こしたりする。このように微妙なバランスの上に立つ高齢者の健康状態を理解し、高齢者特有の疾患の成り行きを理解する。						
到 達 目 標	1 老化に伴う身体機能の変化によっておこる高齢者の代表的な疾患の特徴をふまえ、その病態・症状・治療・予後・予防方法について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	消化器機能の低下によって起こる疾患 — 胃腸疾患、肝胆膵疾患、がん	渡邊	・スライド講義 ・小テスト			
	第2回	循環器機能の低下によって起こる症候・疾患 — 心不全、虚血性心疾患、不整脈	渡邊				
	第3回	感覚器の機能低下によって起こる疾患 — 白内障、緑内障、老人性難聴 腎・泌尿器の機能低下によって起こる症候・疾患 — 腎不全、前立腺肥大症	渡邊				
	第4回	内分泌・代謝機能の低下によって起こる疾患 — 甲状腺疾患、骨粗鬆症	渡邊				
	第5回	脳の変性疾患 認知症とはどのような状態をさすのか？意識障害やせん妄との違い、認知症の種類と特徴、パーキンソン病・パーキンソン症候群の症状	鈴木 <3時間>				
	第6回	呼吸器系感染性疾患 誤嚥性肺炎、レジオネラ、MRSA、インフルエンザなど	田村	・教科書の内容に各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。			
	第7回	老年症候群—脱水、熱中症、低栄養など 長期臥床によって起こる症候・疾患—褥瘡・廃用症候群など	田村				
成 績 評 価	・方法 筆記試験 渡邊先生：50点 鈴木先生：20点 田村先生：30点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 関連する病態生理治療論の復習 ・留意点 日頃、疑問に思っていることを質問して欲しい（鈴木） 講義後にもしっかり復習してください。（田村）						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 第5回時に併用 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 各系統 医学書院						

授 業 概 要

科目名	老年看護方法 I	担当者	小林有希子 竹田直子 八木寿乃 増田未知子 小 池幸子 他	年次	2	時間 単 位	30時間 ／1単位
学 修 内 容	老化による身体的・心理的機能の低下を考慮しながら、基礎看護学で学んだ日常生活援助の技術を基盤に、高齢者に適した方法で自立が促せるよう看護方法を学ぶ。また、高齢者に起こりやすい健康問題とその看護方法について学ぶ。さらに高齢者の健康段階に応じた福祉施設における看護の機能やその役割について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活における基本的看護の方法について理解する。 2. 高齢者に起こりやすい健康障害について理解し、その予防と看護方法について理解する。 3. 介護福祉施設における看護の役割と機能について理解する。 4. 福祉レクリエーションを体験し身体的効果、精神的効果を知る。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
第 1回	老年看護の基本、老年看護の機能と役割、 高齢者の日常生活動作と環境のアセスメントと看護				竹田		講義
第 2回	食生活、摂食・嚥下機能のアセスメントと看護				竹田		講義
第 3回	排泄障害のアセスメントと看護				小林		講義
第 4回	老年者の清潔行為のアセスメントと看護				小林		講義
第 5回	老年者のおむつ交換				小林		校内実習
第 6回	高齢者のコミュニケーション				八木		講義
第 7回	生活リズム、活動・睡眠障害のアセスメントと看護				八木		講義
第 8回	転倒のアセスメントと看護				八木		講義
第 9回	寝たきり予防、廃用症候群のアセスメントと看護				八木		講義
第 10回	介護老人福祉施設と介護老人保健施設の看護				老人施設看護師		講義
第 11回	認知症高齢者の理解				竹田		講義
第 12回・13回	認知症に対する関わり方 ①認知症の基礎的知識 ②認知症の神経心理テストと判定 ③認知症 ステージ別症状と関わり④認知症のスピリチュアル ⑤認知症の脳活性化 リハビリテーションとは ⑥認知症の予防 ⑦レクリエーションの実施				増田		講義及び演習
第 14回	福祉レクリエーション ①福祉レクリエーションとは ②体験を通して人との関わる楽しさを体感する				小池		演習
第 15回	試験				竹田		
成 績 評 価	・方法 竹田:筆記試験(20点) レポート(10点) テーマ「認知症を持つ高齢者との関わり方」 レポートは老年実習 I の後に提出 小林:筆記試験(30点) 八木講師:筆記試験(40点) 講義後の課題提出状況により筆記試験から減点する ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
題 事 前 課	・事前課題 老年期にある人の身体・心理・社会的側面の変化について復習して臨む ・留意点 ノートをとること。メール、スマホは見ない、持ち込まない。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 大塚真理子 カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医師薬出版株式会社 堀内ふきら ナーシンググラフィカ 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・必要物品 演習で使用する物品は学校で用意するのでセッティングに協力してください。						
参 考 文 献	山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 本田美和子 ユマニチュード入門 医学書院 増田未知子 ボケからのカムバック 静岡新聞社発行 増田未知子 スリーA増田方式による認知症予防ゲーム 静岡新聞社発行 DVD BOOK 認知症の人とともに 系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院						

授 業 概 要

科目名	老年看護方法Ⅱ	担当者	小林有希子 竹田直子	年次	2	時間 単 位	30時間／1単 位
学 修 内 容	老年病の発症・悪化により医療的処置を受ける高齢者の病状の回復・安定を目指した看護方法を、健康の段階に応じて学ぶ。また、介護する家族のエンパワーメントを理解するとともに、介護負担を軽減するための看護の方法について学ぶ。						
到 達 目 標	1) 高齢者の治療過程における看護方法について理解する。 2) 健康障害を持つ高齢者と家族への看護方法について理解する。 3) 終末期にある高齢者の看護方法について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 健康の段階と健康障害を持つ高齢者の理解（小林） ・第2回から第5回 誤嚥性肺炎の高齢者の看護（小林） ・第6回から第7回 大腿骨頸部骨折・大転子部骨折の高齢者の看護（竹田） ・第8回から第11回 肺気腫・心不全を持つ高齢者の看護（竹田） ・第12回から第14回 認知症を持つ大腸がんの高齢者の看護（竹田） ・第15回 試験（45分）（竹田） 高齢者と災害看護（45分） 			<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・講義+グループワーク ・試験 ・講義 			
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 小林担当：筆記試験（20点）+レポート（10点） 竹田担当：ポートフォリオ（課題の成果物を含む）（30点）+筆記試験（40点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 夏季休暇の課題：ポートフォリオ（誤嚥性肺炎・大腿骨頸部骨折・肺気腫・大腸がん） ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇中に疾患の病態生理、症状、治療、検査、看護について事前学習をしてください。この学習と講義内容は自分でつなげて、看護を理解していきましょう ・事例検討を行います。積極的に参加し自己の学びを深めてください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門 老年看護学 医学書院 堀内ふき ナーシンググラフィカ『高齢者看護の実践』メディカ出版 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院 ・必要物品 ポートフォリオ 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 大塚真理子 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 正木治恵ら 老年看護学概論 南江堂 山田律子ら 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 						

授 業 概 要

科目名	小児看護概論 I	担当者	亀澤ますみ 寺岡智子	年次	2	単位 時間	30時間 /1単位
学修内容	<p>新生児から思春期、青年期までの小児期は成長発達が著しい。成長発達は自然なものであると同時に一定の法則があり、その原理原則に即している。発達の原則を踏まえ、加えて子どもが育つより良い環境を理解し、環境の一つである親や家族、地域などの社会のあり方を考えたい。そして、看護師として小児の成長発達を促す者として健康な小児の日常生活での関わりについて、自立に向けた各段階での発達の促しや支援の方法を学習する。また、言語の未発達から自ら訴えることのできない小児の身体的、精神的変化を早期に捉え観察するフィジカルアセスメントについても学習する。</p>						
到達目標	<p>1) 成長発達の段階と生活援助、支援の仕方を理解する 2) 成長発達の原理原則を理解し、評価の意味と方法を理解する 3) 小児フィジカルアセスメントの方法を理解する 4) 小児にとっての家族の特徴とアセスメントを理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：小児とは(亀澤)						講義
	第2回：小児の成長発達の特徴と原理(亀澤)						講義
	第3回：乳児期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						講義
	第4回：幼児期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						講義
	第5回：学童期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						講義
	第6回：思春期の成長発達の特徴と援助(寺岡)						講義
	第7回：小児各期の特徴を踏まえた関わりと支援を考える(亀澤)						演習
	第8回：小児の成長発達の評価の目的と方法(亀澤)						講義
	第9回：小児にとっての家族のアセスメント(亀澤)						講義
	第10・11回：小児のフィジカルアセスメント(寺岡)						講義
	第12・13回：小児の身体計測とアセスメント(寺岡)						演習
	第14回：フィジカルアセスメントの意見交換(寺岡)						演習
	第15回：試験・まとめ(亀澤)						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験(亀澤40%、寺岡60%) ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 ・留意点 皆さんも以前は子どもでした。生まれて育ててくれた多くの環境があったと思います。今度は皆さんが子どもたちの環境となります。子どもたちがより良く育つためには、安全で快適な社会と目標に向かって子どもらしく活動できる環境が必要です。今後に向けて、現代社会の身近な子どもたちや社会のニュース等に関心を持ってください。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 根拠と事故防止から見た 小児看護技術 編集：浅野みどり 医学書院 ・必要物品</p>						
参考文献	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版</p>						

授 業 概 要

科目名	小児看護概論Ⅱ	担当者	清水・増井・熊谷・近井	年次	2	単位 時間	30時間 ／1単位
学修内容	<p>小児期は、遺伝疾患、染色体異常、妊娠や出生時の影響などにより、成人期には見られない特有の疾患がある。また、成長発達途上では身体的特徴により病態や治療が新たな問題やその後の発達に影響を及ぼす事がある。さらに、発達途上の小児の理解力やコミュニケーション力は未熟なため、罹患した事や治療を継続する事が、その後の心理社会面に影響を与える場合もある。そのため、小児期の身体的成長の特徴を理解し、形態機能の特徴を踏まえて小児期にある代表的疾患とメカニズム、治療について理解する必要がある。看護師は、言葉では訴えられない小児をよく理解し、異常の早期発見、予防に努めるために病態と治療についての知識を深める必要がある。</p>						
	<p>1) 其々の系統における代表疾患を理解する 2) 疾患の特徴的メカニズムを理解する 3) 疾患の治療について理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 新生児疾患（清水）						講義
	第2回： 循環器疾患（清水）						講義
	第3回： 呼吸器、消化器疾患（清水）						講義
	第4回： 免疫疾患・膠原病・アレルギー疾患（増井）						講義
	第5回： 感染性疾患（増井）						講義
	第6回： 内分泌疾患・発達障害（増井）						講義
	第7回： 小児医療の特殊性、遺伝子・染色体疾患（熊谷）						講義
	第8回： 神経系疾患（熊谷）						講義
	第9回： 腎疾患（熊谷）						講義
	第10回： 血液疾患（近井）						講義
成績評価	<p>・方法 筆記試験（清水30%、増井30%、熊谷30%、近井10%） 取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 講義の前には、事前学習としてテキストを熟読して出席しましょう</p> <p>・留意点 小児期の心身は、未熟で発達途上にあるため疾患に罹患しやすいという特徴があります。また、小児期特有の疾患や治療もありますので基本的な形態機能学、病態生理治療論などの既習科目は土台として学習して臨みましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」 メヂカルフレンド社</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版</p>						

授 業 概 要

科目名	小児看護方法Ⅰ	担当者	亀澤 ますみ 保健師 寺岡 智子	年次	2	単位 時間	30時間 ／1単位
学修内容	<p>子どもは発達途上にあり、自己表明や健康管理などの力が未熟なため、大人たちより、より良く育つ環境が整えられていることが求められる。そのため、小児看護の対象は健康、不健康を問わず全ての小児とその家族である。看護師は、子どもたちの持つ4つの権利を守り、最善の利益が得られるよう努力する責務がある。現在、看護職は子供たちが育つ家庭や保育園、学校、病院は勿論、地域などの様々な場に他職種や看護職同士が連携して活躍している。其々の場における看護の特徴と役割を学び、少子高齢社会での子育て支援などについても関心を広げたい。合わせて、小児の健全な発育のために、社会が支え護る事故防止、虐待防止、養育支援などの法律や制度について学習を深めたい。</p>						
到達目標	<p>1)小児看護の理念や特質、考え方を理解する 2)様々な場での小児看護の必要性と役割を理解する 3)疾病や障がい、入院や治療が小児や家族に与える影響と看護を理解する</p>						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 子どもの家族を取り巻く社会（亀澤）						講義
	第2回： 小児看護の理念と倫理（亀澤）						講義
	第3回： 疾病や障がいを持つ子どもの理解（亀澤）						講義
	第4回： 疾病や障がいを持つ子どもの家族への看護（亀澤）						演習
	第5回： 小児看護の課題（亀澤）						講義
	第6回： 現在の母子保健活動の実際（保健師）						講義
	第7回： 地域での小児保健・福祉の問題点と対策（保健師）						講義
	第8回： 在宅療養での小児看護（寺岡）						講義
	第9回： 小児と家族に関する諸統計と現状（寺岡）						講義
	第10回： 試験・まとめ（寺岡）						筆記試験
成績評価	<p>・方法 筆記試験（亀澤60%、寺岡40%） ・基準 本校の基準に沿って評価する</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 ・留意点 皆さんの生活の中で見かける子どもや家族の様子に関心を寄せましょう。子どもに関する新聞の記事やテレビの話題に目を向け、現代の子どもたちを取り巻く環境について看護学生として考えてみましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 ・必要物品</p>						
参考文献	<p>小児ケアの為の発達臨床心理 岡堂哲雄 ヘルス出版 H29年 子ども・若者白書 内閣府 H29年 厚生労働白書 一若者の意識を探る一 厚生労働省 H29年 国民衛生の動向 厚生労働省</p>						

授 業 概 要

科目名	小児看護方法Ⅱ	担当者	亀澤ますみ 寺岡智子	年次	2	単位 時間	30時間 /1単位
学修内容	小児期は身体的未熟さに加え、自分の感情や意志などを十分に訴えることができず、疾病の理解もできないままに苦痛にさらされていることがある。周囲の大人や医療従事者が気づき、見守り回復を支えることが重要である。そのため看護師は、小児期に特有な疾患や症状、その発生のメカニズムや影響を理解して家族を含め安全で安楽、安心な生活を提供できるようアセスメントし援助する必要がある。具体的には、小児期の疾患、治療、検査、処置に伴う影響を理解し、療養生活の中にも成長発達を促す援助方法を学習する。また、小児と家族を支え継続的に看護を提供できる繋がりを理解し、看護展開についてシュミレーションする。						
到達目標	1)小児期に特徴的な症状と看護方法を理解する 2)小児期に特徴的な疾患の経過や治療、検査、それらに伴う看護を理解する 3)小児の家族看護、継続看護について理解する 4)小児の看護過程展開を理解する						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：小児に特徴的な症状と看護①(寺岡)						講義
	第2回：小児に特徴的な症状と看護②(寺岡)						講義
	第3回：子どもの診療に伴う看護(寺岡)						講義
	第4回：子どもの診療に伴う看護技術①(寺岡)						講義
	第5回：子どもの診療に伴う看護技術②(寺岡)						講義
	第6回：小児の治療処置に伴う安全な援助の実施(寺岡)						演習
	第7回：小児看護の展開について(亀澤)						講義
	第8回：疾病の経過と看護「急性期 腸重積症の症例について考える」(亀澤)						講義
	第9回：疾病の経過と看護「慢性期 I型糖尿病の症例について考える」(亀澤)						講義
	第10回：疾病の経過と看護「終末期 白血病の症例について考える」(亀澤)						講義
	第11～14回：症例から看護計画を立案する(亀澤)						講義・演習
	第15回：試験・まとめ(寺岡)						筆記試験
成績評価	・方法 筆記試験(寺岡40%、亀澤30%) 演習での看護計画のレポート30% ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 これまでの学習を十分に復習して臨んでください ・留意点 国家試験問題の状況設定問題などの理解に繋がる分野です。イメージしながら学習しましょう。看護計画の立案は、疾病、発達段階、看護過程などの知識の活用が必要です。3年次の小児看護実習に向けての準備となりますので果敢にトライしましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 新体系看護学全書：小児看護学①「小児看護学概論小児保健」メヂカルフレンド社 新体系看護学全書：小児看護学②「健康障害を持つ子どもの看護」メヂカルフレンド社 根拠と事故防止から見た 小児看護技術 編集：浅野みどり 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	母性看護概論Ⅱ	担当者	伊藤 みどり	年次	2	時間 単位	20時間 1単位
学 修 内 容	<p style="text-align: center;">＜母性の発達とライフサイクルにおける女性の健康と看護＞</p> <p>母性看護学概論Ⅰで学んだ母性の特性、母性を取り巻く環境をふまえて学んでいく。女性のもっている機能がどのように発達し発揮されていくのか、それが生まれ育っていく子どもにどのように影響していくのかを考える科目である。今まで考えたことの無い母性や父性、なんとなく過ごしてきた女性としての健康、また異性から女性を捉えること、胎内にいる胎児や生まれたばかりの新生児が持っている能力について初めてじっくりと考えていくことになる。</p>						
到 達 目 標	<p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性意識の発達の過程を学び、現代の社会情勢における母性・父性のあり方について考える。 子どもの生まれ持った特性を理解し、母子相互作用による母子関係の成立過程を理解する。 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特長を理解し、母性看護の必要性について考える。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 母性の発達と形成過程						※ミニレポート②
	第2回 胎児・新生児の能力						※ミニレポート③
	第3回 母子相互作用						
	第4回 親と子のきずな						
	第5回 父性						
	第6回 女性のライフサイクルと健康 思春期の健康と看護						
	第7回 成熟期の健康と看護①						
	第8回 成熟期の健康と看護②						
	第9回 更年期の健康と看護						
	第10回 学科試験						
							※毎回の授業後に振り返り用紙を記入していきます。
成 績 評 価	<p>・方法 ①レポート30点(10点×3回) ②筆記試験(70点) 取組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 春期休暇に『親と子のきずなはどうつくられるか』の第1章～第6章を読み、感じ考えたことを指定の用紙に述べてください。(レポート①)</p> <p>・留意点 考える科目です。毎回の振り返りを大切にしましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ①森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論, 医学書院 ②ク劳斯 他著:親と子のきずなはどう作られるか, 医学書院</p> <p>・必要物品 授業の資料やノートはファイルなどでしっかり整理してください。</p>						
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> ①吉沢豊予子 他編著:女性の看護学, メヂカルフレンド社 ②大日向雅美著:母性神話の罫, 日本評論社 ③大日向雅美著:子育てと出会うとき, 日本放送出版会 ④林 道義著:父性の復権, 中公新書 ⑤大島清著:胎児からの子育て, 築地書館 <p style="text-align: right;">*その他の参考文献は授業で紹介します。</p>						

授 業 概 要

科目名	母性看護方法Ⅰ	担当者	増田 瑞枝 黒田 健治 久保山 恵規 杉村 千春	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	「子を産み育てる特性」を發揮していくために必要なマタニティサイクル(妊娠期・分娩期)にある人々の看護について学ぶ。安全な分娩を迎えるための看護に必要な、妊娠期の身体的変化・心理社会的変化を理解する。その上で、妊婦及び胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。 また、分娩期の産婦・胎児について理解し、安全で満足 of いく分娩を支援する看護について学ぶ。						
到 達 目 標	<p>妊娠期・分娩期の身体的変化</p> <p>(1) 妊娠期分娩期の生理的变化を理解する。 (2) 妊娠期・分娩期に起こりやすい異常を理解する。</p> <p>妊娠期の看護</p> <p>(1) 妊娠期における母子の生理的特徴を踏まえ、母子の健康状態のアセスメントについて学ぶ。 (2) 妊婦の親役割や家族の新しい役割獲得の準備について理解する。 (3) 母子の健康保持・増進のための妊婦のセルフケア能力を高める援助について学ぶ。</p> <p>分娩期の看護</p> <p>(1) 分娩期に関する基礎的知識を学ぶ。 (2) 分娩期における看護の必要性を理解する。 (3) 分娩期の必要な看護技術を知る。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<p>妊娠期・分娩期の身体的変化（増田・黒田）</p> <p>第1回 妊娠期の身体的特性</p> <p>第2回 分娩の進行と産婦の身体的変化</p> <p>第3回 妊娠・分娩期の異常</p> <p>妊娠期の看護（久保山）</p> <p>第4回 妊婦とは 妊娠性変化の特徴、妊娠期の心理的特性</p> <p>第5回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化1</p> <p>第6回 妊娠による母体の変化と生理的ニーズの変化2</p> <p>第7回 マイナートラブル、妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第8回 正常から逸脱した妊婦の看護</p> <p>分娩期の看護（杉村）</p> <p>第9回 分娩の要素と分娩の経過</p> <p>第10回 産婦・胎児、家族のアセスメント</p> <p>第11回 産婦と家族の看護</p> <p>第12回 分娩期の看護の実際</p> <p>第13回 学科試験(45分)</p>						
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験</p> <p>・基準 身体的変化20点、妊娠期の看護40点、分娩期の看護40点、合計100点満点です。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・留意点 テキストにどんどん書き込んだり、線を引いたり、付箋をつけたりし活用していきましょう。(久保山) テキストに沿って講義をします。(杉村)</p>						
テ キ ス ト	<p>・森恵美 他著：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論，医学書院</p>						
参 考 文 献	<p>・東野妙子 他著：標準産科婦人科学 第2版，医学書院 ・望月真人監修：母性看護学 1. 妊娠、分娩，医歯薬出版株式会社 ・池ノ上克他監訳：みえる生命誕生 授精・妊娠・出産，南江堂</p>						

授 業 概 要

科目名	母性看護方法Ⅱ	担当者	増田 瑞枝 杉山 恵美子	年次	2	単位 時間	30時間 /1単位
学修内容	<p><マタニティサイクルにある人々の看護:産褥期・新生児期> 「子を産み育てる特性」を発揮していくために必要なマタニティサイクルにある人々(産褥期・新生児期)の看護について学ぶ。 産褥期・新生児期の母子の生理的変化について学習する。産褥期は急激に身体、心理社会面の変化が起きる時期である。正常経過を理解し、順調に経過するための看護を学ぶ。また、産褥期は異常を生じやすい時期でもあるため、異常な経過をたどった場合の看護についても学んでいく。 新生児の生理的特徴、新生児期に起こりやすい異常を理解し、必要な看護を考える。</p>						
到達目標	<p>(1) 産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 (2) 産褥期におこりやすい異常について理解する。 (3) 産褥期における観察の視点を理解し、必要な看護を考える。 (4) 産褥期における看護過程の実際を学ぶ。 (5) 新生児の生理的特徴、新生児の起こりやすい異常を理解し、看護の実際につなげる。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
第1回	ガイダンス、産褥期の看護						
第2-6回	産褥期の身体的変化・心理社会的変化とアセスメント(杉山)						
	・退行性変化 ・進行性変化 ・全身の回復 ・心理社会的変化						
第7-11回	新生児の看護						
	・新生児の定義と生理的特徴 ・新生児のアセスメント ・出生直後から退院までの新生児の看護 ・新生児の異常と看護						
第12-13回	母性看護過程						演習
第14回	母性看護に必要な技術	※沐浴・産褥子宮の観察					校内実習
第15回	学科試験						
成績評価	<p>・方法 筆記試験 取り組み姿勢</p> <p>・基準 産褥期の看護40点、新生児期の看護40点、看護過程・技術20点</p>						
事前課題・留意点	<p>・留意点 1年次に形態機能学で学んだ子孫を残す仕組み、母性看護概論Ⅱの母子相互作用、母性看護方法の妊娠期・分娩期の変化について、復習した上で授業に臨んでほしい。講義内容の詳細は、第1回目の講義で提示します。(杉山)</p>						
テキスト	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2]母性看護学各論, 医学書院 ・平澤美恵子 他監修:写真でわかる母性看護技術, インターメディカ ・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論, 医学書院 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・太田操編著:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版 ・松原みなみ 他著:母乳育児の看護学, メディカ出版 ・前原澄子 他著:看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ, 中央法規出版 ・水野克己著:母乳育児学, 南山堂 ・池ノ上克他監訳:みえる生命誕生 授精・妊娠・出産, 南江堂 						

授 業 概 要

科目名	精神看護概論Ⅰ	担当者	松永深雪 平林千鶴 木島 忍 後藤治美	年次	2	間 単 時 位	30/30時間 1単位
学修内容	人のこころの機能、発達のあるようを理解し、こころが健康な状態、または不健康な状態とはどのような状態なのかについて学ぶ。また、精神保健医療の歴史の変遷から現代社会に求められる精神保健看護の役割を学ぶ。						
到達目標	① こころの健康と不健康を身近な問題として捉える。 ② 精神看護における看護の役割を理解する。 ③ 精神医療・看護の歴史の変遷を知り、患者の人権、精神医療看護における倫理について考える。 ④ 精神保健医療に関する法律・制度を理解する。 ⑤ 精神の発達段階と課題を理解する。 ⑥ 精神衛生に必要な知識・対処方法について理解する。 ⑦ ストレスについての知識・理解・対処方法について理解する。 ⑧ ライフステージにおける心理発達課題とその特徴、対処方法について理解する。						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
後藤 木島先生 後藤 松永先生 平林先生	1. 精神看護学ガイダンス 2. ストレス反応と精神保健における危機と予防 ・ 心の発達 3. 心の発達と機能を学ぶ 4. 精神医療・精神看護の現状 5. 精神医療・精神看護の歴史の変遷 6. 精神保健医療に関する法律・制度 7. 精神の健康と家族との関連性 8. 精神を病む人への治療と看護 9. 精神の健康とリエゾン看護 10. ストレスについて 11. 依存について 12. 児童・思春期～青年期におけるこころと問題行動 13. 成人期～老年期におけるこころと問題行動 14. うつ病と自殺予防 15. 試験/災害と精神看護					講義 講義・課題あり・所感あり 講義・演習・所感あり 講義 ・ グループワーク 講義 講義	
成績評価	・ 方法 筆記試験 後藤50点 木島先生20点 平林先生30点/100点 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 レポート提出。(1年次の春季休暇に、指定したDVDを視聴した感想をレポートにまとめる) ・ 留意点 ① 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 ③ 松永先生の講義では、事前に関連するテキストの部分を読み講義に臨んでください。						
テキスト・必要物品	・ テキスト ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・ 必要物品						
参考文献	・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学， 医学書院。						

授 業 概 要

科目名	精神看護概論Ⅱ	担当者	田中賢司 八木和一 福島一成 村上直人 富永見佳	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学修内容	精神科医療の歴史の変遷と関連する法律について学ぶ。 精神医学の基礎となる脳の障害(てんかん)および精神機能の障害(精神疾患)についての病態生理・検査・治療について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神医学の歴史と法を知る。 ② 脳の情報処理機構を理解する。 ③ てんかんの病態生理・検査・治療について理解する。 ④ 精神機能の障害(精神疾患)の病態生理・治療・検査について理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	田中先生 1. 精神科医療の歴史・法律						
	八木先生 2. 脳の機能とてんかんの病態・症状・治療・検査						
	村上先生 3. 精神機能と治療						
	4. 精神疾患の分類・検査・治療						
	富永先生 5. 統合失調症						
	6. 感情障害						
	福島先生 7. 神経障害・ストレス関連障害・身体表現障害						
	(パニック障害・強迫性障害)						
	8. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群						
	(摂食障害・睡眠障害・性同一性障害・パーソナリティ障害)						
	9. 器質的精神障害						
	(認知症・症状精神病・精神作用物質による精神・行動障害)						
	10. 心理的発達障害(知的障害・自閉症スペクトラム障害など)						
	11. 試験						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 福島先生50点 富永先生30点 村上先生20点/100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・中井久雄・山口直彦 著：看護のための精神医学，医学書院。 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	精神看護方法Ⅰ	担当者	青木直子 西島憲一 木島 忍 後藤治美	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学修内容	精神機能の障害(精神疾患)を持つ人を看護する上で必要な基本的な考え方、精神科入院時の看護、治療に伴う看護の具体的方法を学ぶ。 また、精神機能に障害をもつ人が地域で生活するための支援について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神科における看護援助を理解する。 ② 精神科の治療および回復段階に応じた看護援助について理解する。 ③ 精神科の日常生活における看護援助について理解する。 ④ 精神障害をもちながら地域で生活することを支える支援について理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	後藤	1. 精神科に入院することの意味				講義	
		2. 患者の安全を守るためのリスクマネジメント					
	西島先生	3. 精神科における治療と看護(薬物療法と看護)				講義	
		4. 精神科における治療と看護(電気けいれん療法時の看護)					
	青木先生	5. 安全を守り回復を助ける看護				実際にあった事例をまじえた講義	
		6. 精神科における身体的ケア・睡眠の援助					
		7. 心的外傷とその看護					
	木島先生	8. 地域で生活する精神障がい者を支えるための原則と 社会資源について学ぶ				講義 所感あり	
		9. 回復を支える様々なプログラムを学ぶ				講義・演習(SST体験) 所感あり	
		10. 試験/講義					
成績評価	<p>・方法 筆記試験 青木先生30点 後藤30点 木島先生20点 西島先生20点/100点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 2年次の夏季休暇で、精神疾患および精神看護に関する用語集をまとめる。</p> <p>・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事前に講義内容に関連するテキストの部分を読み講義に臨んでください。 ② 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ③ 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。 <p>・必要物品</p>						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	精神看護方法Ⅰ	担当者	青木 直子	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学修内容	精神科で出会う人々へのケア						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者の回復を促す治療的環境とはどういうものか理解できる。 ② 自殺・暴力・無断離院等の緊急事態の考え方と対処を知ることができる。 ③ 精神科における身体のケアには、どのようなケアがあるのか理解できる。 ④ 受け入れがたい行動を示す患者の捉え方を考えることができる。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	1. 1) 治療的環境をつくる <ul style="list-style-type: none"> ① 治療的環境とは ② 治療的環境と看護師 2) 自殺・暴力・無断離院等の緊急事態 <ul style="list-style-type: none"> ① 自殺 ② 暴力 ③ 無断離院 ④ その時看護師は… 2. 1) 精神科における身体のケア <ul style="list-style-type: none"> ① 精神科における身体のケア ② 身体に現れる心の痛み ③ 精神科の治療と身体のケア 2) 睡眠の援助						テキストに沿いながら、実際にあった事例をまじえた講義
	3. 受け入れがたい行動を示す患者 <ul style="list-style-type: none"> ① 自傷行為や多彩な身体症状を訴える患者 ② 心的外傷への着目 ③ 心的外傷からの回復とケア 						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 青木先生30点 後藤30点 木島先生20点 西島先生20点/100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	精神看護方法Ⅱ	担当者	長倉 宏明 後藤 治美	年次	2	間 単 時 位	30/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>精神機能の障害をもつ人をケアする上での原則と具体的な関わり方、また効果的な関係性を気づくために必要な知識・技術を学ぶ。さらに具体的な精神症状に応じた看護方法について学ぶ。</p> <p>事例を用いて、精神障害のある人を看護するために必要な思考力を養う。</p>						
到 達 目 標	<p>① 患者-看護師関係を考え、効果的かつ治療的なコミュニケーションの方法を理解する。 ② 主な精神症状と症状に応じた看護方法を理解する。 ③ 既習の知識、看護過程の思考を活用し、精神障害をもつ人への看護を具体的に考えることができる。 ④ 精神障害をもつひとを看護する者に起こりうる問題とその対処方法を理解する。</p>						
授 業 計 画	<p>後藤 1. ケアする上での原則 2. 精神看護におけるコミュニケーションのポイントと方法 3. 患者-看護師関係をアセスメントするための基礎知識 4. 患者を理解する視点と主な精神症状</p> <p>長倉先生 5. 入院環境と看護の展開 6. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 7. 精神看護技術：症状マネジメント① 8. 精神看護技術：症状マネジメント② 9. 回復を助け、生きる力に着目した看護援助</p> <p>後藤 10～13. 事例展開 14. 事例展開 発表会 15. 試験/プロセスレコードの意義と実際</p>						<p>方法（形成評価等を含む）</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>ロールプレイ・グループワーク</p> <p>講義</p>
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 長倉先生40点 後藤20点 演習による成果物 40点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 2年次の夏季休暇で、精神疾患および精神看護に関する用語集をまとめる。 また、指定の用紙に、発達段階と発達課題についてまとめる。</p> <p>・留意点 ① 事前に講義内容に関連するテキストの部分を読み講義に臨んでください。 ② 毎回の講義終了後、振り返りレポート、または所感を記入してもらうことがあります。 ③ 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1] 医学書院 ・系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2] 医学書院 ・山本勝則・藤井博英ら著：根拠のわかる精神看護技術，メヂカルフレンド社。 <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	在宅看護概論Ⅰ	担当者	西川 はるみ 吉田 五百枝 大井 陽江	年次	2	単 位 時 間	20/20時間 1単位
学 修 内 容	<p>少子高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は施設から地域社会へとその範囲を広げている。本単元では、地域で生活しながら療養する人々とその家族背景や特徴を理解し、在宅看護の役割について学ぶ。また療養者が過ごしている場でつなぎ目ない看護の提供について学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<p>1)在宅看護に関わる現状を踏まえ、在宅看護の概念と目的を理解する。 2)在宅看護の対象を理解する。 3)在宅看護の特徴を理解する。 4)看護の継続性について考えることができる。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回:在宅看護の概念(吉田)						講義
	第2回:在宅看護の対象の特性①(吉田)						講義
	第3回:在宅看護の対象の特性②(吉田)						講義
	第4回:在宅看護の特徴①(西川)						講義・GW 課題評価あり
	第5回:在宅看護の特徴②(西川)						講義・GW 課題評価あり
	第6回:看護の継続性(大井)						講義
	第7回:講義 訪問看護と日本の社会問題(西川)						講義・GW 課題評価あり
	第8回:講義 在宅看護の安全性の確保(西川)						講義・GW 課題評価あり
	第9回:講義 在宅看護と倫理(西川)						講義・GW 課題評価あり
	第10回:講義・学科試験(西川)						講義・筆記試験
成 績 評 価	<p>・方法:筆記試験(西川55%・吉田30%)・課題の取り組み(西川15%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 西川の授業では事前に課題を提示します。個人ワーク(評価対象)をもとにグループワークをします。 ・留意点 在宅看護は施設看護と切り離して考えるのではなく、全ての領域の統合です。まずは在宅看護に興味を持ってほしいです。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 ・必要物品 なし</p>						
参 考 文 献	<p>杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会:厚生指針臨時増刊号 国民衛生の動向 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版社 杉本正子、眞船拓子編集: 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に 取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ</p>						

授 業 概 要

科目名	在宅看護概論Ⅱ	担当者	篠原彰 杉浦正司 大石真知子 池田真紀 東野定律 吉田五百枝	年次	2	単 位 時 間	20/30時 間 1単位	
学 修 内 容	本単元では、在宅療養を継続する上で必要な社会資源や法的制度への理解を深め、地域を取り巻く保健・医療・福祉の連携を学ぶ。在宅看護活動が多くの職種や機関と連携、協働を図りながら、地域包括ケアシステムの中でどのように機能しているのかについての理解を深める。そして、在宅医療の現状と課題、在宅医療を支えるサービスの現状、訪問看護導入までの流れや訪問看護の実際を学ぶことで看護の果たす役割を学ぶ。							
到 達 目 標	1) 社会資源と在宅看護に関わる法的制度を理解する。 2) 地域包括ケアについて理解する。 3) 地域包括ケアシステムでの保健・医療・福祉サービスの連携の在り方を理解する。 4) ネットワーク図の作成を通してケアマネジメントの考え方と連携について理解する。 5) 在宅医療・在宅療養の現状と課題が理解できる。 6) 訪問看護活動の実際を理解する。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回 在宅医療の現状と課題（篠原）						講義 レポートあり	
	第2回 超高齢社会における医療の変化 「治す医療」から「支える医療」へ（杉浦）						講義 レポートあり	
	第3回 在宅療養の現状と在宅医療（杉浦）						講義	
	第4回 在宅医療・介護における地域包括ケアシステム（東野）						講義	
	第5回 訪問看護の対象者 ～導入の流れ[介護保険、医療保険の違い、アセスメントなど]（大石）						講義	
	第6回 訪問看護の手順と実際[災害対策、ターミナルケアなど]（池田）						講義	
	第7回 地域の社会資源（吉田）						グループワーク	
	第8回 社会資源と法的制度の活用（吉田）						グループワーク発表・講義 他者評価あり	
	第9回 地域ケアネットワーク（吉田）						講義 地域ネットワーク図の課題あり	
	第10回 学科試験（吉田）						講義	
成 績 評 価	・方法；筆記試験（吉田30%）・GW参加度と発表内容（10%） 第1・2回レポート提出状況（10%） レポート内容は評価に含まない・ネットワーク図（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 自分の住む地域の社会資源（保健・福祉）についてレポートとしてまとめる。 ・留意点 地域の社会資源と法的制度を具体的に結び付けながら、地域包括ケアの理解を深めていってほしい。							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に 取り組むために～，ヌーヴェルヒロカワ 河原加代子他著：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院 ・必要物品 第7回GW時にレポート作成で使用した社会資源の資料を持参すること。							
参 考 文 献	厚生省の指標臨時増刊号 国民衛生の動向，厚生統計協会 訪問看護実務相談，全国訪問看護協会（中央法規） 小島操子他：看護のコツと落とし穴 杉本正子、眞船拓子編集：在宅看護論-実践を言葉-第6版，ヌーヴェルヒロカワ 森元陽子：訪問看護という生き方，幻冬舎 押川眞喜子監修：写真でわかる訪問看護，インターメディカ 宮崎和加子編著：だから訪問看護をやめられない，メディカ出版							

授 業 概 要

科目名	在宅看護概論Ⅱ	担当者	朝比奈 結華	年次	2	時間 単位	10/30時間 1単位	
学修内容	社会の動向を踏まえながら、地域を取り巻く保健・医療・福祉の連携について学ぶ。また、在宅看護活動が、多くの職種や機関との連携や協働を図りながら、地域包括ケアシステムの中でどのように機能しているかについて理解を深める。地域包括ケアシステムの中でケアマネジメントの考え方や実際のサービス導入までの流れを意識しながら、看護に求められる知識・連携のあり方について理解していく。							
到達目標	1) 保険制度と地域の社会資源を具体的に結びつけながら、ケアネットワークの中での連携・協働について理解を深めることができる。 2) ケアマネジメントにおける看護職の役割を考えることができる。							
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
							全ての回でPWと資料を使用	
	第1回 在宅看護における地域の考え方						講義	
	第2回 保健・医療・福祉の動向						講義	前回の振り返りを含む
	第3回 地域を取り巻く保健・医療・福祉サービス 地域で協働する関係職種の理解						講義	前回の振り返りを含む
	第4回 ケアマネジメントの意義と目的 他職種連携の実際						講義	DVD視聴を行う
	第5回 居宅サービス計画の考え方						講義	事例展開を行う
								* 授業中適宜質問あり
成績評価	・方法: 筆記試験(40%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・事前課題 なし ・留意点 なし							
テキスト・必要物品	・テキスト 杉本正子、眞船拓子編集：看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～，ヌーヴェルヒロカワ 河原加代子他著：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院 ・必要物品 なし							
参考文献	生活を支える看護師の会編：よりよい療養支援のために生活を支える看護を考える，コミュニティケア2016.11臨時増刊号 山田雅子(2015)：在宅看護におけるマネジメント 看護サービス管理 第4版 中西睦子編，医学書院							

授 業 概 要

科目名	在宅看護方法Ⅰ	担当者	西川 はるみ 小林 有希子 大井 陽江 吉田 五百枝	年次	2	時間 単位	30/30時間 1単位
学修内容	在宅の場で看護援助を提供する場合、それぞれの生活スタイルを考慮し、療養者だけでなく家族を視野に入れた個別性のある援助が求められている。また、看護師は療養者の心身の状態を正しく把握し、適切な判断と処置を行っていく必要がある。そして、在宅での医療行為は、基本的に療養者、家族が行うことになるため、療養者や家族が安心して在宅療養生活を継続できるような教育・指導を行う必要がある。この単元では、基礎看護技術の原理原則を踏まえながら、日常生活を中心とした在宅看護技術と医療処置のある療養者・家族への在宅看護技術の基本を学ぶ。						
到達目標	1) 在宅看護技術の基本的な考え方を理解できる。 2) 在宅看護における療養者や家族への生活支援の方法と技術を理解する。 3) 基礎看護技術を応用・工夫した対象に合った在宅看護技術が考、実践することができる。 4) 医療処置のある在宅療養者・家族への援助が理解できる。						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	《生活援助》 第1回 在宅看護の基本姿勢とコミュニケーション技術(西川) 第2回 在宅における活動と休息の援助(西川) 第3～5回 在宅における清潔の援助(小林) 第6～7回 在宅における食事の援助(吉田) 第8～9回 在宅における排泄の援助(吉田) 《医療処置管理の支援》 第10回 在宅における栄養管理とケア(大井) 第11～12回 在宅における呼吸管理とケア(吉田) 第13回 在宅における排泄管理とケア(大井) 第14回 在宅における褥瘡予防とケア(大井) 第15回 講義・筆記試験 (西川)						講義・校内実習 事例レポート評価あり 講義・校内実習 事例レポート評価あり 講義・GW・校内実習(A・Bに分かれる) 事例レポート評価あり 講義・GW・校内実習 事例レポート評価あり 講義・校内実習 事例レポート評価あり 講義 講義・校内実習 帝人による説明・実践あり 講義 講義 講義・筆記試験
成績評価	・方法:筆記試験(西川15%・小林10%・吉田20%・大井15%) 事例展開レポート(西川10%・小林10%・吉田20%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 なし ・留意点 全ての領域を含んでいるため、今までの知識を用い、応用や工夫して楽しみながら考えていきましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 押川眞喜子監修:写真でわかる訪問看護, インターメディカ ・必要物品 校内実習時に必要な物品を準備する。						
参考文献	杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版社 三浦規他:ケアのこころシリーズ⑩在宅でのケア, インターメディカ 角田直枝編集:スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社 川村佐和子:組織ケア力を高める在宅ケア高度実践術, 日本看護協会出版社						

授 業 概 要

科目名	在宅看護方法Ⅱ	担当者	小林 有希子 吉田 五百枝	年次	2	間 単 時 位	20/20時間 1単位
学修内容	在宅療養者の背景は多様であり、年齢や疾病、障がいの程度も様々である。本単元では、在宅療養者の状態別の状況を理解し、各々の在宅看護の展開について学ぶ。						
到達目標	1) 在宅における主な状態別の看護が理解できる。 2) 在宅における看護過程の視点・展開が理解できる。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 在宅看護の展開(吉田) 感染症のある在宅療養者への看護			講義			
	第2回 寝たきりの在宅療養者への看護(小林)			講義			
	第3回 認知症高齢者の在宅療養者への看護(小林)			講義			
	第4回 ターミナル期の在宅療養者への看護(小林)			講義			
	第5回 難病の在宅療養者への看護(小林)			講義			
	第6～9回 在宅における看護過程の展開(吉田)			第6回:個人ワークで「ネットワーク図」と「私の捉えた療養者」を作成 第7・8回:個人ワークのものを元にGW実施 第9回:発表			
	第10回:講義 学科試験(小林)			講義			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法:筆記試験(80%)・個人ワーク「ネットワーク図」「私の捉えた療養者」(10%) GWの参加状況と発表内容(10%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点 在宅看護概論ⅠⅡと在宅看護方法Ⅰの授業内容を復習して講義に臨んでください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 河原加代子他著:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 杉本正子、眞船拓子編集:在宅看護論-実践を言葉-第6版, ヌーヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編集: 看護師教育のための地域看護概説～公衆衛生看護を含む地域看護に取り組むために～, ヌーヴェルヒロカワ 木下由美子:在宅看護論 新版, 医歯薬出版株式会社 角田直枝編集:スキルアップのための在宅看護マニュアル, 学習研究社 						

授 業 概 要

科目名	総合医療論	担当者	香川 二郎 関 常司 中村 利夫	年次	3	単 位 時 間	15時間 ／1単位
学 修 内 容	保健医療に関する知識を修得し、看護師としての基本的態度を身につける。						
到 達 目 標	現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を総合的に知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性、視点について理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
	第1回：講義	医学、医療とは何か、生命について考える。					
	第2回：講義	医学史	}	(関)			
	第3回：講義	健康・病気・医学の体系、病気の原因・症状					
	第4回：講義	病気の診断と治療	}	(中村)			
	第5回：講義	病気の予防					
	第6回：講義	新しい医療システム					
	第7回：講義	生命へのアプローチ、健康教育と衛生統計					
成 績 評 価	・方法	筆記試験、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望： テキストを使っての予習・復習を望みます。（関） 自主的な勉学を望みます。（中村）					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 別巻 医学概論		医学書院			
	・必要物品						
参 考 文 献							

成人看護実習

はじめに

成人看護実習は、看護過程実習Ⅰ、看護過程実習Ⅱと積み重ねられてきた基礎的な能力を深め、発展させ、患者の成長・発達・適応を促し、最適健康が維持・増進できるように援助することを目的とする。成人期は、青年期・壮年期・向老期と、人の一生の中の多くの部分を占めており、また最も役割の変化が大きい時期でもある。患者の全体像や信念・健康観を重要視しながら、身体面・心理面・社会面を統合し、成人期にある人として社会復帰を目標に、自律かつ自立できるよう援助する能力を養う。また身体機能障害のアセスメント力を高め、患者の状況に応じた看護、各発達段階を踏まえた看護、患者の家族も含めた看護の実践能力の基礎を習得する。

1. 実習目的

社会的役割を担い、自律かつ自立して存在している成人期にある人を身体的・心理的・社会的に統合された全体として認識し、成長・発達・適応を促し、最適健康の実現に向けた看護の実践能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 患者の健康段階や発達段階を理解した上で、患者に起きている健康問題を解決するために必要な看護を実践・評価する。
- 2) 患者を個別的・社会的存在として認識し、その人の信念・価値観を尊重した関わりをする。
- 3) 看護実践を通して、自己の成人看護観を深める。
- 4) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

90時間(2単位)・・・オリエンテーション1.5時間
7.5時間×11日
6時間×1日

4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

学習活動	学習内容と学習方法
① 患者の健康障害の種類・経過、症状、治療・処置を、それぞれの関連性を意識しながら理解する。	発達課題、病態・疾患・検査・治療・看護について学習を行う。 発達段階や発達課題について学習を行い、その知識と実際の患者を対比しながら全体像を記入することで患者および家族の置かれている状況の理解につなげる。その中で患者の成人性に注目し、自律・自立した存在である患者や家族の持つ目標や目指す生活について、患者がどのように捉えているのかを知ることで理解を深める。 捉えた情報を全体像の理解を意識して記入し、患者を統合された全体として捉える。 捉えた情報を、形態機能学、病理学、薬理学など既習の知識を活用し、メカニズムや関連性、効果などを意識して患者の身体機能を捉える。また、患者の関わりから捉えた心理的側面や社会的側面も関連図に表現し、3側面を関連させながらバランスよく捉える。 ・「私の看護発表会」を通して、患者をどのように捉えているかを明確にし、グループで共有する。
② 意味ある情報を意図的に収集し、その情報を整理して分析をする。	・患者の訴え、症状を観察・測定・問診など適切な看護技術を活用し目的を持って意図的に適切な情報収集をする。その情報をありのままの現象として捉え、その意味や関連性を考える。 ・情報分析用紙に意味ある情報をその様式別に整理し、第1段階(行動のアセスメント)に表現する。ロイ看護論の生存・成長・生殖・円熟の4つの目標や患者の入院前の生活や発達段階や発達課題を意識して、知識を照らし合わせながら適応行動か非効果的行動かの判断をする。第1段階(行動のアセスメント)がなぜ起きているのか、第2段階(刺激のアセスメント)の関連を分析して表現する。 ・非効果的行動にばかり着目せず、適応行動にも着目していき、強みも見出していく。 ・一つの様式やカテゴリーだけで考えるのではなく、全体としての関連性も意識して表現し、それらを通して全体としてのその人を捉えていく。 ・毎日の記録の中で、捉えた情報を結果として表現していく。記録物は毎日提出する。 ・今後の成り行きを考えて表現する。また、看護介入がされない場合にどのような成り行きとなるかも考える。
③ 看護上の問題点を抽出、優先順位を判断し、看護	・患者の理解に基づき、患者の健康状態において介入の必要があり、看護介入によって適応に向かう問題、また強みを生かし適応を促進することができる問題を見出す。 ・関連因子を意識して看護問題を表現する。

の方向性をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・成人である患者の基本的欲求や健康の段階、患者の目標などをアセスメントし、なぜそのような優先順位にしたかを表現する。 ・「私の看護発表会」を通して、看護の方向性を明確にし、グループで共有する。
④ 個別性を踏まえた、誰もが実践可能な具体的な看護計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の理解に基づき、患者と目標を共有し、社会復帰を考慮した看護目標を考える。 ・患者の価値観や目標、目指す生活、強みを促進できることを意識して長期目標・短期目標を表現する。長期目標は退院後を含め3～6ヶ月後の生活を考える。短期目標は実習期間中に到達可能な目標を考える。 ・期待される結果は関連因子を意識し、看護問題に見合った評価しやすい表現とする。看護問題や関連因子の解決をイメージして妥当性のある設定をし、具体的な指標となる行動・発言・数字などを明示して表現する。 ・看護計画は成人看護の学びや理論を活用し、学生個人の中で自己完結せず、患者の役割や家族の相互関係を考慮した働きかけができるような内容を意識する。また、多職種との連携や看護チームの連携も意識した内容にする。 ・毎日の記録の中でも看護過程の思考を活用して表現していく。 ・看護計画は、看護問題および関連因子、期待される結果を意識し、患者の理解に基づいて個別性を踏まえ、O-P-T-P-E-Pで表現する。 ・誰もが実施可能な計画になっているよう5W1Hを意識して具体的に表現する。
⑤ 患者の反応を確かめながら、個別性に合わせた安全・安楽、かつ対象の健康段階や発達段階を反映した看護実践をする。	<ul style="list-style-type: none"> 看護計画に、安全・安楽・個別性にどのように配慮するかを明確に表現する。 患者の健康の段階や発達段階において理解したことを援助計画の中に反映させる。 援助実施時は、基礎看護技術を基に患者に合わせた工夫も意識した上で、事前に目的・必要物品・手順・安全安楽の視点、実施時の観察項目などを明確にし、指導者または教員に確認後に実施する。その際、患者の意思やその日の患者の状態なども考慮して必要時には方法の検討をする。 ・援助の基本をもとに、安全・安楽・自律・自立、患者の大切にしていることなどの根拠に基づいているかを客観的に振り返り改善させていく。 ・反応(結果)は事実を捉えるように意識する。なぜその結果となったのかを情報・知識に基づいて、考察する。
⑥ 患者の反応を踏まえ、結果・評価を行い、次の援助に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の結果を、患者の反応及び客観的データなど両面からとらえる。毎日の記録の中でも、実施時の反応を客観的に表現する。 ・実践の結果を、期待される結果やその看護援助を患者の実施する目的に基づき評価する。結果を導いた要因(自己の看護実践を含む)について振り返り、より良い援助のするために改善点を明確にする。看護計画の場合は、その改善点を看護計画の修正へと結び付ける。 ・毎日の実施の中ではその振り返りを活かし、より良い援助を目指して、即時的に適時性を持って上記のプロセスを繰り返していく。
実習目標2. 患者を	個別的・社会的存在として認識し、その人の信念・価値観を尊重した関わりをする。
学習活動	学習内容と学習方法
① 患者の健康観を知り、健康観が現在の健康状態や、今後の成り行きにどのような影響を及ぼすかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の健康観をありのまま理解しようと関わる。様々な角度から健康を把握しようと試みて、それらを総合的に理解しようとする。 ・現在の健康状態と、患者のこれまでの生活や価値観がどう関連しているかを分析する。 ・患者の抱えている健康問題が、退院後の生活にどのような影響を及ぼすのかを理解する。退院後必要となる役割調整や自己管理と、患者の健康観との関連も考えて必要な支援を見出す。
② 患者の価値観を尊重・理解し、患者と目標を共有し、必要な看護実践につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の結果・評価・心理社会面の情報・分析の中に患者の価値観や思いをどのように理解したかを表現することで、更なる理解を深めていく。 ・健康問題が患者の身体面だけでなく心理・社会面にどのような影響を及ぼしているのかを理解し、患者を取り巻く家族や今後の成り行きも捉えて看護目標を設定し、患者と共有する。 ・自分本位の一方的な実践ではなく、患者理解に基づいた看護実践を心がけ、患者の反応を確認して、患者に合わせたより良い看護実践へと修正していく。
③ 人間関係における自己のあり様を客観的に振り返り、自己の傾向や課題を見出し、必要な行動変容につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の記録を活用して自己の関わり方を、自己満足ではなく客観的に振り返る。そこから気づいた人間関係における自己の傾向や課題をもとに、必要な行動変容をさせていく努力をする。
実習目標3. 看護実践を通して、自己の成人看護観を深める。	
学習活動	学習内容と学習方法
① 具体的な実践場面を通して、自己の成人看護観を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床において見学や体験した看護実践場面を、記録やカンファレンスを活用して振り返り、成人や成人看護の実際やそれに対する自己の観念を明確にする。 ・成人看護の学びと実際の事象・場面とを関連させ、自分なりに成人看護観を発展させ、自分の言葉で表現する。

実習目標4. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。	
学習活動	学習内容と学習方法
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として求められている規範を意識した行動をとる。 ・身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるのかを考え行動する。 ・記録物の提出方法や提出期限を守る。やむを得ず、時間や約束を守ることができない場合は、なぜできないのかを自分自身で考え、責任を持って行動修正をする。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として、知り得た個人情報については、守秘義務を守る。 ・援助の実施は、十分な説明をして、同意を得た上で行う。 ・受け持ち患者に対する責任をもち、最後までやり遂げる。 ・患者を一人の人間として尊重した関わりをする。また、その人の価値観を理解するよう努め、その理解を反映できるように関わる。 ・関わり方での悩みなどは、適宜カンファレンスでとりあげ、グループで振り返り、今後の行動変容につなげる。
③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な準備を整えて実習に臨む。 ・主体的に問題解決行動がとれるよう、様々な疑問について追求し、理解が深められるようにする。 ・自分から積極的にアドバイスを求める。アドバイスされたことは放置せず活かしていく。 ・単にアドバイスを求めるだけでなく、自らの考えを述べる。 ・アドバイスされたことをそのまま実践するのではなく、自分なりに理解した上で、最善を目指して自ら創意工夫して実践する。 ・事実に基づく自分の考えと、助言されたことを区別して、表現する。 ・グループメンバー内での自分の役割を意識した行動をとる。 ・グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、協力・調整をする。 ・学生間で相談してカンファレンステーマの選定をする。 ・カンファレンスでは人の意見を聴くだけでなく、聴いて考えたことを発言し、テーマを意識して内容を掘り下げる。 ・カンファレンスや学びの発表会を活用し、個の学びをグループで共有し深める。
④ より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・報告すべき人・時間などを確認し、適切な行動が取れるようにする。 ・毎日の報告は測定した数値や観察だけでなく、情報の意味を考えたアセスメントに基づいて報告する。看護師と共有すべき情報も報告していく。 ・看護実践するうえで、看護計画や日々の援助計画を指導者やチームメンバーや受け持ち看護師と相談をすることで協働して看護を実施するという意識を持つ。 ・主体的に行動するよう心がけ、自分の考えを明確に述べる。 ・多職種の連携を理解し、職種間の連携における看護師の役割を果たすために、情報共有など働きかける。 ・異なった専門的背景をもつ専門職と共有した目標に向かって必要な看護を実践する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活習慣を整え、自己の体調管理を心がける。 ・自身の心理面についても安定を心がけ、看護学生としての自己のあり様を調整しながら実習を継続する。 ・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、適切な行動をとる。 ・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。
⑥ 常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習や学びを振り返り、自己の課題・目標を明確にする。 ・実習目的・目標とともに、自己の課題・目標を常に意識し、主体的に取り組む。 ・日々の振り返りを丁寧に積み重ね、次につながるよう、具体的な行動を考え取り組む。 ・実習中適宜、実習目的・目標に対する自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的取り組みを見出す。

6. 実習の動き

1) 実習期間

12日間(実習カレンダー参照) 実習時間＝90時間

(オリエンテーション1.5時間、 7.5時間×11日間＝82.5時間、 6時間×1日間＝6時間)

2) 実習計画

日	時間数	実習内容	カンファレンス
1	7.5	病院挨拶・病棟挨拶 面接:各自の課題と目標について実習指導者、担当教員と面接を通して明確にする。 病棟オリエンテーション・物品確認 患者決定・挨拶、情報収集・整理、援助計画	
2	7.5	看護実践	学生間で決めた

			テーマカンファレンス
3	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
4	6 * 15:30 実習終了	学習整理(状況に合わせて調整可) 「私の看護発表会①」を通して、患者をどのように捉えているか明確にし、 グループで共有する。 ルーブリック評価表中間評価	私の看護発表会① (教員司会)
5	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
6	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
7	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
8	7.5	学習整理(状況に合わせて調整可) 「私の看護発表会②」を通して、看護の方向性を明確にし、グループで共 有する。 ルーブリック評価表中間評価	私の看護発表会② (教員司会)
9	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
10	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
11	7.5	看護実践	学生間で決めた テーマカンファレンス
12	7.5	病院挨拶・病棟挨拶・患者挨拶 面接:実習での看護を振り返り、自己の目標達成と今後の課題について 実習指導者、担当教員と面接を通して明らかにする。 学びの発表会:物品確認 清掃	学びの発表会

3)実習内容

患者1名を受け持ち、看護過程展開をする。

7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術経験録を参照し、自己の技術の経験や到達度と実習病棟の特徴を踏まえ、どのような看護技術を計画的に習得するかを面接で話し合って決める。

8. 提出物一覧

1)以下の順序で記録物をファイルし、インデックスを添付し定時に提出する。

- ①評価表
- ②ルーブリック
- ③総括表
- ④全体像
- ⑤関連図
- ⑥情報の整理・分析用紙
- ⑦問題の整理・統合
- ⑧看護上の問題一覧(優先順位)
- ⑨看護計画
- ⑩1日の振り返り記録

2)実習中ポートフォリオ

老年看護実習Ⅱ

はじめに

老年期に生きる人は、ライフサイクルの最終段階にあり、人生を統合させる時期である。老年期は老化に伴って諸機能が低下し心身ともに衰えていくという特徴があり、長年の生活体験や人生経験により、身体的・心理的・社会的に個人差が大きい。

老年看護学においては、高齢者の特徴、老化や加齢現象により起こる高齢者特有の健康問題をふまえて老化現象を科学的に捉え、円熟された生活者としての個々の生活過程を理解・尊重して、その人らしい生活ができるように支援することが求められている。この実習では老年期の特徴をふまえて高齢者が自立した生活ができるようになるための看護を習得する。

1. 実習目的

健康障害が急性の段階で医療を受ける高齢者や家族への看護の実際を学ぶ。高齢者が健康上の問題を解決・予防しながら、一人の生活者として自立した生活ができるよう看護する基礎的能力を養う。また、高齢者の長年培ってきた生活を尊重する看護の精神を養う。

2. 実習目標

- 1) 高齢者のそれぞれの健康段階と起こりやすい健康問題について理解する。
- 2) 老年期の生活が維持向上できるような看護の方法を、日常生活援助を通して理解する。
- 3) 高齢者の心情、状況、気持ちを思いやり、尊重した態度で関わる。
- 4) 高齢者の看護実践の場面を振り返り、自己の老年看護観を表現する。
- 5) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。

3. 時間数と単位数

90時間 2単位

4. 実習場所

藤枝市立総合病院 焼津市立総合病院 榛原総合病院

5. 対象学生

3年次

6. 実習目標内容及び実習方法

目標1. 高齢者のそれぞれの健康段階と起こりやすい健康問題について理解する。	
学習活動	学習内容・方法
① 対象の健康障害の種類・経過、症状、治療・処置について記述、発言する。	・老年期の症状の現われ方、薬剤、疾患の特徴など事前学習する。 ・健康障害の種類とその経過、症状を関連性をもって考え、全体像、関連図に記載する。 ・現在の健康段階を、高齢者の特徴を踏まえてとらえる。 ・優先的に得たい情報を考える ・医師からの病態説明により明確にする。
② 加齢による変化に伴う健康問題について記述、発言する。	・高齢者に起こりやすい健康障害を視点に入れ情報収集をする。 ・老化に伴う生理的な機能低下や入院が及ぼす影響をふまえて日常生活行動の様子を観察し、家庭での日常生活の様子を情報収集する。 ・機能低下の側面だけでなく、現在、行えていること、効果的に利用できそうな機能や能力に注目する。
③ 入院に伴う心理社会面の影響について記述、発言する。	・老年期にある人の特徴として身体面が心理社会面に及ぼす影響を考える。 ・対象の今までの生活の様子や考え方、価値観、生きてきた過程が入院によってどのように影響するのかを学ぶ。 ・入院によって家族と離れ、環境が変化することによって対象の心理面・社会面にどのように影響するのかを学ぶ。 ・入院による環境の変化から新しい人間関係の適応状態を学ぶ。 ・入院・健康障害・治療に対する対象、家族の思いを考えて、対象の家族を含めた全体像を捉える。可能な場合家族とコミュニケーションをとり、家族の思いを聞く。 ・家族情報や重要他者、サポートシステムの状況等について情報収集する。
④ 対象者が今までに生きてきた過程を知り、持って	・対象者のライフプロセスを情報として得ながら、対象者が何を大事にして生きてきたのか思いを聞く。 ・対象者のライフプロセスから対象者の発達課題の達成状況を考えて表現する。

いる強みについて記述、発言する。	・対象者の持っている強みを表現する。
⑤ 高齢者の特性をふまえて、収集した情報を分析・判断する。	・現在の現れている健康状態を分析するだけでなく、老化に伴う機能低下や治療処置に伴う二次的障害のリスクを捉え、予防的視点をもって現在の状態を維持向上できる看護の方向を ・関連する因子については、対象の状況をふまえ関連図と比較参照する。 ・対象の状況や特性から因子を考える際は、カテゴリー枠を越えた複数の因子を捉える
⑥ 情報・分析・判断を総合的に関連させて問題点や援助の必要性を表現する。	・徴候や症状、危険因子が何によって起きているのかを分析・判断して問題点や援助の必要性、看護の焦点をあげる。
⑦ 対象の病態・ニーズに適した優先順位を設定する。	・安全、安楽、自立、予防、ニーズの観点から優先すべき看護上の問題点を決定する。 ・危険因子や関連図からその整理・統合の方向をつかむ。
目標2 老年期の生活が維持向上できるような看護の方法を日常生活援助を通して理解する。	
学習活動	学習内容・方法
① 対象のADLの拡大、二次的障害の予防や家庭生活への復帰を目指した目標を設定する。	・対象の目標を意識し、その対象が実現可能で具体的である長期目標・短期目標を設定する。 ・対象の退院後の生活、介護する家族の思い、考えを考慮した目標を設定する。
② 達成可能であり個別性のある期待される結果を設定する。	・現在の問題を解決または現状を維持、改善した状態を、今後の予測を持って結果にする。 ・設定する際に、健康状態、総合的予後、適応レベル、人的・物的資源を考慮し、目指す結果を対象と共有する。
③ 対象の強みを活かし、自立を促し、残存機能の維持・向上できる計画を立案する	・期待される結果を達成するにはどのような強みを活かしたO-P,T-P,E-Pが必要か考える。 ・計画の中に対象の参加と自立が促せるような具体策を取り入れて立案する。 ・家族の支援や参加、社会資源を活用する具体策を取り入れて立案する。
④ 残存機能をふまえ強みを活かし自立に向けた日常生活援助を実施する。	・現在の残存機能や日常生活行動、これまでの生活習慣をふまえ、見出した看護上の問題と関連させて、援助を実施する。 ・退院に向けて必要な日常生活について考え、援助を実施していく。
⑤ 対象の反応を確かめながら安全、安楽に配慮した看護援助をする。	・対象の個別性、その日の対象の状態・状況に合わせて実施する。 ・見出した看護上の問題と関連させて、根拠、目的、留意点を明確にし、看護行為の流れや起こりうる成果をイメージして実施する。 ・言語的コミュニケーションがとりにくい対象でも、表情やしぐさから意思や反応を確かめながら、援助を実施していく。
⑥ 対象の反応から看護実践の結果をとらえ、期待される結果を指標として評価、修正する。	・S情報とO情報の両面から結果をとらえ、事実を明確に記述する。 ・家族の反応にも注目して結果をとらえる。 ・期待される結果の指標を用いて、成果の達成度を判断する。 ・対象の状況によっては、目標の見直しや期待される結果の修正を行う。 ・計画の追加や修正には、強みや活用可能な資源を活用して展開する。
目標3 高齢者の心情、状況、気持ちを思いやり、尊重した態度で関わる。	
学習活動	学習内容・方法
① 対象の特徴や状態に合わせたコミュニケーションを図る。	・老化や健康障害(視力、聴力低下、認知症等)をふまえて、老眼鏡や補聴器、文字盤等の使用など、対象者に適した方法を考慮したコミュニケーションをとる。 ・対象のおかれている状況、健康障害による身体的影響を常に考えコミュニケーションを持ち、一方的にならないコミュニケーションを図る。 ・コミュニケーションの意欲の変化・場の様子を考え、非言語的コミュニケーション(身振り、手振り、表情、視線の合わせ方、タッチング等)を取り入れて関わっていく。 ・場面を振り返りコミュニケーション方法を検討していく。
② 対象の人格を尊重した態度・言動をとる。	・対象への関心を持ち、対象の表情や言動をとらえ、傾聴の姿勢や理解しようとする態度をとりながら関わる。 ・カルテや対象との日常会話から生活背景・時代背景・価値観を理解して、人生の先輩として尊敬の念を持って関わる。
③ 対象の自尊	・対象が安心して、自己の思いを表出できる雰囲気をつくり、関わっていく。

心や依存心を考慮した関わりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの人生背景から培われてきた価値観を尊重した関わりを考えていく。 ・自立することだけにとらわれず、高齢者の依存心を理解した関わりを考えていく。 ・関わりに困ったときはカンファレンスや指導者にアドバイスを求めながら関わる
目標4. 高齢者の看護実践の場面を振り返り、自己の老年看護観を表現する	
学習活動	学習内容・方法
① 実践からの具体的場面を通して自己の老年看護観を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象との看護実践を振り返り、老年者をどのようにとらえ、どのような看護が大切であるかを述べる。老年看護実習Ⅰの老年観を土台にして発展させる。 ・老年看護観について学生カンファレンスで話し合う。 ・実践を通じた具体的な場面を通して老年看護観につなげて考えられる。 ・日々の援助を振り返り自分の言葉で表現する。
目標5. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。	
学習活動	学習内容・方法
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を提供する者としてふさわしい服装や身だしなみに心がける。 ・対象者・家族、施設の職員に対する挨拶や礼儀を忘れないようにする。 ・対人関係に及ぼす影響の観点で表情、言葉遣い、立ち振る舞いを考える。 ・実習場の決まりや時間を守ることを理解して行動する。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報やプライバシーを遵守する倫理観を持ち、行動する。 ・「高齢者のための国連原則」に基づき、自己の看護を見直す。 ・老化や障害が原因であり取り除けないこと、本人の意思を明確につかむことが難しいといった状況から日々の援助のなかでジレンマがおきやすいことを知る。自分の中に生じたジレンマは他者に相談して気持ちを整理する。 ・高齢者が自ら意思を表明できるように、あるいは彼らのニーズや希望を代弁することを通して、高齢者の権利が守られるよう支援する。
③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者や教員に自ら積極的にアドバイスをもらうよう行動する。アドバイスをそのまま行うだけでなく、本質を理解してその後活かすよう努力する。 ・困ったことや悩んだことをカンファレンスで話し合い、建設的に解決する。 ・実習目標や自己の課題を意識してカンファレンスに参加する。 ・学生間で互いの体験やアドバイスを共有し、さらに上の学びとなるよう努力する。
④ より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いにメンバー、リーダーの役割を考え、学生間の連絡・調整をする。 ・適切な時間や内容を考慮して、指導者・スタッフへの連絡・報告・相談をおこなう。 ・対象を困む多職種は何かを把握し、自ら関わることで専門的な示唆を得るとともに、看護学生だからこそできることを考え実施する。 ・対象が関与する組織横断的なチーム活動に参加し、情報共有に努める。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なスタンダードプリコーションを行い、自己の感染予防を行う。 ・高齢者の特徴を踏まえ、自己も環境の一部である認識で関わる。 ・心身共に安定した状態で実習できるように生活を整え、体調不良のときは早めに教員、指導者に報告・連絡・相談をする。
⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中、常に自己の行動をふり返り、客観的に自分をみる努力をする。振り返った内容から次にどうするかを考え、主体的に行動へ移す。 ・自己の課題を意識して目標に向かった行動修正をしていく。 ・ルーブリックの中間評価を行い、後半の実習に活かす。

7. 実習の動き

1) 実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画

日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時間	1.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	6	7.5	7.5	7.5	7.5
実習場所	病棟実習①	②	③	④ 午後 患者紹介	⑤	⑥	⑦	⑧ 看護計画の熟考	⑨	⑩	⑪	⑫

<実習時間>

8:30～15:00 実習
 15:00～15:30 カンファレンス
 15:30～17:00 まとめ(実習記録・翌日の計画・自己学習)

実習8日目

8:30～15:30

※実習4日目の午後と8日目は対象の把握、看護計画を深める時間とする。

3)カンファレンス

- ①時間厳守で開始する。
- ②テーマに関しては、実習行動目標や実際の関わりで困ったことなど話し合い、学びを共有し深める。(フロアが変わることがあるので昼休みに打ち合わせしておく)

8. 看護技術の到達と実施

実習病棟、担当患者で学べる看護技術に積極的に取り組む。

9. 提出物一覧

1)実習記録は次の順序でファイルし、インデックスをつけて提出する。

- ① 実習評価表
- ② ルーブリック
- ③ 総括表(No.1)(No.2)
- ④ 全体像
- ⑤ 関連図
- ⑥ 情報の整理、分析
- ⑦ 看護上の問題一覧
- ⑧ 看護計画
- ⑨ 一日の振り返り

2)実習中ポートフォリオ

※記録の最終提出は実習最終日の翌日8:40とする。

10. 老年看護実習Ⅱ予定表

実習 日数	内容	提出物	注意事項	カンファレンス
1	病棟オリエンテーション 物品確認 個人面接 受け持ち患者への挨拶 情報収集(看護援助見学も含む)	(面接時の持ち物) ・課題と目標 ・看護技術経験録	15時以降はカンファレンス及び翌日の計画を立案、その日の記録の整理を行なう。	
2	情報収集(看護援助見学も含む) 看護援助開始	病態説明 毎日の実習記録 全体像・関連図	記録物の提出は目安である。計画的に進める。 情報の分析はすべてのカテゴリーに関して行う。重点的に分析する部分は教員と相談して決める。	教員単位
3	看護援助開始			教員単位
4	午前:看護援助 午後:患者紹介	毎日の実習記録 全体像・関連図	4日目は、担当患者の全体像を使ってプレゼンテーションする。	
5	看護援助	毎日の実習記録 関連図・分析		教員単位
6	看護計画に沿った援助実施	毎日の実習記録 関連図・分析 看護計画	カンファレンスは自分たちがぶつかっている問題、困っている問題をテーマに話し合う。時間・場所は責任を持って調節し、進行は学生が行なう。	教員単位
7	看護計画に沿った援助実施	毎日の実習記録 関連図・分析 看護計画		教員単位
8	15:30まで 看護計画の熟考 看護計画の発表	毎日の実習記録 看護計画		8日目は、これまで実施した看護援助も踏まえながら、看護計画をより個別性にあつたもの、誰でも実践可能なものにしていく。
9	看護計画に沿った援助実施 評価・修正・修正後実施	看護計画	計画を立てることで満足してしまわず、評価・修正することで更に個性のある計画にする。	教員単位
10	看護計画に沿った援助実施 評価・修正・修正後実施	毎日の実習記録 看護計画、実施、評価		教員単位
11	看護計画に沿った援助実施	毎日の実習記録		教員単位

	評価・修正・修正後実施	看護計画、実施、評価		
12	個人面接 まとめカンファレンス	毎日の実習記録 看護計画、実施、評価	カンファレンスではどのように考えて援助をおこなったのか、自己の老年看護観について話す。	教員単位
	実習記録:8時40分提出(時間厳守)			

小児看護実習

はじめに

子どもは大人への成長発達の過程にあり、自らの持てる力と適切な環境との相互作用の中で発達課題を達成しながら成熟に向けて常に成長する存在である。

小児看護は子どもとその家族が社会との繋がりの中で身体的、精神的、社会的な存在として、それぞれの健康レベルに応じて健やかな成長発達が遂げられるよう最善の利益を守ることを目的としている。子どもたちの成長発達は、日常の生活である育てる人々の環境が大きく影響を与えているため、実際の子どもたちに直に関わる臨地実習での学びの意義は大きい。

既習学習では、子どものより良い成長発達を促すための環境因子についての知識と保育や看護に必要な技術を学習してきた。これらをもとに、健康な子どもの成長発達と、それを促す関わりについて保育園実習を行い「これからの未来を担う子どもたち」を育む者としての考えを深める。次に健康障害を持つ子どもの看護について病棟実習を行う。疾病や治療が生活や成長発達に及ぼす影響を理解し問題が最小限にとどめられるよう子どもとその家族に対して適切な援助を実施する。これらの経験を踏まえ、健康・不健康を問わず子どもがよりよく育つために必要なことを見出し、小児観・小児看護観を深める。

1. 実習目的

小児各期の特殊性を理解し、小児看護に必要な能力を養う

2. 実習目標

- 1) 小児の成長発達と影響因子を理解する
- 2) それぞれの小児にふさわしい環境について理解し、整える
- 3) それぞれの小児期の特徴や家族の状況を踏まえて関係を築く
- 4) 患児とその家族に対する看護の必要性を理解し援助する
- 5) 小児看護実践を基に小児観、看護観を深める
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する

3. 時間数と単位数

90時間（4月各論オリ1.5h 保育園現地オリ2h 保育園実習22.5h
病棟実習52.5h 学内11.5h）
2単位

4. 実習場所

保育園実習：藤枝市 前島保育園・みわ保育園
焼津市 旭町保育園・石津保育園・小川保育園
小児病棟実習：藤枝市立総合病院 4B病棟
焼津市立総合病院 3B病棟

5. 実習内容・実習方法

実習目標1 小児の成長発達と影響因子を理解する	
学習活動	実習内容と学習方法
① 乳幼児の発達段階を考察する	小児の成長発達や発達課題(デンバー、遠城寺評価表)基本的な生活習慣の獲得について事前学習し、対象の発達段階に適した関わり方についてイメージする。 各クラスの園児の生活の様子や自身の関わりに対する反応を観察し、年齢による特徴や個人差、月齢差、個別性など小児の発達段階について実際の様子を観察記録し、それを基に既習学習の知識に照らし考察し日々記録に表す。
② 健康な乳幼児の成長発達を促す要因を考察する	小児の成長発達や発達課題、成長を促す因子等について事前学習する。 各発達段階の様子や保育士さんの関わり様子と反応の様子、あらゆる刺激と反応について実際に観察し、成長発達を促す要因について気付いた事の意味について知識を活用して考察し表す。
③ 患児の入院前の発達段階を捉える	既習学習を活用し、受け持ち患児の成長発達の理解に必要な情報に着眼する。 入院前の健康な段階の生活の様子、発達段階などの情報をカルテ、家族、チーム、患児などから適した方法を選択して情報収集する。収集した情報を成長、発達段階、家族機能などについてアセスメントする。収集した情報をもとに全体像に表し、入院前の様子を捉える。 →実習目標4①②に繋げる。
④ 患児の疾患や治療による成長発	現在の患児の疾患、症状、治療などを自己学習により理解する。そして、入院や疾病前後の情報収集と照合し、成長発達への影響をアセスメントし、事実に基づいて全体像にまとめる。

達への影響を捉える	情報の追加や指導、助言、カンファレンスを活用してアセスメントを深め追加修正し、具体的な影響を捉え表す。
実習目標2 それ	それぞれの小児にふさわしい環境について理解し、整える
① 乳幼児に必要な生活環境を整えながら、ふさわしい環境について考察する	乳幼児の事故防止、感染防止、成長発達の促しについて事前学習する。各クラスの保育士さんと共に保育に参加し、発達段階に適した生活環境や発達を促す生活環境、安全を守る生活環境などについて意識的に観察する。事故防止、感染防止などの観点からも常に環境整備を心掛け実施する。この経験をもとに乳幼児期に必要な環境について考察を表す。
② 病児にとっての危険を踏まえ、安全な環境を整える	小児病棟の安全管理について既習学習し、病棟オリエンテーション、同行実習などを踏まえて、病児にとっての安全な環境を理解する。理解をもとに受け持ち患児にとっての危険とは何かを健康障害や発達段階を含めてアセスメントする。患児にとっての安全な環境を考え、計画的に環境整備や生活援助、治療などの場面を整える。また、実践を振り返り、必要に応じて安全の視点から計画を評価修正する。
③ 病児にとっての安寧な環境を理解し安楽を提供する	受け持ち患児の発達段階、入院前の様子と現在の様子などの情報からアセスメントし、児の表情や反応、不安感、不快感、生活のし難さなど患児の安楽を妨げる要因について理解する。保育園実習での経験を活かし、児の状況に合わせて自身の態度や姿勢、雰囲気などコミュニケーションや関わりを工夫し、児の生活リズム、関わりのタイミングなどに配慮する。必要に応じて安楽の視点から援助計画を評価し、追加修正する。
④ NICUの看護に必要な環境について考察する	新生児、未熟児の身体的特徴を理解し、NICUの看護について事前学習する。看護の原則(感染予防、保温、栄養、安静)デベロップメンタルケアなどの実際を見学、観察し、児や家族に対する看護の実際を学ぶ。母子を中心として継続看護、地域連携、多職種連携などの必要性も含め様々な視点で看護の必要性を理解する。
実習目標3 其々	の小児期の特徴や家族の状況を踏まえた関係を築く
① 発達途上にある乳幼児の年齢や背景、状況に応じて関わる	小児との発達段階に応じたコミュニケーション方法、姿勢、社会性や遊びの発達などについて事前学習する。保育士さんの関わりを参考に各クラスの乳幼児と自ら積極的に関わり、児の反応を確認しながら安心して過ごせるよう状況に応じて工夫する。判断に困った場合などは保育士さんに相談し、より良い方法を検討しながら関わる。
② 疾患や治療による影響を理解し、児の最善の利益を尊重した関わりをする	受け持ち患児の疾患や治療の状況について情報収集やアセスメントをもとに理解する。(実習目標4②参考)児の意志や情緒を尊重しながらも、患児の疾病回復や成長発達に向け看護の必要性や方法の工夫を計画する(実習目標4③参考)。計画に基づいて看護援助を実施する。その際も行為をしながら児の反応を観察し、ふさわしい関わりを実施する。経験を通して、患児にとっての最善の利益について、その考え方を学び理解を深める(→目標5②へ)。
③ 信頼関係が築けるよう、患児の状況にふさわしい安心できるコミュニケーションを図る	現在の患児の状況を理解し、ケアに必要なコミュニケーションの工夫を理解する。必要に応じて遊びや学習、プレパレーション、ディストラクションなどを計画的に実施する。児の発達段階と意志を尊重してふさわしい姿勢、表現、反応など患児との関わりについて自己を振り返りながら深めていく。
④ 患児家族の状況を理解し、ふさわしい関わりをする	患児の疾病、入院によって家族に起こった変化について情報収集し、影響をアセスメントする。家族の状況を理解し、患児の症状改善や健康回復、家族看護の継続などに向けて必要な支援や関わりを明らかにする。そして、現在の家族の状況にふさわしい関わりを行う。
実習目標4 患児	とその家族に対する看護の必要性を理解し援助する
① 患児の現在とその後の健康状態について捉える	受け持ち患児の成長発達、健康状態について患児、家族との関わりや病棟の看護の様子、カルテなどから情報収集する。収集した情報についてPFなどに学習し、身体的(疾病や治療の因果関係や関連データの理解を含め)、情緒的、社会性や発達段階について現在の状況を全体像にまとめ患児の健康状態に関する理解を深める。
② 疾病や疾患による様々な影響を理解し、看護の必要性をアセスメントする	受け持ち患児の疾病や症状のメカニズムを学習し、現在の患児の身体的状況と照らし合わせながら情報収集する。実際の情報をもとに身体的影響、成長発達への影響、生活への影響などをアセスメントし今後予測されることなど看護の必要性や方向性を明らかにする。
③ 根拠を持って具体的な看護を計画する	分析をもとに看護の必要性と具体的な看護方法を計画する。その計画には受け持ち患児や家族への影響を踏まえた安全性、安楽性、適時性・自立性・個別性を踏まえる。
④ 計画を踏まえながら患児に適した看護を実践する。	実施前の患児の状況を情報収集、確認し計画した援助実践が可能か否か、必要に応じて、実施方法の修正、実施時間の修正など、今現在の患児に合わせた看護実践に向けて確認しながら実施する。(状況によっては指導者や教員に相談し、助言、協力を求める)
⑤ 患児家族に対する看護の必要性を理解し実施する	患児の疾病や入院などの状況によって、家族がどのように影響を受けているのか、家族の意志や状況について情報収集し背景なども踏まえて、アセスメントする。それをもとに看護の必要性(看護問題やリスク)を踏まえた援助を行う。(=看護学生として行動に根拠がある。)

	社会資源などの活用についてはチームの計画や実践の様子から理解を深める機会とする。
⑥ 実施した看護の結果を捉え評価しながら実施する。	看護援助は計画的に行うものだが、計画的実施の反応や遭遇した場面、場面での対応が求められる。患児や家族の反応(S,O情報=「結果」)を捉え、反応から自身の立てた計画や実施中の言動を振り返り、次の関わりがより良く実施できるよう活かす。
実習目標5 小児	看護実践を通して小児観、看護観を深める
①乳幼児との関わりから自身の小児観の深まりを明らかにする	小児の特性や社会における子どもの役割などについて事前学習する。保育園実習での乳幼児との実際に関わりやカンファレンスなどを基に子どもに対する理解や考え方、価値観などがどのように変化したのか、または変化しなかったのか、経緯を含めその時点での考えを明らかにする。
②健康障害を持った小児の看護をもとに小児看護観の深まりを明らかにする。	小児病棟で病児とその家族に関わった経験を基に、看護師としての役割や責任、小児や家族、看護チームや他職種との関わり方を含めた「小児看護とは」どのようなものと感じ、考えたのか報告し明らかにする。その際、自身の考えの参考になった既習学習、理論など知識の裏づけ、根拠を明示する。
③小児看護について自己の意志を表し深める	保育園実習での乳幼児との関わりから得た小児観に加え、健康障害を持った小児とその家族との関わりから、健康不健康を問わず、小児の権利を尊重した看護者としての自己の意見、考えを明らかにする。
実習目標6 看護	学生として自らの行動に責任を持ち、看護倫理に基づいた行動をする
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる	看護を学ぶ大人の学生として求められている社会的なルールやマナーを守る。臨床では、時間、身だしなみ、接遇など実習生としてふさわしい振る舞いや行動をとる。また、保育園や実習病棟など実習施設でのルールにあわせて行動する。不足があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる	対象の患者、家族のみならず、自身が関わる人々について、看護学生として知り得た個人的事柄について安易に誤った判断をせず守秘義務を守る。また、患者や家族の訴えに耳を傾け、発達段階や背景を踏まえながら理解する。そして看護学生として健康や生命、意思の重さを理解し、身体的、精神的苦痛、生活のし難さ、成長発達のし難さなどに配慮した行動をする。また、学生間、多職種間においても自他の違いを認めながら意見交換し理解を深める。
③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする	自身のなりたい看護師像を目指し「自己の課題と目標」を意識しながら学習に取り組む。実習に必要な知識や技術は事前学習し実習に臨む。実習中に経験した事の意味について自ら理解を深め、探求する。日々の気付き、学習したことは学生間のカンファレンスや指導者、教員など意見交換、実習記録などで確認する。実習中はチームメンバーと場、時間、状況を共有し互いに歩み寄り学習が深まるよう関わり、学び合う。
④ より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する	患児・家族の健康や成長発達、QOLの維持向上に向けて必要な情報を収集し、報告・連絡・相談する。情報は看護チームや保健医療福祉の専門職間で共有されるため適切な専門用語を用いて表現する。また、看護に必要な情報を申し送りやカンファレンス、カルテなどから情報共有し、常に最新の情報を得て、看護援助に活かす。その際、看護師として知り得た情報を適切に管理する。患児、家族の個人情報守秘義務を遵守する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	看護援助の実施に限らず、学習や技術練習、カンファレンス等もよりよい看護実践のための重要で貴重な時間であるため時間管理し計画的に進める。実習中は疲労やストレスもあるが、他者に心配や迷惑をかけないように看護学生として自己の心身の健康管理を行う。必要に応じてメンバーや指導者、教員に相談し、必要な休養や対策をしつつ安定した状態で実習する。
⑥ 常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	看護師として働く者になるため、また自身が一人の人間として成長できるよう常に目標をもって実習に臨み、自己の価値観、看護観を深めていく。そのため看護実践や他者との関わり、学習の仕方、生活の仕方など様々な感じた事、気づいた事を謙虚に振り返り、自身の学びとして成長の糧とする。

6. 実習の動き

1)実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2)実習計画

日程	1.2.3	4	5.6.7.8.9.10	11	12
実習内容	健康な乳幼児の成長発達	健康な乳幼児への支援のまとめ	5日目＝同行実習：病棟オリ受け持ち患児決定、6～10日目＝看護の実践	NICUの看護実習のまとめ	小児実習での学びのまとめ
実習方法	臨地実習	学内演習 個別面接	臨地実習 同行実習	臨地実習 反省会	学内演習 個別面接
時間	7.5h×3	4h	7.5h×6	7.5h×1	7.5h×1
場	各保育園	学内	小児病棟	各小児病棟	学内
服装	活動できる服装+エプロン		実習着+小児用エプロン	実習着	

提出物	日々の実習記録 3日間の実習記録ルーブリック自己評価表 「小児観」レポート	・事前学習ポータルフォリオ ・実習計画・前日の実習記録 ・追加:適宜実習記録 ・適宜ルーブリック評価表	NICU事前学習 実習記録水全て	発表資料 NICU記録 ルーブリック 自己評価
-----	---	--	---------------------	----------------------------------

* 学内日の実習目的と内容

実習4日目:

実際の健康な乳幼児への関わりを基にした理解と「小児観」について自己の意見を深める

- ① 各学生の経験を基にした乳幼児の発達段階や基本的生活習慣の獲得のための支援について意見交換し、各個人の意見を深めまとめる
- ② 個別に面談を行い、小児看護実習に向けての「自己の課題、目標」などを確認し実習に活かす
- ③ 病棟実習に向けて輸液準備と管理について学習し練習する

実習最終日:

小児看護実習での学びを意見交換、共有し既習学習などを踏まえた「小児観」を深める

- ① 「小児実習での学びのまとめ」グループディスカッション
- ② 小児看護実習で自己の目標達成と今後の課題目標について個別に面談
- ③ 意見交換をもとに実習記録のまとめ、翌日提出
- ④ 国家試験対策用小児問題を行い、実習で学んだ経験を活用し知識の確認を行う

7.看護技術の到達と実施

到達度 I:単独で出来る II:指導のもとで実施できる III:学内演習で出来る IV:知識として解る

	技術項目	到達度	実習方法と留意点
環境	病床環境 基本的ベッドメイキング	I	日々のケアの中で計画的に実施する。 シーツ交換日などに合わせて実施する。
		I	
食事	食事介助 食事摂取のアセスメント 栄養状態アセスメント 疾病に応じた食事介助の指導 個別性を反映した食生活改善計画	I	栄養状態は成長の様子と合わせてアセスメントする。(身体計測値・血液検査データ・発達の指数計算等)治療や症状に応じた食事摂取の観察と介助の必要性のアセスメントをもとにした介助の実施。 食事指導の必要性をアセスメントし、応じて食事介助や生活習慣としての食事の指導を指導者やチームと検討して行う。
		I	
		II	
		II	
		II	
排泄	自然排便を促す 排尿を促す ポータブルトイレの介助	I	乳幼児ではあまり実施されることがない援助だが、必要に応じて、トイレやオマルでの排泄を促す。
		I	
		II	
活動と休息	車いす移送 睡眠状況のアセスメント ベッドから車椅子への移送 安静保持の援助	I	小児実習での移送は行動の制限や点滴やドレーンなどのチューブ管理も合わせて行うことが多いので指導者と共に実施する。 小児の睡眠や休息は症状や治療、環境変化などによって影響される。睡眠は安静や休養の視点からも必要となるため生活リズムや家族状況などにも配慮してアセスメントをもとに計画的に実施する。
		I	
		II	
		II	
清潔	手浴足浴時の観察 洗髪時の観察 口腔ケア時の観察 身だしなみの観察 点滴等のない臥床患者の寝衣交換 入浴介助 陰部洗浄 臥床患者の全身清拭 臥床患者の洗髪 口腔ケア 点滴のある患者の寝衣交換 沐浴	I	乳幼児の清潔援助は基本を応用し、安全で短時間で実施することが求められる。実施は家族とも協力して行うが、観察の必要性和ポイントとはあらかじめ計画し実施する。 清潔介助の実施は必ず指導者や教員と共に行う。実施は安全性や安楽性はもちろん、プライバシーの保護や児と家族の協力などを求められるよう言葉がけを十分にし、安心してできるように配慮する。
		I	
		I	
		I	
		I	
		I	
		II	
		II	
		II	
		II	
		II	
与薬	点滴静脈内注射の輸液管理 輸液ポンプの基本的操作ができる 経皮・外用薬の予約方法がわかる 静脈内注射の実施方法がわかる 薬理作用を踏まえた静脈内注射の危険性がわかる。その他予薬の項目	III	病棟実習の安全管理の中で看護師に同行し、点滴静脈内輸液・経口与薬・吸入薬・その他の与薬の看護援助と一緒に見学、または実施する。与薬は患者確認・指示量確認・薬品確認・与薬方法確認など細心の注意をしながら実施することを確認する。輸液セットの用意輸液ポンプ操作については各自練習してみる。
		III	
		IV	
		IV	
		IV	
		IV	

症状 生体機能管理	バイタルサインズ測定 一般状態の変化に気づくことができる 系統的な症状の観察 バイタルサインズ・身体計測等からのアセスメント	I I II II	計測前には、対象の一般的正常値、最近の測定結果測定器具の選択測定方法などを確認しておく。 症状や治療に応じた随伴症状の有無など観察項目については事前に学習したことを指導者や教員に相談し根拠を持って実施する。これを基にアセスメントする。
感染対策	標準防護策に基づく手洗いの実施 必要な防護用具の装着 使用した器具の感染防止の取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い	I II II II	小児病棟での感染防止対策を遵守すること。自己の健康管理は十分に行い、手洗いやゴム手袋、エプロン、マスク等を適切に使用する。感染性廃棄物の恐れのある体液付着物(便・尿・唾液・吐物等)の取扱いは指導者や教員とともに実施する。
安全対策	患者誤認防止対策の実施 患者の特性に適した療養環境の調整 患者の特性に適した転倒転落防止対策		小児病棟での安全対策を遵守すること。 小児の行動は予測不可能で危険回避行動は未発達なため常に観察を行い、安全のための確認と環境整備を怠らない。
安楽確保	患者の状態に合わせた安楽な姿勢保持 患者の安楽促進のケア	II II	活動制限などがストレスの原因とならないよう、範囲内での気分転換活動を考慮する。また、小児の行動を観察し個々の楽な姿勢・体位を考慮する。

8. 提出物一覧:最終記録は下記を参照し、インデックスを貼付しファイルに綴じて定時に提出する。

- ① 小児看護実習評価表・実習総括表(目標⑥)
- ② 「私が考える小児看護について」
- ③ 「小児看護実習の学びのまとめ」
- ④ 全体像
- ⑤ 分析用紙
- ⑥ 病棟実習記録(同行実習・日々の計画・援助計画と実施)
- ⑦ NICU記録
- ⑧ 保育園実習「小児観」
- ⑨ 保育園実習第1～3日記録

9. その他

1) 事前検査について

保育園実習前に検便検査(細菌検査)を実施するので、事前の指示を確認し提出する

2) 事前学習について

小児の発達課題、成長発達段階について春季休暇中の課題と「学習内容と方法」を参照

3) 保育園臨地オリエンテーションについて

・4月18日(木)14:00～、各保育園にて現地オリエンテーションを実施するので、実習保育園にて説明を受ける。交通手段等は各自事前に確認の事。当日は実習要項・筆記用具・上靴を持参し実際の保育園での実習の仕方について確認する。終了後は代表者が学校に報告を入れる

・食物アレルギーがある学生は、自ら申し出て給食を辞退しお弁当持参の旨を報告する

4) 小児実習で使用するエプロンは学校のを事前に使用簿に記入して用意する

保育園実習用、病棟実習用其々のエプロンには名札(10×15cmの白地生地に黒字ペン、ひらがな書き)を縫い付ける。

終了後は洗濯アイロンがけを済ませ、次回実習生が使用できるよう速やかに返却し、使用簿に記入する。

5) 保育園実習の実習記録は実習翌日に提出する。

最終日の記録、保育園実習のまとめ、返却された実習記録も全てクリアファイルに入れ4日目に提出する(その後、保育園に届けると3日間の記録とまとめ全てが揃うようになります)。

6) 実習記録は楷書で丁寧に、読みやすい文字の大きさ、濃さ、間隔で記入する。

7) 小児病棟実習では含嗽、手洗いは勿論、各自でマスクを用意し感染予防対策を行う。

体調不良時は事前に報告し、相談する。

8) ルーブリック評価表を活用し実習4日目、8日目に自己評価する。状況に応じて指導者や教員と修正点などについて相談して取り組む。

9) 学びの会、報告会などは学生で連絡調整し、司会進行する。

10) 保育園まで車で送迎してもらう学生は、保育園や周辺の皆様に迷惑にならないよう送迎車の駐停車場所と安全に十分配慮すること

母性看護実習

はじめに

母性看護学は、次世代が健全に生まれ育つために、母性の一生を通し援助する学問である。学内では、女性のライフサイクル全般を通し、身体・心理・社会的側面から女性の健康を捉えている。臨地実習では、限られた時間の実習であるため、妊娠・分娩・産褥期の母子と家族に対する援助、その中でも褥婦と新生児に対する援助を中心として学習を深めていく。

学生は、身近で妊婦・産婦・褥婦や新生児と関わる体験が少なく、対象のイメージ化が困難である。そのため学生自身が実習で初めて見たり、体験したりすることが多い。母性看護実習では、その新鮮な体験を大事にし、意味付け、学びとしていく。生命誕生の場面や母子との関わりの場面での体験を通し、生命の尊さや強さ、人と人との相互依存の大切さや、母性・父性について既習の学習と照らし合わせながら考えを深めていく。

1. 実習目的

母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥期の母子およびその家族に対して適切な看護を実践する能力を養う。

2. 実習目標

- (1)産褥期における正常経過をふまえ、褥婦に対する看護の必要性について理解する。
- (2)妊娠期における正常経過を理解し、妊婦健康診査の意義について考える。
- (3)母子への援助を通し、生命の尊厳・人間存在の価値などについて考え、母性観(自分の考える母性について)を深める。
- (4)新生児の生理的経過を理解し、新生児の看護の原則に基づいた援助の必要性について理解する。
- (5)妊娠・分娩・産褥期における保健指導の重要性について認識し、広く継続看護の必要性について考える。
- (6)看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

90時間＝2単位

母性実習オリエンテーション(1.5時間)、技術練習(1.5時間):4月

実習の課題・目標の確認のための面接、病棟・外来オリエンテーション、病棟・外来実習(67.5時間)

ラベルワーク(7.5時間) 助産院実習(6時間) 学びの整理(6時間)

4. 実習場所

焼津市立総合病院・藤枝市立総合病院・ほほえみハウス(助産院)・くさの助産院

5. 実習目標と学習

目標1. 産褥期における正常経過をふまえ、褥婦に対する看護の必要性について理解する。

学習活動	学習内容・方法
1)妊娠・分娩・産褥経過より必要な情報収集を行う。	原則として正常な経過をたどる事例を受け持つ。全体像を用いながら、今現在産褥何日目でのどのような状態かをまずつかみ、その後妊娠、分娩、産褥経過の中で関連する必要な情報を収集していく。
2)対象の退行性変化を観察する。	褥婦の観察チェックリストを用いながら、全身の変化や復古現象を観察する。栄養や活動休息、排泄などのカテゴリーの情報が、どのように復古に影響するのか関連づけ観察し判断していく。また、復古を促進するための援助についても考えられるようにする。観察の計画、結果、評価は日々記録の中で表していく。観察は指導者、教員とともにいき、観察したことをアセスメントし報告する。
3)対象の進行性変化を観察する。	褥婦の観察チェックリストを用いながら、授乳前後の乳房の観察を行う。母親の身体面(酸素化、栄養、休息など)や心理面の情報を関連づけ判断していく。また、児の体重、哺乳力、吸綴力など児側の影響も考えていく。母乳栄養の利点、乳汁分泌を促進するための援助、授乳方法、搾乳方法について学習し、実際にどのように行われているか観察するとともに、積極的に体験していく。授乳の援助については個別性があるため、指導者、教員とともに行っていき、褥婦の退院後の生活における授乳方法を予測し、援助の必要性とその内容を考えることができるように助言をうける。授乳室では他の褥婦も授乳しているため、他の褥婦の授乳の様子や乳房の状態を観察し、個別性のある援助の必要性を学ぶ。観察の計画、結果、評価は日々記録の中で表していく。
4)対象の心理・社会面を捉える。	褥婦の心理的特徴、母子相互作用、親と子のきずな、褥婦の家族およびサポートシステムについての学習をもとに、自己概念、役割機能、相互依存について情報を得て(コミュニケーションより)捉えていく。
5)対象に応じた毎日の看護の目標を設定する。	毎日の計画用紙に、その日の褥婦の状態にあった目標を立てる。その際、目標を達成させていくために自分が何をするのかを明確にする。

6) 目標に応じた具体的な計画を立案する。	なぜ行うのか根拠を明確にし、産後日数やその日の状態に合わせた実行可能な具体的な計画を立てていく。
7) 実施した結果を褥婦の生理的変化と照らし合わせ、個別的な情報をふまえながら、看護としてどういう意味があるのかを考える。	毎日の記録を用いながら、実施した結果(自分の行動や看護師の行動)にはどんな意味があるのかを考える。一般的な生理的特徴や、日々変化する情報を捉える。知識や情報を活用し、思考していく。 日々の変化が激しいため、計画通りには実施できないこともあるが、その都度修正、変更、補足をしていく。翌日の目標、計画について指導者、教員より助言を受けしていく。
8) 母性意識を促進するための援助について考える。	母子相互作用、親と子のきずな、母親役割・母子関係の成立過程、産褥期の心理的变化についての学習をもとに、母親の声掛け、表情、児の様子を観察し、母子の接触の場に積極的に参加していく。

目標2. 妊娠期における正常経過を理解し、妊婦健康診査の意義を考える。

学習活動	学習内容・方法
1) 受け持ち妊婦の生理的変化を観察し既習の知識と結び付ける。	妊娠経過や妊婦健康診査の内容、妊娠の生理などの学習をもとに、受け持ち妊婦のアセスメントを行う。正常な妊娠経過中の母子の状態、妊婦の腹部の触診(レオポルド触診法)、児心音の聴取、子宮底長、腹囲の測定、超音波診断法、診察に適した体位をとるための介助、診察台の取り扱い、妊婦の体重・血圧測定、血液検査、内診、NSTなどについて学習しておく。子宮底長や腹囲は実際に測定するが、レオポルドの触診や児心音の聴取は指導者とともに行う。医師の行っている診察を見学し、できれば胎児の状態の説明を受ける。また、婦人科的な処置、診察、検査の機会があったら見学を行う。
2) 母子の健康増進における妊婦健康診査の必要性を考える。	実習初日にオリエンテーションを受け、妊婦健康審査の内容や流れを知る。実習日前日に受け持つ妊婦の情報収集をしできる限り把握をする。実習日は妊婦健診の様子を観察するだけではなく、母子の異常の早期発見や、母子の健康の増進、妊婦の心理などについても考え必要性について学んでいく。 受け持つ妊婦の受付から会計までを共にし、コミュニケーションをとり、妊婦の心理面を知る。身体、心理、社会的側面から妊婦を理解し、妊婦健康診査の意義について総合的に考える。

目標3. 母子への援助を通し、生命の尊厳、人間の存在価値などについて考え、母性観(自分の考える母性について)を深める。

学習活動	学習内容・方法
1) 母親の心理、苦痛、喜びなどを共有し、母親の体験を自分のものとして追体験する。	妊婦、産婦、褥婦との関わりの体験全体を通して考えていく。分娩第2期の生命誕生の場面にはできる限りつかせていただき、母親、家族、誕生した子どもの様子を観察し様々なことを感じ考えていく。分娩見学時は、呼吸法、排臨・発露、児娩出(胎位・胎向)、胎盤娩出様式、出血量の測定、胎盤計測、分娩直後、胎盤娩出後の子宮底測定・収縮の観察、一般状態の観察、全身清拭、更衣、家族への連絡・面会、ねぎらいの言葉がけ、子宮収縮促進のための援助、母子の相互作用、カンガルーケア、乳房への吸綴の様子などを観察し、一般的知識と照らし合わせていく。 機会があれば分娩第1期の産婦を受け持ち、バイタルサインの測定、陣痛測定、子宮収縮の観察、分娩監視装置、呼吸法、補助動作、怒責法、排泄・食事の援助などを、指導者や助産師とともに行う。
2) 児の命の力強さを感じる。	分娩を見学し、感じた素直な思いは毎日の記録の裏面や、ルーズリーフに表現していく。
3) 人間の生命は常にいかなる事情のもとでも、意味を持つことを感じる。	機会があれば死産、中期中絶、外表奇形のある児の症例を通し話しあったり、生まれてきた子供の様々な背景を通し考えたりしていく。生命倫理や死生学ともつなげていく。
4) 生命の尊厳、自分の考える母性について述べる。	学内で母性や父性、また母性意識や母性愛という言葉の意味についても学び考えてきているので、多義的で広い意味を持つ母性について自分なりに考え整理していく。生命の尊厳について様々な体験から考える。

目標4. 新生児の生理的経過を理解し、新生児看護の原則に基づいた援助の必要性について理解する。

学習活動	学習内容・方法
1) 新生児の子宮外生活への適応状態を看護の原則に基づき観察する。	事前に作成した新生児のチェックリストをもとに観察を行う。一般の生理的経過やそのメカニズム、正常値、検査値などをもとに全身の観察を行う。
2) 観察した結果を、新生児の生理的経過と個別的な経過と合わせ、正常な経過をたどっているか判断する。	観察した結果を、一般的な経過、受け持ち児の個別的な経過と比較しながら考える。また、妊娠経過や分娩経過が今の児にどのように影響しているかもつなげて考えていく。
3) 新生児の子宮外生活への適応が、速やかにいくための援助の必要性を考える。	新生児の看護の原則(安全・保温・感染予防)に基づいた観察、処置を行う。機会があれば出生時の児の取り扱い(アプガールスコア採点、顔拭き、吸引、識別、第1沐浴、体重測定、奇形・分娩外傷・皮膚の観察、成熟度の観察、臍処置など)を指導者とともに行う。医師の行う新生児の診察につき、どのような根拠でその診察が行わ

れているのか確認していく。光線療法中、保育器収容中の児の症例があれば見学し、看護の必要性について学ぶ。

目標5. 妊娠・分娩・産褥期における保健指導の重要性を認識し、広く継続看護の必要性について理解する。

学習活動	学習内容・方法
1) 妊娠・分娩・産褥期における保健指導の必要性について考える。	外来における指導(個別指導、栄養指導、母親学級、父親学級、1ヶ月健診など)、病棟における指導(沐浴指導、調乳指導、退院指導、電話訪問、家庭訪問など)の見学、参加することで、母性看護における保健指導の必要性を考える。
2) 地域における母子保健活動の場としての助産所の活動を学び、看護の役割を考える。	助産所におけるのさまざまな活動を知り、地域における母子保健活動の実際を学ぶ。 学習内容: 妊婦健康診査、分娩見学、母親学級、産後の指導、新生児の沐浴、家族への援助、助産師としての地域における母子保健活動、開業助産師としての思い、助産所を分娩場所として選ぶ対象の思いなど
3) 妊娠・分娩・産褥期における継続看護の必要性について考える。	保健センター実習や外来実習、講義で学習した母子保健事業と臨地実習での学びを結び付け、母性看護における継続看護の必要性について学ぶ。

目標6. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

学習活動	学習内容・方法
1) 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	身だしなみ、挨拶、言葉遣い、表情、しぐさ、立ち振る舞いなどマナーを意識した行動をとる。 褥婦、新生児の情報を得るため余裕をもって実習病棟に行く。病棟のスケジュール、褥婦のスケジュールに合わせ行動していく。記録物やレポートなど決められた期日を守り提出する。 新生児室や分娩室への出入り時には感染予防に留意する。学年章ははずし、髪は垂れてこないようにきっちりと止める。
2) あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	妊・産・褥婦・新生児および家族の尊厳と権利を守り、看護学生としての役割を自覚し、責任を持った行動をとる。 健康障害のある患者とは違うため、訪室の仕方も考える。 実習中不明な点は放置しないで自ら解決していく姿勢を持つ。
3) 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高め合う努力をする。	事前学習のみならず、実習中の学習を大事にし、ポートフォリオにしていく。学生間で教えあい学びあうことを大事にする。 褥室、新生児室、外来、助産院と学びの場が広いので、学生間で申し送りをし困らないようにする。 分からないことはまず学生間で解決する努力をし、必要時教員や指導者に相談し助言を受ける。 関連図の検討、日々のカンファレンス、テーマカンファレンスなど学生主体で運営し、建設的に進めていく。
4) より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有して責任を持って情報を共有する。	病棟のスケジュールやスタッフの動きを把握し、状況を見ながら報告をする。アセスメントし、情報を共有する必要があることを報告する。 いつ誰に何を報告する必要があるのか考える。 必要な連絡や相談も学生間でしっかり行っていく。教員・指導者との連絡や相談も必要時行っていく。
5) より良い看護を行うために、自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	心身ともに安定した状態で実習に臨むことは大前提である。新生児室、授乳室の出入り時には特に感染予防に留意する。体調によっては入室を控えたり、実習中止になる場合もある。 健康状態が良好でないと感じた場合には、早めに連絡・相談をする。必要時はマスクを着用する。
6) 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	ありがたい自分像を大切に、常に看護者としての自己を振り返る努力をする。強みや良い面も振り返り、自己の成長を自覚していく。 助言を受けたことは自分に返し考え活かしていく。

6. 実習の動き(各実習場所での展開)

1) 実習期間

12日間(実習カレンダー参照)

2) 実習計画

4月…母性看護実習オリエンテーション1.5時間 技術練習1.5時間

日	時間数	実習内容	カンファレンスなど	備考
1	7.5	実習の課題・目標の確認のための面接 病棟・外来オリエンテーション		実習に臨むにあたって、自己の課題・目標を確認する。 病棟、外来オリエンテーション、デモンストレーションを受ける。

		チェックリストの確認		産褥、新生児の観察のためのチェックリストをグループで出し合い確認する。
2	7.5	病棟実習①	ショートカンファレンス	病棟実習①～④はそれぞれの場所(外来1日、褥室4日、新生児3日)でローテーションしながら実習を行う。
3	7.5	病棟実習②	ショートカンファレンス	
4	7.5	病棟実習③	ショートカンファレンス	
5	7.5	病棟実習④	関連図の検討	
6	6	学びの整理日(8:45～15:45)	実習の学びの整理(学内)	アドバイスを受けながら、実習で体験したことが看護としてどのような意味をもつか整理していく。
7	6	助産院実習(9:00～16:00)	1日の振り返り	1日の実習を大切に主体的に学ぶ。
8	7.5	病棟実習⑤	ショートカンファレンス	病棟実習⑤～⑧はそれぞれの場所(外来1日、褥室4日、新生児3日)でローテーションしながら実習を行う。
9	7.5	病棟実習⑥	テーマカンファレンス	
10	7.5	病棟実習⑦	関連図の検討	
11	7.5	病棟実習⑧	それぞれの場で実習しながら学びの会・面接	
12	7.5	実習のまとめ(ラベルワーク):学内実習	ラベルワークと発表(学内)	グループ間で学びを共有する。

- * 実習予定はグループごと異なるため、実習予定表を実習前に配布する。
- * 実習6日目の学びの整理は、参考書などが整っている学内で行う。
- * 実習7日目は基本、助産院実習であるが、6日目と11日目が助産院実習となるグループもある。(実習カレンダーおよび実習グループごとの予定表参照)
- * 実習12日目は、学内にて、グループ間での学びを共有するため、ラベルワークを行い発表する。

3)実習内容

(1)妊婦の看護 <外来実習>

- ① 外来のオリエンテーションを受ける。(実習初日の午後)
- ② 1人の妊婦(できれば妊娠後期の妊婦)を受け持って、受付から会計まで行動を共にし、目標に沿って学習する。 * 実習前日の午後に受け持ち褥婦の情報収集をする。
- ③ 時間があれば不足した学習内容を他の妊婦により実習する。
- ④ 実習終了後、病棟に戻りショートカンファレンスを行う(実習状況により参加できない場合もある)。
- ⑤ 外来実習翌日に、実習記録を所定の場所に提出する。

(2)新生児の看護 <新生児室実習>

- ① 実習初日にオリエンテーションを受ける。
- ② 1人の新生児を受け持ち、個々に作成したチェックリストをもとに観察を行う。
- ③ 沐浴を実施する際は、必ず指導者のもとで行う。(1回は実施する)
- ④ 新生児は急変しやすいので、指導者への報告・連絡は密にする。

(3)褥婦の看護 <褥室実習>

- ① 実習初日にオリエンテーションを受ける。
- ② 原則として正常な経過をたどる褥婦を受け持つ。
- ③ 子宮復古状態や乳房の観察を初回は指導者と共に行い、不明な時や異常を観察した時は必ず指導者の確認を求める。個々に作成したチェックリストを活用する。
- ④ 乳房については個別性が強いので、受け持ちだけでなく他の褥婦の授乳場面に積極的に参加する。

(4)産婦の看護 <分娩室実習> * 対象がいる時に随時見学に入る *

- ① 実習初日に分娩台の扱い、物品の位置、分娩の記録等のオリエンテーションを受ける。
- ② 原則として正常な経過をたどると予測される産婦の分娩につかせてもらう。
- ③ 分娩見学後の感じたことを、別紙に記入する。(新鮮な感想を残しておくため)

(5)助産院実習

ほほえみハウス・くさの助産院

- ① 公共交通機関を利用する。

<ほほえみ助産院>

JR掛川駅下車南口へ、市内循環のバスもあるが、タクシーでワンメーターなので乗り合わせてくるのが望ましい。

<くさの助産院>

JR草薙駅下車、バスもあるが混んでいる。徒歩で2区間。タクシーで乗り合わせて来てもいい。

- ② 各自昼食は用意する。
- ③ 9:00に全員そろって実習場に入り挨拶をする。

- ④ 服装は学校指定のポロシャツ、ピンクのエプロン、華美でないジャージ、髪型は病棟実習に準ずる。スリッパを持参する。
- ⑤ 1日の実習を大切に主体的に実習する。
- ⑥ 実習記録は翌日担当教員に提出する。

(6) デモンストレーション

褥婦の観察、新生児の取り扱い・観察、新生児の諸計測、沐浴、胎盤計測、分娩台の取り扱い、乳頭・乳輪マッサージ法、産褥体操、分娩監視装置等

(7) ラベルワークについて

- ① 目的: 母性看護実習で学んだことについて、グループメンバーとの対話を通して考えることで母性看護で大切なことは何かを明確にし、実習での学びのまとめとする。また、ワークを通してメンバー間での学びの共有を図る。
- ② テーマ: 「母性看護で大切なこと」
- ③ 注意点: メンバー全員が、ラベルの意味がわかるように話し合う。
ラベルは一人の人格であり、ラベルの言おうとしている内容を検討する。(同じ単語を集めるのではない!)
* 詳細は当日説明する。
- ④ 用紙: 指定の用紙にピンクのラベルを貼り、グループで検討した「タイトル」を記入する。

7. 看護技術の到達項目と学び方

母性看護では沐浴、授乳指導、子宮底の測定、計測、乳房管理、新生児の毛細血管採血、保育器の取り扱いなど特有な看護技術が多い。基礎看護技術をもとに主体的に見学したり、体験したりしていく。

☆必ず到達したい技術

「指導のもとで沐浴が実施できる」

8. 提出物一覧

- 1) 次の順序で記録物をファイルし、インデックスをつけて提出する。
 - ① 評価表、ルーブリック評価表
 - ② 総括表
 - ③ ラベルワーク用紙
 - ④ 全体像記録用紙(褥室)
 - ⑤ 関連図記録用紙(褥室)
 - ⑥ 毎日の実習記録用紙(褥室)
 - ⑦ 関連図記録用紙(新生児)
 - ⑧ 毎日の実習記録用紙(新生児)
 - ⑨ オリエンテーション記録用紙、外来実習記録用紙、助産院実習記録用紙
 - ⑩ 褥婦・新生児のチェックリスト

2) 実習中のポートフォリオ

精神看護実習

はじめに

精神看護実習では、病院に入院している精神障がいをもつ人の理解に基づき、その人の生きにくさに気づき、その人にあつた関わりを実践することを学ぶ。さらに、地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の思いを知り、その支援と役割を学ぶ。

精神保健医療福祉は、医療の進歩や社会状況の変化に伴い、施設中心の医療から地域支援に重点を置いた施策へと舵が取られている。精神保健福祉法の改正に伴い、精神障がいをもつ人の生活の場は、病院施設から地域での生活へと変わろうとしている。しかし、いまだに施設中心という現実もある。なぜ、地域での生活に移行し難いのかを考えることで、精神障がいを持つ人が置かれている現実の環境を考える機会としてほしい。

日々の生活の中で精神障がいを持つ人と接することはあまり無いのかもしれない。そのため、実習に臨むにあたって戸惑いや不安を感じる者もいるであろう。そういう自分自身の感情を手掛かりとして自分自身と向き合い、ケアの道具としての自分の特徴や傾向を知る機会としてほしい。また、自分自身が他者に与える影響を考えながら関わり、その関わる相手の言動の意味を様々な視点で理解しようと試みることが、信頼関係の構築につながるということを体験してほしい。そのプロセスを通し、人が人を理解するというこの意味を深めていくことを期待する。

1. 実習目的

精神に障がいをもつ人およびその家族との関わりを通してその人を知り、こころを病むことにより生じる日常生活や対人関係の困難さを理解する。さらに人間関係を基盤とする患者ケアを実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

2. 実習目標

- 1) 精神に障がいがある人に関心を持ち、全体としてのその人を理解する。
- 2) 精神に障がいがある人が、その人らしく生活していくために必要な看護を考え、実施に活かす。
- 3) 精神に障がいがある人との関わりを通して、自己理解を深める。
- 4) 精神科看護の特殊性がわかる。
- 5) 地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の思いを知り、地域で暮らすための支援と役割を理解する。
- 6) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

90時間 2単位(実習オリエンテーション1.5時間、臨地オリエンテーション2時間、病棟実習75時間、デイケア実習7.5時間、学内実習4時間)

4. 実習場所

病棟実習: 藤枝駿府病院3階病棟、4階病棟(藤枝市小石川町2-9-8 Tel054-641-3788)

焼津病院療養病棟(焼津市策牛48番地 Tel054-628-9125)

精神科デイケア:

藤枝駿府病院 デイケア

焼津病院 デイケア

5. 実習内容・実習方法

実習目標1 精神に障がいのある人に関心をもち、全体としてのその人を理解する。	
学習活動	学習方法
① 受け持ち患者の現在の状態、現在に至るまでの心理・社会・身体面を捉える。	・原則として1名の患者を受け持つ。 ・カルテ、カーデックス、関わりや観察、担当医師・看護師、精神保健福祉士、作業療法士から受け持ち患者の以下について情報収集をし、「全体像」をとらえる。 * 出生から現在までの生活や状況 * 現在の状態や一日の過ごし方 * 薬物療法やリハビリテーションも含めた治療内容 等 ・事前学習を基に必要な情報を考える。 ・心理・社会的な生活と精神障がいの関連を理解しながら捉え、発達段階の達成度などに活かしていく。
② 現在の身体的側面、心理・社会的側面の理解をする。	・「全体情報用紙」を活用し、収集した複数の情報から生理的様式および心理・社会的様式における行動(反応)として整理し、症状・治療と結びつけながら現状を理解する。そこから根拠を持った看護の視点につなげる。 ・心理・社会面は、表情・しぐさ・意欲の有無・人付き合いなど非言語的コミュニケーションや観察を通し、患者の視点でその意味を考える。 ・社会の中で置かれている患者の状況や家族も含めたそれぞれの思いも、心理・社会面の情報として整理する。
③ 受け持ち患者の発達課題の達成状況を捉える。	・「発達課題とその達成度」の用紙に、エリクソン、ハヴィガーストなどの発達課題を参考にして、対象の発達プロセスを考える。発達プロセスに対する障がいの影響も

	踏まえて理解する。現発達段階の課題だけにこだわらず、発症時の発達段階を加味してとらえていく。 ・前段階と現段階の「発達課題とその達成度」は単に情報を羅列するだけでなく、各発達段階の自己概念・相互依存・役割機能の視点も視野に入れ、どのような人生を歩んできたのかを考える。
④ 受け持ち患者の日常生活の健康な部分と困難な部分を患者の視点で理解する。	・患者の発達プロセス・日常生活での行動から患者の持てる力を見出し、「看護する上での着眼点」に表現する。 ・作業療法や病棟内活動、生活やコミュニケーション、対人関係を通して、その人の健康な面や困難な面を考える。単に、結果として「できる」「できない」という視点だけでなく、部分であってもできているところや健康な部分に目を向ける。
⑤ 症状や障がいや日常生活や対人関係にどのような影響を与えているかを理解する。	・実習目標1-①～④までに取り組み、症状や障がいや患者の身体・心理・社会にどのような影響を与えているか、また、それぞれがどのように影響し合っているかを考え、毎日の記録や総括、カンファレンスなどで表現する。
⑥ 精神に障がいをもつ人の家族の状況を考える。	・家族と患者の関係に注目する。家族がいない患者の場合は、過去の家族との関係を看護師に確認する。 ・カンファレンスを通して、家族や他者の立場から、症状や障がいの影響を考える。
⑦ 対象のその人らしさを理解する。	・患者の状態をよく観察し、対象の言動の意味を、状況・症状、個別性を踏まえて考え、毎日の記録に表現する。いくつかの場面を統合、実習目標1-①～⑥および実習目標3-①を統合した中から「その人らしさ」をとらえ、毎日の記録や「必要な看護」の根拠、総括などに活かす。 ・スタッフカンファレンスでは、自分がとらえた患者像について発表する。看護師と患者の理解について意見交換し、その気づきを自己の対象理解に活かす。
⑧ 症状や障がいや受け持ち患者の人生にどのような影響を及ぼしているかを考える。	精神障がいや発達課題の現在の達成状況や生活、家族との関係、今までの人生にどのように影響しているかを考える。毎日の記録、カンファレンス、面接等で表現し、総括でまとめる。 総括では①～⑦までの理解をふまえて⑧について述べる。
実習目標2 精神に障がいのある人がその人らしく生活していくために必要な看護を考え、実施に活かす。	
学習活動	学習方法
① 「その人らしさ」をもとに、対象の看護の方向性と「必要とされる援助」を考える。	・「必要とされる援助」用紙を使用し、実習目標1を通しての患者の理解や本人の意向を意識し、根拠を表現しながら長期目標、およびその人に必要な援助を表現す ・長期目標は臨床の方針も踏まえ、現実的な方向性を見出す。 ・援助は身体的な状況や日常生活、治療、治療的関わりなどもふまえる。学生が実施できる援助だけではなく、その患者が必要としている支援・援助を考える。 ・スタッフカンファレンスで自分が考えた援助や関わりについて発表し、看護師と患者の理解について意見交換し、その学びを記録やカンファレンス、総括で述べる。
② 精神科デイケアでの学びを活かし、入院中の看護に必要な援助を考える。	・精神科デイケアでの学びを学生間で共有する。その際は作業療法やレクリエーションや退院支援など、入院中にどのような看護やネットワークが必要かも視野に入れる。その学びを「必要とされる援助」を考える際に活かす。実習目標5-③にもつながる。
③ 対象の「その人らしさ」を活かした関わりや援助を行う。	・日々の援助や病棟内活動において、自分が捉えたその人らしさや患者の持てる力(健康な面)を活かして実践する。 ・スタッフカンファレンスでの学びを活かした関わりや援助を行う。 ・その人らしさの理解や、地域での生活を考えた上で、今の段階でどのような関わりが必要かなど、常に患者に対して患者の理解や知識をもとに根拠をもって目的的に行動する。毎日の計画の中では、自らの援助(行動)の根拠(目的)を明確にする。
④ 患者の反応から自己の看護援助の妥当性を評価し、次に活かす。	・看護援助時の患者の反応を捉え、その反応から自己の看護援助の目的・内容・方法の妥当性を評価する。それを次の援助に活かす努力をする。
実習目標3 精神に障がいのある人との関わりを通して、自己理解を深める。	
学習活動	学習方法
① 対象の言動の真意を考える。	・毎日の記録やプロセスレコードを活用し、対象の生育歴や生活、症状などもふまえて対象の言動の真意をその人の立場から考える。 ・自己の価値観で決め付けない努力をする。
② 対象の気持ちや考えを確かめる。	・言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションやその人を取り巻く環境や状況から患者の思いを考える。 ・自分が考えたことを念頭に置きながら患者の思いを確かめ患者理解に活かす。
③ 自己の在り様や関わりが相手に与える影響を考える。	・学生が関わることや、自己の立ち居振る舞いや在り様も含めた関わりが、環境として患者にどのような影響を与えているか考える。 ・プロセスレコードや毎日の記録を活用し患者の反応や患者—学生関係の現状をとらえる。患者の反応が良い時とそうでない時を比較してもよい。 ・とらえた反応から、ケアの道具として自分の在り方、看護学生としての行動を客観

	的に振り返り、患者—看護者関係における環境として自己の影響を考える機会とす ・カンファレンスや毎日の記録、自己洞察や総括に表現していくとともに、修正していく努力をする。 ・実習4日目にプロセスレコードのカンファレンスを行い、患者に対してどのような影響を与えているかという視点で振り返る。
④ 対象と関わる際の自己の感情に着目することを通して、自己の傾向を知る。	・実習1週目と2週目に関わりの場面の再構成(プロセスレコード)を行い、振り返ること ・コミュニケーションの特徴や思い込み等の癖や傾向に気づく機会とする。 ・プロセスレコードカンファレンスを行い、自己の傾向に気づく機会とするとともに、メンバーのコミュニケーションからも学ぶ。 ・アドバイスを活かしながら自己の傾向を知り課題を明確にする。
⑤ 振り返りを関わりに活かす。	・振り返りで気づいた自分の傾向と患者の傾向を活用して、効果的な関わりにつなげる。 ・気づいた課題と今後の取り組みをカンファレンスや記録・総括などに表現する。
実習目標4 精神科看護の特殊性がわかる。	
学習活動	学習方法
① 対象が受けている治療とそこに対する看護の視点を理解する。	・事前学習を活かし、どのような治療を受けているか情報収集する。 ・薬物療法の副作用を学習し、毎日の観察に活かす。その人にとって、治療としてのリハビリテーションの意味を考える(実習目標4-④とも関連する) ・看護師がどのような目的・方法で管理・ケアしているかを確認する。
② リハビリテーションの実際から精神科におけるリハビリテーションの意味を考える。	・精神科リハビリテーションについて事前学習をする。 ・患者が行っているリハビリテーションを知る。また、どのような目的で行っているのかを患者に確認する。 ・看護師や作業療法士にその意図を確認する ・リハビリテーションの実際からその意図やかかわりの意味を考え、毎日の記録や総括、カンファレンスで表現する。
③ 対象が安全に安心して医療を受けられる環境について考える。	・隔離も含めた行動制限の実際を捉える。 ・その患者において、なぜその行動制限が必要なのかを考える。また、精神科病棟における行動制限の意味を考える。環境から患者を守るための安全の視点、安心の視点を考える。カンファレンス、記録・総括などに表現する。 ・実際の場面を通して、法律や制度により守られている内容をどのように理解したかを記録・総括等に表現する。(入院形態・経済面・就労支援等)
④ 対象に対する看護師の関わりが意図する意味を考える。	・看護師が受け持ち患者および病棟の患者にどのように関わっているかを知る。それぞれの看護師のかかわり方の違いも知っていく。 ・なぜそのような関わり方をするのかを考える。また、その意図を看護師に質問し、そこから考え、自分の関わりにつなげていく。
実習目標5 地域で暮らす精神に障がいをもつ当事者の思いを知り、地域で暮らす為の支援の方法と役割を理解する。	
学習活動	学習方法
① 地域で生活する精神に障がいを持つ人の思いを知る。	・プログラムや作業を一緒に行ない、メンバーとの関わりの中から日常生活やその思いを知り、デイケア実習記録に表現する。
② 地域で生活する精神に障がいを持つ人にとってのデイケアの役割を理解する。	・メンバーと関わりやメンバーがどのような目的でデイケアに通っているのかを既習学習やオリエンテーションと統合し、精神科デイケアの役割を考え、デイケア実習記録に表現する。
③ 精神に障がいを持つ人が地域で生活するために必要な支援を考える。	・既習学習やオリエンテーション、メンバーがどのような支援を活用しているのかを知り、家族以外の支援のあり方や方法を考える。他の実習での学びも関連して考えることも良い。カンファレンスも活用し思考を発展させデイケア実習記録に自分の考えを表現する。
実習目標6 看護学生として、実習に臨む主体的な姿勢を持つ。	
学習活動	学習方法
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	・身だしなみ、礼儀、清潔さ、謙虚さ、挨拶、責任感など、他者から看護学生として求められる社会的なルールやマナーを意識した行動をとる。 ・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。 ・不足があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	・患者を一人の人として、その人の生きてきた人生や価値観を尊重した関わりを心がける。 ・その人の気持ちや思いに耳を傾け、価値観を尊重して人間関係を築く努力をする。 ・相手の話をしっかりと聞き、その人にとっての意味を考え、自己決定を支えることを意識する。 ・患者及び家族のみならず、看護学生として関わる全ての人について知りえた個人

	<p>的事柄について自分の価値観で安易に判断することなく、守秘義務を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護専門職を目指す者としての自分自身の意見を持つ努力をする。その際には自分の価値観や考えに拘りすぎず、かつ相手の意見・判断だけに委ねてしまわないよう心がける。
③ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高め合う努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・なりたい看護師像を目指して、必要な学習を判断し主体的に取り組む。 ・実習中は自ら疑問を持ち、解決のための自己学習を深めると共に、学習不足を感じたことに対しては自主的に追加学習をする。 ・実習中に体験したことの意味について自ら考え、そこからの気付きや理解をカンファレンスで表現し、メンバー、指導者、教員と意見交換し、そこからの学びを記録で表現する。 ・学生間でのカンファレンスやラベルワーク、話し合いには積極的に参加し、自らの考えを広げる機会としていく。チームメンバーと時間、場、状況を共有し、学生間で他者を理解すること、自分を理解してもらうことを意識して関わる。
④ より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインや身体的観察だけでなく、関わりの意図や方法、対象の反応がどのような意味を持つのか、情報の意味を考えて報告する。 ・看護学生のみで留めてよい情報か否かを考え、医療チームの一員としての責任を意識して報告し、情報の共有に努める。 ・看護職だけでなく、意識的に多職とも情報の意味を考えて情報交換を行う。 ・申し送りやカンファレンス、カルテなどを活用し看護に必要な最新の情報を得て、看護援助に活かす。看護学生として知りえた情報を責任を持って適切に管理する。 ・常に患者の反応や自分の行動を振り返り、疑問・問題を放置せず積極的に他者に意見を求め、活用する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体質や傾向を理解し、常に自己の健康に留意することで心身とも安定した状態で実習を継続できるように努める。 ・時間管理を行い、生活リズムを整え計画的に実習する。 ・閉鎖された空間での感染予防を考え、自己の体調管理を心がける。
⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がなりたい看護師像および社会人像を持ち、それに向かって今の自分を振り返り、努力の方向性を面接で明らかにする。 ・常に一人の人として成長できるように目標を持って実習に臨み、自己の価値観、看護観の深化につなげる。 ・他者との関わりや看護実践、学習や生活の仕方など、気づいたことを振り返り、自身の成長につなげる。 ・他者と比べて過剰に自己を卑下せず、かつ慢心せず、自分の苦手と同時に強みを知り、強みを伸ばしていく努力をする。

6. 実習の動き

1) 実習期間 12日間 実習カレンダー参照

2) 実習内容

患者1名を受け持ち、関わりを丁寧に振り返る。そのプロセスを繰り返すことで患者の理解を深める。施設実習を行うことで、社会復帰後の生活を理解する。それらを統合し、社会復帰を視野に入れつつ、現在必要な看護を考える。患者のその人らしさを意識した看護の実践を目指す。

3) 実習計画

【実習計画一覧表】

日数	実習場所	時間	内容	学生カンファレンス	提出物
4月	学内	1.5	精神看護実習オリエンテーション		
4月	病院	2	駿府病院・焼津病院現地オリエンテーション		
1	病棟①	7.5	患者との関わり、面接、患者決定		課題と目標
2	病棟②	7.5	検温、患者との関わり		⑨
3	病棟③	7.5	検温、患者との関わり		③④⑧⑨
4	病棟④	7.5	検温、患者との関わり(午前中のみ) プロセスレコードカンファレンス	教員司会	④⑨
5	施設①	7.5	デイケアのスケジュールに沿って実習		
6	病棟⑤	7.5	計画に沿った関わり、スタッフカンファレンスでの発表 中間評価面接	施設実習のカンファレンス	③⑤⑥⑩ 自己評価ルーブリック 学習PF
7	病棟⑥	7.5	計画に沿った関わり、スタッフカンファレンスでの発表	教員司会	⑥⑦⑨
8	病棟⑦	7.5	計画に沿った関わり、スタッフカンファレンスでの発表		⑦⑧⑨
9	病棟⑧	7.5	計画に沿った関わり、スタッフカンファレンスでの発表	教員司会	⑨

10	病棟⑨	7.5	計画に沿った関わり、	⑨
11	病棟⑩	7.5	ラベルワーク、ラベルワーク発表会	⑨⑩
12	学内 8:45～	4	面接	課題と目標 学習PF 自己評価ルーブリック

- * 実習4日目：午前中のみ病棟実習 午後にプロセスレコードカンファレンス
- * 実習5日目：デイケア実習
(4日目・5日目は2グループに別れる。実習内容は交互に変化する。)
- * 実習6日目は、自己評価に基づき中間評価面接を行う。
- * 実習11日目は、グループ間での学びを共有する為、ラベルワークを行い発表する。
- * 実習12日目は、学内にて実習のプロセスを元に面接を行う。

7. 看護技術の到達項目と学び方

到達度 I：単独でできる II：指導の下で実施できる IV：知識としてわかる

	技術項目	到達度	実習方法と留意点
環境	病床環境 基本的ベッドメイキング	I I	患者の状態に合わせて、一緒に行く。または、患者の了解を得て行う。
食事	食事介助	I	精神症状によって必要量の摂取ができない患者に対して介助方法を考え実施する。(拒食・過食) 口腔内の状態や咀嚼・嚥下状態を観察し、窒息予防の声掛けをする。 多飲患者の検査データを確認し、飲水行動と身体症状の観察を指導の下で行う。
	食事摂取行動のアセスメント	II	
	栄養状態アセスメント	II	
	疾病に応じた食事内容の調整	II	
	電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	
排泄	排便を促す	I	腹部の観察、トイレ歩行の回数・所要時間などを観察し、食事・水分摂取の量や活動量、抗精神病薬などの使用薬剤の影響等から、現在の排泄状態を把握する。必要時、排泄を促す援助を行う。
	排尿を促す	I	
活動と休息	患者の歩行・移動介助	I	パーキソニズムや眠剤の影響、精神症状による歩行の不安定さをアセスメントし、転倒しないように共に歩く。症状や薬物療法の影響も踏まえ、十分な休息がとれるように活動と休息のバランスをアセスメントし援助する。
	入眠・睡眠を意識した日中の活動援助	I	
	体動制限による苦痛の緩和		
清潔	入浴前中後の観察ができる	I I	入浴中の観察や援助は患者の許可を得る。 入浴前に必要なものを準備できるか観察し、必要時一緒に行く。入浴の所要時間と入浴後の状態を観察し、どの程度自立して清潔にできたのかをアセスメントする。精神症状やこだわりについてもアセスメントし、不十分なところを援助する計画を立て、患者の同意のもので行う。プライバシーに留意する。
	身だしなみを整える援助		
褥瘡管理技術	褥瘡発生の危険のアセスメント	II	不動やこだわり、精神症状による患者の褥瘡の危険をアセスメントする。
与薬	経口薬の服用後の観察	II	薬剤の種類・効果・服用方法(口腔内崩壊錠や水薬が処方されている根拠を含む)を自ら調べる。服用後の吞み込み確認の工夫を指導の下実施する。 精神科で扱う薬剤の多くは劇薬である。管理の必要性を理解し、管理の実際を見学する。
	経口薬の種類と服用方法の理解	II	
	薬剤等の管理方法の理解	IV	
症状・生体機能管理	バイタルサイン測定	I	実習では、毎日一般状態の観察を行い、その変化の有無をアセスメントする。身体の異常を伝えることができない患者もいる為、十分な観察を行う必要がある。
	一般状態の観察	I	
	系統的な症状の観察	II	
	バイタルサイン・一般状態、症状からのアセスメント	II	
感染対策	標準予防策に基づく手洗いの実施	I	閉鎖された環境での感染症の発生の危険性を理解し、自らが感染源や感染の媒体にならないよう行動する。インフルエンザなどに対する対策は病院の指示に従う。急に指示が出ても対応できるようにマスクは常に用意しておく。
	閉鎖空間であることを踏まえた防護用具の装着	II	
安全対策	患者誤認防止対策の実施	II	与薬時の患者確認を指導の下行う。 自傷他害行為の危険のある患者への対応をオリエンテーションにて説明を受ける。 食事時の窒息のリスクをアセスメントして観察する。 転倒の危険がある患者に対して、安全に歩行できるように指導の下介助する。
	患者の特性に適した療養環境の調整と理解	IV	
	患者の特性に適した転倒転落防止対策	II	
安楽確保	患者の安楽促進のケア	II	行動制限などがストレスの原因とならないよう、範囲内での気分転換活動を考慮する。

8. 提出物一覧

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① 精神看護実習評価表・ルーブリック | ⑦ 必要と考える援助 |
| ② 精神看護実習総括 | ⑧ プロセスレコード①② |
| ③ 全体像 | ⑨ 精神看護実習計画表 |
| ④ 全体情報用紙 | ⑩ 精神科デイケア記録 |
| ⑤ 発達段階とその達成度 | ⑪ ラベル |
| ⑥ 看護するうえでの着眼点 | |

実習開始前 : 「精神看護実習を前にした気持ち」(1枚)

(桃色を自分の記録用紙に貼り、白と黄色は提出)

実習10日目 : 「精神看護で大切なこと」(4枚)

(白は実習11日目のラベルワークで使用、桃色を記録用紙に貼り、黄色は提出)

9. その他

1) 精神科病棟 (8:30~17:00)

① プロセスレコードは1・2週目で各1枚とり、自己の関わりを客観的に振り返る。1回目のプロセスレコードは、実習4日目(午後)にカンファレンスをする。

② 学生カンファレンスについて

- ・ テーマおよび時間は事前に決め、指導者または教員に伝え、学生が主体となり進行する。
- ・ テーマの提供を各自行うようにして、学びの共有を図る。
- ・ 病棟実習6・7・9日目は指定されたテーマでカンファレンスを行う。

テーマ: 6日目「精神に障がいを持つ人が地域で生活するために必要な支援を考える」

7日目「精神科における安全・安楽・安心とは何か」教員司会

9日目「患者を取り巻く家族の理解と支援」 教員司会

③ スタッフカンファレンスについて

- ・ 実習開始時に受け持ち患者の担当看護師の勤務を指導者に確認し、発表日を決める。
- ・ 当日は朝のミーティング時にスタッフカンファレンスで発表することを伝える。
- ・ 学生自身がとらえた患者の理解と「必要と考える援助」を発表し、スタッフと意見交換する。
- ・ スタッフカンファレンスをもとに「必要と考える援助」を更に発展させていく。

④ 駿府病院も焼津病院も鍵を使用するため、管理には注意する。

具体的な方法は、病院ごと伝える。

⑤ 学校から借りた防犯ブザーを携帯する。実習中の管理は各自が行う。

⑥ 駿府病院では、病棟実習初日に電子カルテ使用の誓約書に捺印する。(印鑑を必ず持参する)

⑦ 実習時には常にマスクを準備する。使用については、病院の感染対策に従う。

⑧ ラベルワークについて

- ・ 目的: 精神看護実習で学んだことについて、グループメンバー間で意見交換と学びを共有し、『精神看護で大切なこと』は何かを明確にし、実習の学びのまとめをする。
- ・ 留意点: ラベルを一人の人格として意識し、ラベルを理解しようとする。

⑨ ルーブリック評価について

- ・ 評価は、ルーブリック評価を用いる。
- ・ 実習中はルーブリックを活用し、主体的に学ぶ。
- ・ 病棟実習6日目にルーブリックでの自己評価をもとに中間面接を行う。自己の取り組み、達成状況から実習後半の取り組みをより主体的なものにしていく。

2) 精神科デイケア

① 実習時間 8:30~17:00 (現地集合)

② 服装 活動しやすい服装(スポーツウェア、ポロシャツ、焼津病院はナースシューズ))

* 駿府病院は着替えの場所はないので自宅から着てくる。土足で良い。

焼津病院は病棟の学生室で更衣する。ナースシューズに履き替える。

* 名札を付ける。

* 髪はまとめる。

③ 持ち物 実習要項および記録用紙、筆記用具、名札、弁当、お茶、パンフレット

④ その他(留意事項)

・ 実習内容は、デイケアのプログラムに沿って行う。昼食はメンバーと共に食べる。

・ プログラム中はメンバーの一員として参加する。メモはしない。

・ プログラムの休憩や昼食時に、メンバーと積極的にコミュニケーションをとり、デイケアに通いながら生

活する人の暮らしや気持ちを知る機会とする。

- ・メモはスタッフルームで行う。
- ・学生同士で固まらない。
- ・私物の管理は病院ごとに違うので、それぞれの指示に従う。

3) 事前準備

- ①2年次に配布した課題をしっかりと行う。
- ②実習要項を熟読し、必要な学習を行う。
- ③施設オリエンテーション時のパンフレットをよく読み、実習初日には持参する。
- ④前日にラベルを受け取り、「精神看護実習を前にした気持ち」(1部)を書いて白と黄色を提出する。桃色は自分の記録用紙に貼る。
- ⑤前日に防犯ブザーを借りる。

4) 実習後

- * 実習終了翌日には、記録物とラベル「精神看護で大切なこと」(黄色4枚)を提出。
- * 防犯ブザーは、リーダーがナンバーを確認し教員に返却する。

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (看護管理)	担当者	増田伊佐世	年次	3	時間 単 位	10/30時間 1単位
学修内容	看護管理の基本を理解する より良い看護を提供するための資源やしぐみについて知り、組織の一員として看護管理を考える						
到達目標	看護管理の基本がわかり、必要な資源、組織の一員としての看護管理への理解を述べるができる						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	1. 看護管理とは 看護とマネジメント・看護ケアとマネジメント チーム医療における看護業務 2. 組織と看護 看護サービスのマネジメント・看護サービスの資源 3. マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップ コミュニケーション 4. 看護を取り巻く諸制度 看護職と専門性 医療制度 法律 5. 看護管理と医療安全			講義 講義 グループ演習 講義 グループ演習			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(40点分) 出席状況を加味する ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 参加型の授業となるよう心掛けるので、積極的に授業に取り組んでいただきたい 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 統合分野「看護管理」看護の統合と実践 医学書院 ・必要物品 						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	医療安全と看護管理 (医療安全・看護倫理)	担当者	竹田直子 浦田照美	年次	3	時間 単 位	20/30時間 1単位
学修内容	これまでの安全管理では、インシデントや有害事象と呼ばれる、いわゆる「失敗事例」を分析の対象とし、それらを減らすことを目的としてきた。(Safety-I)近年は新しい医療安全へのアプローチとしてレジリエンス、エンジニアリング(Safety-II)が注目されている。双方のアプローチの特徴と違いを学び、医療安全について考える。また、医療安全の基盤には、看護職にふさわしい高い倫理観の確立が重要である。倫理的態度の要件である倫理的判断行動として、看護倫理の基本的知識を用いて事例を実際に考えてみる。						
到達目標	①医療安全の基本的知識を理解し、医療安全教育の必要性を認識するとともに、看護・医療事故予防に必要な能力・行動について考えることができる。 ②実際の場面や事例より、それぞれに具体的な対策を考えることができる。 ③看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行なうための枠組みを習得する。						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
第1回	専門職に求められる倫理	看護倫理とは				講義	
第2回	看護師における倫理的判断に必要な知識	看護の倫理原則				講義	
第3回	実習場面で経験した、または感じた倫理上の課題の検討	看護実践上の倫理的概念				個人ワーク グループワーク	
第4回	グループワーク発表、まとめ					発表会・講義	
第5回	医療安全と過失	看護事故の構造と防止対策				講義	
第6回	医療安全の基礎	専門職としての責務と看護師の法的責任				講義	
第7回	危険予知トレーニング					グループワーク	
第8回	チームステップス・医療メディエーション					講義・ロールプレイ	
第9回	実習場面での「ヒヤリハット体験」を共有化し、原因とプロセスから医療安全を守るため守るための対策を考える					グループワーク	
第10回	筆記試験	グループワークの発表				発表会	
※講義予定は前後する可能性があるが、ご了承ください。							
成績評価	・ 方法 筆記試験:医療安全・看護倫理に関する基本的な知識の確認 (浦田先生、竹田 各15点) レポート:テーマ「安心・安全な医療・看護を提供するため、どんな看護専門職を目指すか。自己の課題にどう対応するか」 (竹田 20点) 出席状況と授業参加態度:欠席しない、誠意と責任を持って参加する(10点)						
・ 基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・ 事前課題 「看護者の倫理綱領」をじっくり読んでくる。 ・ 留意点 ・授業は、進度に応じた課題学習やグループワークがあるため、欠席しないこと。レポートなどの提出物期日や時間を厳守すること。遅れた場合は、減点処理されるので注意してください。 ・出席状況やグループワークの参加状況も評価対象にします。主体的に学ぶことを期待します。						
テキスト・必要物品	・ テキスト ①上泉和子：系統看護学講座統合分野「看護管理」看護の統合と実践①，医学書院 ②川村治子：系統看護学講座統合分野「医療安全」看護の統合と実践②，医学書院 ③東京医科大学看護専門学校：「よくわかる看護者の倫理綱領」，照林社 ・ 必要物品 :グループワーク時に、学内の分房具以外が必要なら各自で用意						
参考文献	茂野香おるほか：系統看護学講座専門分野 I「看護学概論」基礎看護学①，医学書院						


授 業 概 要

科目名	国際看護	担当者	戸塚規子	年次	2019	間 時 位	単 位	8時間 /1単位
学修内容	1. 国際看護学に係る主要概念と世界の主要な健康課題 2. 国際看護活動の支援を必要とする対象 3. 国際社会の共通課題 4. 国際看護活動の実際(推進する機関と人) 5. 異文化理解と看護活動							
到達目標	1. 国際看護学に係る主要概念がわかる 2. 諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解し、日本の現状との違いがわかる 3. 国際看護活動の実際と課題について事例を通して学ぶ 4. 異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の役割について考える。							
授業計画	授業テーマ				方法(形成評価等を含む)			
	第1回 国際看護学に係る主要概念と世界の主要な健康課題 1. 主要概念:国際化,国際看護学・国際保健学,国際看護・異文化看護 2. 世界の主要な健康課題:開発途上国とはどんな国か 世界のの中のさまざまな格差(人口、経済、保健指標、疾病構造、 栄養不良、医療職数) 第2回 国際看護活動の支援を必要とする対象と国際社会の共通課題 1. 国際看護活動の支援を必要とする対象: 世界の健康課題からみた国際看護の必要性、健康に係る諸要因 2. 国際社会の共通課題:プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標 第3回 国際看護活動の実際(推進する人と機関) 1. 推進する機関:国際協力のしくみ、国際協力を推進する機関 2. 推進する人:日本の看護職者による国際協力活動、技術協力の実際 第4回 異文化理解と看護活動 1. 看護の国際協力に必要とされる能力:一般的な能力、開発途上国で必要とされる能力 2. 異文化看護の理論:文化についてのアセスメント、異文化看護理論(文化ケア論)、異文化看護の視点				ディスカッション パワーポイントに沿った口演 参考資料の提示と説明 質疑応答 ディスカッション 映像学習 授業評価アンケートの実施			
成績評価	・方法 レポート、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・事前課題 ・国際化のすすむ社会における看護職の役割について考え、自らの課題を明確にする ・留意点 ・参考資料や関連記事・書籍の紹介							
テキスト・必要物品	・テキスト 教科書は使わずレジュメを配布する。 ・必要物品 パソコン スライドプロジェクター DVD映写機							
参考文献	①国民衛生の動向最新版 ②国際看護学入門第1版第13刷 国際看護研究会編 医学書院2016 ③レイニンガー看護論-文化ケアの多様性と普遍性- M・M・レイニンガー著 稲岡文昭監訳 医学書院1995							

授 業 概 要

科目名	看護研究	担当者	亀澤ますみ	年次	3	単位 時間	30時間 /1単位
学修内容	<p><研究の基礎> 専門職として看護における研究の必要性を理解し、看護研究の基礎知識を理解する。</p> <p><ケーススタディ> 看護研究の知識を土台として、ケーススタディの方法を演習を通して学ぶ。 自己の臨地実習をケーススタディにまとめる。</p>						
到達目標	<p><研究の基礎> 1、看護研究の意義と必要性を理解し、研究への興味関心を高める。 2、看護研究の分野と研究方法について知る。 3、文献学習の必要性について理解する。 4、看護研究におけるモラルと倫理的配慮について考える。</p> <p><ケーススタディ> 1、ケーススタディの意義と方法を学ぶ。 2、3年次領域別実習の中からエピソードを記述し振り返ることで、糸口となる問題を認識し科学的に論じる。 3、問題の科学的解明に向けて、適切な文献を基に考察する。 4、ケーススタディの一連を学び、収録・抄録を作成し、他者に伝わるよう発表する。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p><研究の基礎> 第1回：講義 看護研究の意義と研究の種類 第2回：講義 エピソード記述とリサーチクエスチョン 第1回：講義 ケーススタディの意義と方法 第3回：講義 看護研究における倫理的配慮と文献レビュー 第4回：講義 エピソード記述とリサーチクエスチョンの実際 第5回：講義 ケーススタディ計画書作成について・小テスト</p> <p><ケーススタディ> 第1回：講義 ケーススタディの意義と方法 第2回：講義 ケーススタディの進め方 第3回：講義 看護実践と論文の構成 第4回：講義 論文の構成と文献検討 第5回：講義 リサーチクエスチョンと論文の構成 第6～10回 演習 ケーススタディの作成</p>			<p>文献検索の方法を学び実施する</p> <p>研究の基礎の範囲で小テストする</p> <p>担当教員を決定し指導を頂く</p> <p>計画を基に、一貫性・整合性を考えながら整える</p>			
成績評価	<p>・方法 ・筆記試験(30%:研究の基礎)ケーススタディ(70%:担当教員)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 臨地実習での自己の課題やエピソードなどケーススタディの基となる事を記述しておく。 研究論文に触れ、論文の構成や記述の方法について慣れておく。</p> <p>・留意点 ケーススタディは、自己の実践を振り返り、看護における自己の課題や改善点を明確にする事が求められるので、真摯に自己と対峙する姿勢が求められる。そのためにも、研究における倫理的な態度について理解を深めることが重要である。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂下玲子:系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 森田夏実他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p> <p>・必要物品 これまでの実習記録 開始後に指示する文献</p>						
参考文献	<p>・南 裕子編:看護における研究、日本看護協会出版会 ・川村佐和子編:ナースンググラフィカ19 看護研究 メディカ出版</p>						

授 業 概 要

科目名	総合看護実践	担当者	竹田直子 吉田五百枝	年次	3	単 位 時 間	30時間 /1単位
学 修 内 容	専門分野Ⅰ・Ⅱに学びをもとに、「医療安全と看護管理」の学びを統合し、安全・安楽という看護の原理・原則を踏まえながら、複数の患者の看護を考える。優先順位や経済性、個別性を考慮した計画・実践を演習を通して行い、客観的臨床能力試験を行う。多重課題の状況下での看護を考える演習を行い、また自己の看護実践力を評価することで看護師になる人としての自己の傾向・課題を明確にし、臨床での実践につなげていく。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の事例を理解し、様々な状況下での看護を計画し実践する演習を通して、優先順位の決定や、他所への協力依頼の重要性を学ぶ。 2. 看護実践者としての自己の傾向に気づき、今後の課題を明確にする。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>前半（統合実習前）（吉田）</p> <p>第1～3回：事例のリアルな設定</p> <p>第4～6回：関連学習をしながら行動計画の立案</p> <p>後半（統合実習後）（竹田）</p> <p>第7回：統合実習の振り返り 事例の設定（追加情報を加えて）</p> <p>第8～10回：行動計画の修正 ロールプレイの計画（行動計画を基に）</p> <p>第11回：ロールプレイの発表</p> <p>第12、13回：客観的臨床能力試験（OSCE）</p> <p>第14、15回：凝縮ポートフォリオの発表</p>			<p>プロジェクト学習の方法で学習を進めていきます</p> 			
成 績 評 価	<p>・方法 OSCE80点（実技60点、リフレクション40点）、凝縮ポートフォリオ20点 合計100点の配点です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 総合看護実践は、現場のリアルな状況をイメージし、事例の複雑な状況に対応した看護を、どのように判断し、行動していくかを演習を通して学んでいきます。総合看護実践前半⇒統合実習⇒総合看護実践後半、と一貫性（ストーリー）を持ち、プロジェクト学習という方法で学んでいきます。詳しいことにつきましては、授業前にオリエンテーションをします。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 統合科目であるため、今まで学習したことすべての積み重ねです。特に指定するテキストはありません。</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

在宅看護実習

はじめに

少子高齢社会の到来、疾病構造の変化、健康や療養の考え方の多様化などにより、医療を提供する場は、施設から地域全体へとその範囲を広げている。在宅看護は、地域で暮らすあらゆる人々を対象とし、在宅という生活の場において看護を展開する。そのため、療養者の疾病や障がいだけを注視するのではなく、療養者の残存機能や家族機能を見極めながら在宅での生活が維持できるように支援する。また、在宅療養生活を支えるには、保健・医療・福祉に関わる機関や職種が、同じ目標に向かって連携・協働していくことが不可欠である。現在、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。その中で看護の果たす役割は大きい。病院で治療を完結するのではなく、疾患を持ちながら地域でその人らしく生活していけるようにすることが求められている。地域で安心して過ごせるためには住まい・生活支援・介護・医療・予防という広い視野を持てるようにしていくことが、今後の看護職に求められていることである。

在宅看護実習では、健康の保持増進に関わる保健活動、多職種との連携の在り方を通して地域全体を捉える視点を保健センター実習で学ぶ。また、訪問看護実習では、訪問看護活動を通して、さまざまな療養者と家族に触れ、在宅で生活することの意味やその思いを受け止め、各家庭の療養生活の違いについて理解し、在宅生活が円滑に行なわれるための看護援助方法について学ぶ。そして、地域包括支援センターでは地域で生活している高齢者の現状の理解と各事業への見学・参加を通して、地域包括支援センターでの役割と機能について学ぶ。

1. 実習目的

地域で生活している様々な療養者とその家族を理解する。地域包括ケアシステムにおける看護の機能と役割を理解することで、在宅看護実践の基礎的看護能力を養う。

2. 実習目標

<保健センター実習>

1) 保健センターにおける地域保健活動の役割と機能を理解する。

<訪問看護実習>

1) 生活の場で療養するさまざまな療養者と家族を理解する。

2) 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解する。

3) 施設内看護と在宅看護の違いを理解し、施設と在宅をつなぐ視点を考える。

<地域包括支援センター>

1) 地域包括支援センターの役割と機能を理解する。

<全体>

1) 他職種の役割を踏まえた連携・協働を理解する。

2) さまざまな対象との関わりや看護の実際から在宅看護の考え方に広がりを持つ。

3) 看護学生として看護倫理を基本とした行動をとる。

3. 時間数等単位数

90時間(4月全体オリエンテーション1.5h 保健センター臨地オリエンテーション3h
保健センター実習22.5h 訪問看護実習44.5h 地域包括支援センター15h 学内実習3.5h)
2単位

4. 実習場所

藤枝市・焼津市の保健センター

藤枝市・焼津市・榛原総合病院の各訪問看護ステーション

藤枝市・焼津市の地域包括支援センター

5. 実習目標と実習内容、実習方法

<保健センター実習>

実習目標1. 保健センターにおける地域保健活動の役割と機能を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 地域に生活している対象の健康問題について考える。	保健センターオリエンテーションで地域の特性・事業内容を理解し、地域保健活動に参加する。参加した保健活動を通して、地域の健康問題にはどのようなものがあるのかを考える。そして、「国民衛生の動向」を活用しながら少子高齢化や生活習慣がもたらす日本の健康問題と地域の健康問題を比較し、考察する。
② 地域住民への保健活動を理解する。	健康相談・健康教育・健康診査・家庭訪問などの地域保健活動に参加し、参加者との対話を通してその思いを知る。参加した保健活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を具体的に日々の記録に表現し、地域保健活動の役割を考察する。また、集団で行われる保健活動と個別に行われる保健活動の両方に参加し、参加者の反応や保健師の関わりを観察し、個別・集団を対象とする看護の特徴と教育的関わりについて考察する。
③ 地域住民の健康を支えるために必要な関連機	保健事業に関わる法律について事前学習する。地域保健活動がどのような法律に基づいているのか、どのような機関・職種が関わっているのかという視点で保健活動に参加する。そして、目的、法的根拠、保健活動の内容や方法を日々の記録に表す。また、事業内での協働や

関・職種・社会資源について理解する。	事業間・関連機関での連携・協働の必要性を考察する。
--------------------	---------------------------

<訪問看護実習>

実習目標1. 生活の場で療養するさまざまな療養者と家族を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 家庭・社会の中で療養者・家族の置かれている状況を考える。	訪問した療養者・家族とのコミュニケーションや訪問看護師・関連職種から、対象の地域や生活環境、家族成員とそれぞれの役割などの情報を収集する。そして、療養者・家族がどのように生活をしているのか、家庭や社会でどのような状況に置かれているのかを考察する。
② 各家庭の生活習慣や価値観を知り各家庭の違いを理解する。	訪問した療養者・家族とのコミュニケーションや訪問看護師・関係職種から、訪問した家庭の生活史や生活習慣、生活信条、健康観などの情報を収集する。同行訪問した家族を事前学習した家族関係・家族機能・家族の発達段階と結びつけて考察し、各家庭の違いを理解する。
③ 療養者や家族の思いを理解し、療養や介護の継続意欲を左右する要因について考える。	訪問した療養者や家族が在宅療養を選択した理由や疾病や障害、在宅療養に対する療養者や家族の思いや希望、何を大切にしているのか、療養者の闘病意欲や社会資源の活用、地域とのかかわり、家族の介護意欲などの情報を収集し、在宅で療養することの意味や在宅療養の継続意欲が引き出される要因を考察する。
実習目標2. 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 受け持ち療養者を生活の視点を含めて理解した上で必要な看護を考える。	カルテ、訪問看護師からの情報提供、訪問時の観察やコミュニケーションを通し、訪問した療養者の身体状況、家族、生活背景、生活環境、生活信条、価値観や健康観、一日の過ごし方、日常生活自立度や思いなどの情報を収集する。療養者・家族を生活している人として捉える。『私の捉えた療養者』の用紙を用いて自立や生活の質、安全・安楽や経済性を考慮した分析を行い、療養生活上の問題を抽出し、療養者だけでなく家族も踏まえて優先順位をつけていく。
② 療養生活が継続するための個別の援助を考える。	受け持ち療養者の思いや願いを踏まえて、療養生活の継続するための目標を設定する。その目標に向けての援助計画を立案する。実際に行っている各家庭に合わせた援助の方法や工夫、療養者や家族への配慮、教育的指導などを参考に立案する。また、訪問するさまざまな家庭にとって療養生活が継続するにはどのような援助が必要なのかを考える。
③ 看護師と共にチームの一員として援助に参加する。	様々な家庭を同行訪問し、療養者・家族と場に合わせたコミュニケーションを進んで行う。指導者と事前に調整し、自分のできる看護援助や介助については進んで参加する。療養者だけでなく家族の反応も受け止め、訪問看護師とともに安全・安楽の視点で援助に参加する。必要な報告・連絡・相談、情報の提供・共有を行う。自己の行動を振り返り、主体的に援助に参加できるように努力する。
④ 実施した援助が対象の生活習慣や療養生活に適しているかを振り返る。	参加した援助や立案した援助計画の実施を通し、手順や物品、役割分担、物の配置、関わり方と援助時の療養者・家族の行動や言動、表情などの反応を具体的に振り返る。実施した援助が療養者・家族にとってどのように適していたかを、身体状況や生活状況、生活環境や背景、セルフケア能力、各家庭の方法の尊重を踏まえて考察する。
実習目標3. 施設内看護と在宅看護の違いを理解し、施設と在宅をつなぐ視点を考える。	
学習活動	学習内容と方法
① 施設と在宅をつなぐ視点を考える。	すべての訪問を振り返り、施設から在宅へ、在宅から施設へ、つなぎ目なく看護が提供されるには、看護師間ではどのように連携をしていけばいいか、また在宅療養が継続するには、入院時から何を行っていけばいいのかを考える。

<地域包括支援センター>

実習目標1. 地域包括支援センターの役割と機能を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 地域包括支援センターの活動内容を理解する。	事前学習とオリエンテーションを通して地域包括支援センターの活動を知る。相談業務、家庭訪問、予防支援のケアマネジメント業務などの見学実習に参加する。参加した活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を具体的に日々の記録に表現することで事業の必要性を考える。見学実習に参加する機会がないときは、事業所内での活動を見学し、また事業内容の説明を受けることで事前学習を踏まえて事業の目的、内容を知り、事業の必要性を考える。その上で地域包括支援センターの役割と機能を理解する。
② 地域包括ケアの必要性を理解する。	事前学習、オリエンテーション、さまざまな見学実習に参加することで自分の身近な地域の現状を知る。また『国民衛生の動向』を活用することにより、少子高齢化がもたらす核家族化による家族機能の低下、単独または高齢者夫婦世帯の増加、認知症高齢者数の増加、ニーズの多様化などを知る。現在の社会の情勢を知ること、地域包括ケアが求められる背景を理

解する。これを踏まえて事業内容と関連づけて考えることで地域包括ケアの必要性を理解する。

<全体>

実習目標1. 他職種の役割を踏まえた連携・協働を理解する。	
学習活動	学習内容と方法
① 社会資源の活用、関連機関・関連職種との連携や協働の必要性を理解する。	実習全体を通して、その人の生活を支えるためにはどのような職種が関わり、どのような連携・協働が行われているかを知る。その中での看護が担う役割を考察する。
実習目標2. さまざまな対象との関わりや看護の実際から、在宅看護の考え方に広がりを持つ。	
学習活動	学習内容と方法
① 在宅実習体験を通して気づきや発見があり、学に広がりがある。	一つひとつの体験を大切に丁寧に考えることで、体験・見学したことからの気づきや感じたことをどのような場面や状況からなのか踏まえて記録に表現する。
② 疾病からではない対象の捉え方に目を向ける。	実習を通して、身体状態・日常生活の状況・介護状況・介護者の生活状況・使用している社会資源などから、さまざまな対象の捉え方に気づく。疾病だけでなく療養生活の全体に目を向けようと努力し、どのように対象を捉えていくかを表現する。
③ 生活の場でよりよく生きることを支援するには看護として何をすべきかを考える努力をする。	カンファレンスで、保健センター・訪問看護・地域包括支援センターを通して体験した内容を振り返り、健康を支援する看護として何をすべきかを考えることで、在宅看護に対する自己の考えを表現する。

実習目標3. 看護学生として看護倫理を基本とした行動をとる。	
学習活動	学習内容と方法
① 看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	挨拶や身だしなみなどのマナーを意識して実習に臨む。特に同行訪問するときは訪問者であるという姿勢を持つ。また看護者として実習で知りえた情報は個人情報として守秘義務を遵守する。施設毎のルールを守り、訪問時間や訪問時の集合場所の確認は学生自身で行う。記録の提出場所を各施設の実習初日に確認し、記録物は毎朝施設毎の指定の場所に提出する。記録物は提出期限を守る。
② あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生としての責任を持ち誠意ある行動をとる。	実習に関わる療養者、家族などの地域住民、スタッフ、教員、グループメンバーを一人の人として大切に思い、思いやりを持った行動をする。看護学生でもスタッフの一員であるという意識を持ち、実習に関わるすべての人に対して誠実な態度で行動する。
③ 主体的な学習姿勢をもち、他者と相互に高め合う努力をする。	実習に必要な事前学習や文献学習を行って実習に臨む。疑問や問題に気づく努力をし、自ら学習しわからないことは指導者やスタッフ、教員にアドバイスを求め、助言やアドバイスされた内容をさらに追及しようと努力をする。
④ より良い看護を提供するため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	看護学生として療養者や家族、地域住民の知り得た情報をチームで共有する。必要時は適時に連絡・報告・相談する。同行訪問した家庭での知り得た情報の取り扱いを意識して行動する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	日々の自己の健康管理を行う。体調不良の場合は決められた方法で相談・報告をする。感染予防のために同行訪問する1軒または1処置ごとにスタンダードプリコーションを遵守する。学生自身が感染の媒介者にならないように意識して行動する。(実習中は必要時、毎朝体温測定をしてくる。)体調不良が他者に与える影響を考え行動する。
⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	自己の課題を明確にして実習に臨み、自己の課題を意識して実習に取り組む。実習を通して自己の課題への取り組みを振り返り、さらに新たな自己の課題を明確にする。日々の実習の取り組み状況や実習目標の達成状況を振り返り、翌日の実習へ自己の姿勢・態度を修正して行う。

6. 実習の動き

1) 実習期間

12日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画、実習内容

日程	1・2・3日目	4・5・6・7・8・9日目	10・11日目	12日目
実習内容	地域の保健活動への参加 地域保健活動の役割と機能の理解	訪問看護実践 在宅療養者とその家族の理解 在宅療養を支える看護 社会資源の活用と地域ケアシステムの連携・協働の理解	相談、訪問などの事業の見学 地域包括支援センターの役割と機能の理解	学びの共有のカンファレンス テーマ「地域で安心して生活するために看護として何をすべきか」 個人面接
時間数	7.5時間×3	7.5時間×5 7時間×1(9日目)	7.5時間×2	3.5時間×1
実習場	保健センター	訪問看護ステーション	地域包括支援センター	学内
提出物	日々の記録	日々の記録、私の捉えた療養者、在宅生活支援のネットワーク図、在宅療養上考えられる看護問題、看護援助計画用紙、同行一覧表	日々の記録	日々の記録
服装	ポロシャツ、ジャージズボン、エプロン、白の靴下、運動靴、カーディガン(必要な学生)		基本的には保健センター・訪問看護実習の服装。一部実習施設に合わせた服装	
持ち物	訪問バック(家庭訪問時) イソジンガーグル	訪問バック、血圧計、アルコールジェル、アルコール綿(学校で準備)プラスチック手袋、聴診器、マスク、ビニール袋(処置後の手袋などを入れる) イソジンガーグル、含嗽用コップ、携帯用スリッパ、携帯電話、 * 志太訪問看護ステーションと焼津訪問看護ステーションと焼津北訪問看護ステーションは室内履きを持参すること	イソジンガーグル、アルコールジェル 携帯用スリッパ 名札(私服の場合は必ず付けること) * ふじトピアと大井川地域包括支援センターは室内履きを持参すること	

* 実習12日目は、メンバー全員で学びの共有をするため学内でカンファレンスを行う。

7. 看護技術の到達項目と学び方

チェックリストを参照し、訪問先で行える援助を事前に指導者と相談し決める。訪問する家庭は訪問当日に決めることも多く、各家庭で行う援助は多様なため、常に看護技術の事前学習をし、指導者へ積極的に技術についての相談をする。

8. 提出物一覧

最終記録は下記を参照しファイルに閉じ、インデックスを添付しファイルに綴じて定時に提出

- ① 在宅看護実習評価表
- ② 在宅看護実習総括表
- ③ 私の捉えた療養者
- ④ 在宅生活支援のネットワーク図
- ⑤ 在宅療養上考えられる看護問題
- ⑥ 看護援助計画用紙
- ⑦ 訪問看護実習記録(日々の記録)
- ⑧ 訪問看護実習同行一覧表
- ⑨ 保健センター実習記録(日々の記録)
- ⑩ 地域包括支援センター実習記録(日々の記録)

9. その他

1) 事前学習

- ・実習施設の地域の特性と健康問題についてのレポート
- ・保健所と市町村保健センターの機能・役割、事業内容
- ・関連する法律等(高齢者医療確保法・介護保険法・地域保健法・健康増進法・健康日本21・ゴールドプラン21・母子保健法・健やか親子21等)
- ・難病対策 訪問看護制度 家族の捉え方 施設内看護と在宅看護の特徴
- ・在宅療養者に多い疾病・症状 在宅における看護援助技術
- ・地域包括支援センターの機能・役割、事業内容、従事する職種についてのレポート

・地域包括ケア ・地域包括ケアシステム

2) 保健センターについて

- ・朝のミーティングに参加し、挨拶・自己紹介・参加事業の発表をする。
- ・各事業においては、担当者・目的・対象者・内容を事前(前日)に確認しておく。

3) 訪問看護ステーションについて

- ・ミーティング後、挨拶、実習目標の発表をする。
- ・オリエンテーションは訪問予定状況により時間を調整して行われる。

4) 地域包括支援センター

- ・カンファレンスの時間は指導者と調整して行う。カンファレンスのテーマは学生が決定し、見学した事業から感じたこと、学んだこと、疑問に思うことなど指導者を交えて学生同志で共有できるようにする。

5) 貸出について

- ・実習前日に物品定数表に記入の上、訪問バック・血圧計・アルコールジェルを借り、実習終了翌日に借用物品を返却する。

6) 安全対策について

- ・訪問看護実習時のみ、訪問看護ステーションの電話番号を登録した携帯電話を持参して同行訪問を行う。実習中は電源をオフにして訪問バッグに入れておき、緊急時のみ訪問看護ステーションに連絡が取れるようにする。実習中の個人的な使用は認めない。

7) その他

- ・カンファレンスは連日行う。
- ・各施設の実習最終日に学びの会を設ける。

統合実習
はじめに

統合実習では、チーム医療および多職種との協働、看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを学ぶ。複数受け持ち実習や夜間実習を通し、看護をマネジメントする方法や、看護優先度の判断や緊急・突発要件などの対応を学ぶ。また、組織としての医療安全や感染管理などの取り組みを学び、それが看護実践の場でどのように活かされているのかを学ぶ。それらの学びを、状況に応じ適切に判断し実践していくことができる看護実践力につなげていく。

1. 実習目的

看護チームの一員としての体験・夜間実習・複数患者の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し、看護を必要とする人々に対して看護を実践する力を養う。

2. 実習目標

- ① 複数患者を同時に受け持ち、看護を必要とする人々の療養生活や治療を考慮し、個別対応や複数援助の優先順位の判断や時間管理を意識した看護実践を学ぶ。
- ② 既習の知識・技術・態度を統合し、看護処置や診療の補助技術を安全性・正確性・経済性を考慮して実践する。
- ③ 夜間実習の経験を通して、患者の療養生活の理解を深める。
- ④ メンバーとしての役割、チームリーダーとしての役割を理解し、看護チームでの一員としての役割や業務の調整、多職種との連携・協働の実際を学ぶ。
- ⑤ 病棟での看護管理の実際および安全管理の実際を学ぶことで、組織としての視点で看護を考える。
- ⑥ 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。

3. 時間数と単位数

90時間

(オリエンテーション1.5時間、夜間実習6時間、病棟実習7.5時間×11日=82.5時間)

2単位

4. 実習場所

藤枝市立病院・焼津市立病院・榛原総合病院

5. 実習内容・実習方法

実習目標1. 複数患者を同時に受け持ち、看護を必要とする人々の療養生活や治療を考慮し、個別対応や複数援助の優先順位の判断や時間管理を意識した看護実践を学ぶ。

学習活動	学習内容	学習方法
① 複数の患者の状態を、情報用紙を活用することで把握する。	・変化する患者をタイムリーな理解	・自立度の高い患者と低い患者の2名を受け持つ。それぞれの患者の情報をカルテ・指示簿・看護計画・ワークシートやミーティング・カンファレンスなどから、毎日の患者の状態や予定、治療、検査、看護を的確に把握し、情報整理用紙を活用して患者の全体と変化を捉える。的確に把握するために、主体的に学習する。振り返りやアドバイスを活用し、タイムリーかつ的確な情報収集につなげる。
② 複数患者の情報収集について体験を通して考察する。	・情報収集と情報活用の実際を通してその理解の深化	・適切な看護実践や診療補助をするためには何時、どのような情報収集が必要か、実践から情報収集の意味を振り返り記録や総括に表現する。また行動の修正につなげる。
③ 複数患者の援助について、根拠をもって、優先順位、適した方法、時間配分を考えて実施する。	・複数患者の看護援助の優先順位を考える視点(治療・処置・看護の適時性、患者の生活、看護チームの協働)	・複数患者の看護援助の優先順位を治療・処置・看護の適時性や患者の生活を考慮して考える。その際、学生だけのスケジュールで優先順位を考えず、看護チームの協働の視点を持つ。学生が考えた優先順位を指導者や受け持ち看護師とともに検討する。 ・実践を通して優先順位を考える視点を学び記録や総括に表現する。
④ 複数の患者を受け持っていて、安全・安楽、生活を配慮することで患者一人ひとりを尊重した援助を実施する。	・患者個々に対しての安全・安楽、生活を配慮した看護援助	・看護援助を実施する際には、複数患者各々の安全・安楽、思い、考え、希望、生活リズムなどを配慮する。 ・患者一人ひとりを尊重するという意味を考えながら行う。
⑤ 体験を通し、複数の患者を同時に受け持つ中で、個人を尊重した援助について考察する	・見学や実践を通して人間の尊厳と権利を守ることに對する考え方の深	・複数患者を受け持つ実践を通して個人を尊重した援助とはどういうことかを考え、カンファレンス、記録・総括で表現する。 ・同行実習や夜間実習の体験も踏まえる。

る。	化	
⑥ 患者の状態や状況の変化に応じた対応の必要性を考える。	・患者の状態や状況を判断するために必要な要素	・患者の状態や状況の変化時に、看護師がどのような対応をしているかを知る。また、自分がどのような行動ができるかを考える。突発要件があった際に説明を受ける。その中で適切な判断や対応をするためには、自身に何が必要かを振り返り、活かす努力をすると共に記録に表現する。
⑦ 実施した援助を安全性、経済性、合理性などの視点で振り返り、次の援助に活かす。	・自己の看護実践を振り返る視点(患者の安全性・安楽性、経済性、合理性、優先順位など)振り返りを看護実践につなげる	・実施した援助は、以下の視点で客観的に振り返り次の援助に活かすと共に、記録に表現する。 ◆ 根拠に基づいて安全・安楽・合理性を考えていたか ◆ 患者の経済的な負担 ◆ 優先順位が適切であるか
⑧ 体験をもとに自己の看護援助を振り返る意義を考察する。		・実践と振り返りというプロセスを通し、振り返りの意義を考察し、毎日の記録、総括、カンファレンスで述べる。

実習目標2. 既習の知識・技術・態度を統合し、看護処置や診療の補助技術を安全性・正確性・経済性を考慮して実践する。

学習活動	学習内容	学習方法
① 患者の状態、状況にあわせ看護技術の原則を応用した看護処置を行う。	・看護技術の原則に基づいた応用の実際と、既習学習とを統合した学び	・看護処置は看護技術の原則と患者の現在の状況に合わせた方法を実施する。また、処置時は経済性、処置する場の状況に配慮して物品を選ぶ。それらを通し原則に基づき安全・安楽を確保した応用の在り方について考え、その学びを記録や口頭で表現する。
② おこなった援助を患者の反応と原則に基づいて振り返り、さらに安全、安楽を考えた援助につなげる。	・安全に対する視野の拡大 ・振り返りを看護実践につなげる姿勢	・治療や処置を受けている患者の反応から、その治療処置が患者に与える影響を考える。そして患者が安全、安楽に処置を受けられるために看護を修正していく。 ・目標5②と関連させ、患者個人だけでなく、病棟、病院としての安全が考えられるとよい。 ・上記を記録、総括表に表現する。
③ 知識・根拠に基づいた看護を実践するため、積極的に学習する。	・看護師に必要な、積極的な学習姿勢	・提供する看護は、知識・根拠に基づき、常に対象の人々の安全を考えて行うため、看護援助を実施する際には事前学習及び、積極的に追加学習をしてファイルにまとめ提出する。
④ 診療の補助技術を実施する上で看護師として必要なことを、体験を通して考察する。	・診療補助技術を実施するうえで、安全性、正確性の必要性 ・原理・原則と実践との統合	・実施する診療の補助技術に対して、知識を統合し安全性、正確性の根拠を示す。 ・点滴準備及び実施の見学をし、安全に患者に投与するための観察点・実施方法・管理について学ぶ。 ・与薬時は看護師と共にやり、原則に基づいた与薬技術について学ぶ。 ・医師の回診に看護師と同行し、患者の安全性に配慮して診療の補助技術を体験または見学する。 ・自己の技術を振り返り修正すると共に記録に表現する。

実習目標3. 夜間実習の経験を通して、患者の療養生活の理解を深める。

学習活動	学習内容	学習方法
① 夜間の患者の療養生活を知る	・受け持ち患者及び入院患者の理解の拡大(夜間の生活) ・患者の一日の生活に対する理解の深化	・夜勤看護師と同行する中で、受け持ち患者に関わり、また指導者の説明から、入院患者の夜間における療養生活を知る。夜間の生活が日中の生活に与える影響についても考察する。その理解を記録用紙に表現する。
② 夜間の看護の特徴と看護の役割を考える。	・夜間における看護の特徴と役割(患者の睡眠、面会者に対する配慮、事故防止)	・夜勤看護師と同行し、患者の夜間の様子や面会の場面、患者への入眠前の援助の見学を行い、夜間における入院患者の休息に対する援助や、面会者に対する配慮や事故防止など、看護の特徴と役割を学ぶ。 ・夜間体制のなか、看護師が患者の安全を守るための連携の実際を知る。 ・上記の内容をカンファレンスで意見交換し、更に発展させた学びにする。

実習目標4. メンバーとしての役割、チームリーダーとしての役割を理解し、看護チームの一員としての役割や業務の調整、多職種との連携、協働の実際を学ぶ。

学習活動	学習内容	学習方法
① チームメンバーで協力して、援助を実施する。	・チームスタッフ間での協力・連携 ・体験から必要性	・必要時、看護チームスタッフと協力して看護援助を行う。また、チームスタッフが協力して行う看護援助に参加するなかで、その意味を考える。

	の意味の深化	
② 看護チームの一員として積極的に報告・連絡・相談する。	・チームの一員としての意識 ・情報共有の必要性	・同行実習を通して、患者に適切な看護を提供し、安全を守るための情報共有の実際、チームのメンバーとして連携するうえでの報告・連絡・相談の実際を見る ・複数患者受け持ち時には患者の情報や指示内容などについて、適宜スタッフおよびリーダーナースに報告・連絡・相談を行う。休憩時にはチームメンバーに依頼することで看護チームの一員としての意識を持った行動をする。
③ 看護チームの一員としての在り方について、体験を通して考察する。	・患者の安全を守るためのメンバー間の協力、報告・連絡・相談の意味 ・体験と理論の統合	・患者を守るためのメンバー間の協力、チームの一員として連携するうえでの情報共有、報告・連絡・相談の必要性やあり方、重要性について考える。
④ チームメンバー及びチームリーダーとしての役割を考える。	・チームメンバーの役割とメンバーシップの在り方 ・チームリーダーの役割とリーダーシップの在り方 ・体験と理論の統合	・複数患者受け持ち時にはチームメンバーの一員として、チーム目標や看護計画を共有し、その中でスタッフナースとしての協力や連携を通してメンバーシップとは何かを考える。同行実習での看護師の行動からチームメンバーとしての役割を考え、その学びを記録に表現する。 ・リーダー役割の見学を行い、患者に最善の治療・看護を提供するための、チーム内の看護援助の調整や連携、スタッフへの教育的関わりについて学ぶ。 ・カンファレンスで意見交換し、看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップについて学びを深める。
⑤ 対象を取り巻く医療チームの一員として多職種との連携の必要性を考察する。	・多職種との連携の必要性	・複数受け持ち時に医師・栄養士・理学療法士・薬剤師などと必要時には連携をとる体験をする。情報や方針の共有をすることで看護における多職種との連携の必要性を考え記録に表現する。 ・NST・緩和ケアなどの組織横断的チームラウンドに参加することでチーム医療における看護師の連携の意味、必要性について自らの考えを持つ。

実習目標5. 病棟での看護管理の実際及び安全管理の実際を学ぶことで、組織の視点で看護を考える。

学習活動	学習内容	学習方法
① 各病棟における管理者の役割と看護管理の必要性を考える。	・師長としての管理者役割(師長としての病棟全体の情報収集・スタッフが働きやすい環境の調整・組織としての報告・連絡・相談の必要性)を実習と既習学習を統合した理解	・師長業務に同行・見学する中で、看護部理念と病棟目標などの看護組織としての位置づけを学ぶ。 ・病棟単位だけでなく看護部組織内で報告・連絡・相談をしている場に同行することで、その意味を考える。特に当直師長への報告場面を見学し、看護部組織としての夜間管理体制を学ぶ。 ・各看護師長の病棟管理・スタッフ教育・安全管理な実際を知り、看護管理の必要性を考える。 ・看護職員の配置や健康管理、防災に対する病院組織として視点、病棟としての視点を知り、両者がどのように関連しているかを考える。 ・上記をカンファレンスで意見交換し、更に発展させた学びにする。
② 組織的な安全管理の必要性を考える。	・組織としての医療安全室・感染管理室の役割	・医療安全室、感染管理室の活動を見学し、病院組織としての医療安全・感染管理に対する取り組みを知る。 ・各病棟における医療事故防止対策、感染予防対策の実際を知る。目標2②と関連させて考える。
③ 組織の一員としての自己の在り方を考察する。	・組織における看護師個々の活動と責任について、実習と既習学習の統合	・組織としての取り組みと、病棟としての取り組み、看護部の一員としての看護師の在り方を、看護師としての自己の活動の在り方を体験を通して考える。それをカンファレンスや毎日の記録、総括で表現する。

目標6. 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動をとる。

学習活動	学習内容	学習方法
① 看護師としての自覚をもち、マナーやルールを意識した行動をとる。	・社会人・看護師としての良識ある行動	・身だしなみ・礼節・清潔さ・謙虚さ・誠実さ・挨拶・責任感といった他者から求められる行動を意識的に行うことで、看護師としての自覚につなげる。
② 社会人及び看護師として常識ある行動かつ責任ある行動とはなにかを考える。		・これまでの経験や、この実習での経験を振り返り統合させて考える。

③ あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護師としての自覚を持って、責任を持ち誠意ある行動をとる。	・対象が多数になっても、患者一人ひとりを人間として尊重する姿勢	・対象それぞれの個性(人種・信条・社会的地位など)に左右されずに接する。 ・その人の生きてきた人生や価値観を尊重した関わりを心がける。 ・対象の人々の気持ちや思いを尊重して、人間関係を築く努力をする。 ・複数患者を受け持つ実践を通して、尊厳と権利を守るとはどういうことかを、目標1-⑤に統合して考察する。
④ 主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	・自己成長への主体的な努力	・今までの実習や面談を通して自己の振り返りを行い、統合実習に向けての学習課題を明確にし、統合実習での自己の目標を明らかにして臨む。 ・取り組みや達成状況を振り返り、必要時に相談をする。 ・自らの目標に対して主体的に取り組み、面接や統合実習でのまとめに経験からの学びを表現する。 ・これまでの実習で培った学生同士で協力・協調する力を発揮し、向上心を刺激しあって実習に取り組む。 ・ルーブリックを活用する。
⑤ より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	・社会人・看護師として良識ある行動 ・心身の健康を整える	・常に健康管理に留意し、体調不良時は患者や周囲への影響を考えて行動する。 ・心身の安定を図るため、どのようにセルフコントロールをするかを、これまでの経験から見出し実行する。
⑥ 常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	・なりたい看護師像の明確化 ・看護観の明確化	・3年間の学びを振り返り、自らの成長を客観的に振り返り、自己の看護観を明確にする。その上で、どのような看護師になりたいのか、自らがなりたい看護師像を持つことで、現在の自分がどのように目標に近づこうとするのかを、面接や学びの発表会、総括で述べる。学生同士の学びの発表を聞き更に思考を発展させる。

6. 実習計画

実習期間 2019年12月3日～12月18日

1) 実習内容 (*カンファレンステーマ)

- ① 複数受け持ち看護師の同行実習(7.5時間)
- ② 複数(2名)受け持ち、メンバー役割実習(7.5時間×5日)
- ③ リーダー役割同行実習(7.5時間)(*1リーダー役割で大切なこと)
- ④ 管理者役割同行実習(7.5時間)(*2管理者役割で大切なこと)
- ⑤ 安全対策室・感染対策室見学実習(7.5時間)(*3組織としての取り組みを考える)
- ⑥ 夜間実習(6時間)

*実習内容③～⑤に対しては*1～*3のテーマでカンファレンスを行う。

2) 日々の実習目標

- ① 実習環境に慣れる。
- ② 組織及び看護チームの一員としての意識づけを持つ。
- ③ 現在の患者の状態・治療・看護がわかる。
- ④ 夜間看護実習の概観を知る。
- ⑤ 同行実習を通して、合理性・経済性・時間管理などの視点での優先順位の考え方を学ぶ。
- ⑥ 同行実習を通して看護チームの一員としての報告・連絡・相談の在り方を学ぶ。
- ⑦ 同行実習を通して看護チームの一員としての連携を学ぶ。
- ⑧ 複数患者に対して助言を得ながら情報収集を実施する。
- ⑨ 複数患者に対して助言を得ながら看護援助の優先順位を考える。
- ⑩ 看護チームの一員としての意識を持つ。
- ⑪ 夜間の患者の療養生活を知る。
- ⑫ 夜間の看護の特徴と看護の役割を知る。
- ⑬ 受持ち患者に対して主体的に看護援助を行う。
- ⑭ 複数患者に対して患者の状態を踏まえ優先順位を考えた看護援助を行う。
- ⑮ 看護チームの一員として意識を持ち、主体的に報告・連絡・相談などの連携を取る努力をする。
- ⑯ 多職との連携の必要性を理解する。
- ⑰ 日勤リーダーの役割を理解する。
- ⑱ 看護を行う上でのリーダーシップ、メンバーシップの必要性を考える。
- ⑲ 師長業務見学を通し、各病棟における管理者の役割と看護管理の必要性を考える。
- ⑳ 病院における医療安全室・感染管理室での活動や病棟での取り組みを知ることで、組織的な安全管理の必要性を自己の行動の在り方を含めて考える。
- ㉑ 3年間の学びを振り返り学びを明確にする。
- ㉒ なりたい看護師像を明確にする。

3)実習計画

日程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
	12/3 火	12/4 水	12/5 木	12/6 金	12/9 月	12/10 火
学生A 学生B 学生C	オリエンテーション・個人面接 患者決定・情報収集 コミュニケーション	複数受け持ち 同行実習	複数受け持ち メンバー役割 実習	複数受け持ち メンバー役割 実習	夜間実習	複数受け持ち メンバー役割 実習
目標	①②③④	⑤⑥⑦	⑧⑨⑩	⑧⑨⑩	⑪⑫	⑬⑭⑮
カンファレンス	夜間実習オリエンテーション	実習グループ カンファレンス	病棟グループ カンファレンス	実習グループ カンファレンス	/	実習グループ カンファレンス
テーマ		複数患者を受け持つために必要なこと	* 学生間で決めたテーマ	メンバー役割で大切なこと		夜間実習で気づいたこと
提出物	課題と目標 看護技術経験録	前日の記録 情報整理用紙	前日の記録 情報整理用紙	前日の記録 情報整理用紙	前日の記録 情報整理用紙	夜間実習記録 情報整理用紙

日程	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目
	12/11 水	12/12 木	12/13 金	12/16 月	12/17 火	12/18 水
学生A	複数受け持ち メンバー役割 実習	複数受け持ち メンバー役割 実習	リーダー役割 同行実習	管理者役割 同行実習	安全対策室・ 感染対策室、 各種委員会 見学	個人面接
学生B			管理者役割 同行実習	安全対策室・ 感染対策室、 各種委員会 見学	リーダー役割 同行実習	
学生C			安全対策室・ 感染対策室、 各種委員会 見学	リーダー役割 同行実習	管理者役割 同行実習	
目標	⑭⑮⑯	⑭⑮⑯	リーダー：⑰⑱ 管理者：⑲ 安全室：⑳	リーダー：⑰⑱ 管理者：⑲ 安全室：⑳	リーダー：⑰⑱ 管理者：⑲ 安全室：⑳	㉑㉒
カンファレンス	病棟グループ カンファレンス	実習グループ カンファレンス	縦割り カンファレンス	縦割り カンファレンス	縦割り カンファレンス	学びの発表会
テーマ	* 学生間で決めた テーマ	複数患者を受け持つために必要なこと	* 1・2・3	* 1・2・3	* 1・2・3	
提出物	前日の記録 情報整理用紙	前日の記録 情報整理用紙 (最終提出)	前日の記録	前日の記録	前日の記録	前日の記録
			リーダー役割実習記録 管理者役割実習記録 院内組織見学実習記録			

* 実習9日目から11日までは、同じ実習内容の学生同士が集まってカンファレンスを行う。

7. 看護技術の到達と実施

面接時にどのような看護技術が体験できるかを教えてください。
未経験の看護技術を積極的に実施しましょう。
主体的な取り組みを期待します。

8. 提出物一覧

1) 次の順序で記録物をファイルし、インデックスをつけて提出する。

- ① 統合実習評価表
- ② ルーブリック
- ③ 統合実習総括表
- ④ 情報整理用紙(2名分)
- ⑤ 毎日の振り返り記録
- ⑥ 夜間実習記録(A4)
- ⑦ リーダー役割実習記録(A4)
- ⑧ 管理者役割実習記録(A4)

⑨ 院内組織見学実習記録(A4・2種)

2)実習中ポートフォリオ

9. その他

① 事前学習:実習内容を確認し、必要なことを学習しましょう。

② 夜間実習:

13:00～20:00

13:00～複数受け持ちの患者とコミュニケーションと情報収集(夜間に受ける処置や治療内容)

15:00～(1時間)休憩

16:00～20:00 夜間実習